

へいせい ねん どだい かいよこはまししょうがいしゃし さくすいしんきょうぎ かい  
平成29年度第1回横浜市障害者施策推進協議会

へいせい ねん がつ にち もく  
平成29年7月6日(木)

ごぜん じ じ ふん  
午前10時～12時00分

よこはましけんしゅうせんたー 301・302号室  
横浜市研修センター 301・302号室

し だい  
《次 第》

1 かい かい  
開 会

2 けんこうふくしきょくちょう あいさつ  
健康福祉局長あいさつ

3 ぎだい  
議題

しょうがいしゃしゅうろうけいはつじぎょう こうきょうしせつかつようじぎょう  
(1) 障害者就労啓発事業 (公共施設活用事業) について(1)  
じえいあーるかんないえきこうかした しりょう  
＜ J R 関内駅高架下 ＞ 資料1

しょうがいしゃしゅうろうけいはつじぎょう こうきょうしせつかつようじぎょう  
(2) 障害者就労啓発事業 (公共施設活用事業) について(2)  
うらふねふくごうふくししせつ しりょう  
＜ 浦舟複合福祉施設 ＞ 資料2

だい きよこはまししょうがいしゃぶらんちゅうかんみなおし  
(3) 第3期横浜市障害者プラン中間見直し

ぜんき ねんかん ふ かえ およ こうき ねんかん ほうこうせい しりょう  
～前期3年間の振り返り及び後期3年間の方向性について～ 資料3～7-2

4 そのた  
その他

しょうがいしゃしゅうろうけいはつじぎょう こうきょうしせつかつようじぎょう  
障害者就労啓発事業（公共施設活用事業）について（1）  
じえいあーるかんないえきこうかした  
< J R 関内駅高架下 >

1 趣旨

しょうがいしゃしゅうろうけいはつじぎょう こうきょうしせつかつようじぎょう へいせいねん しよつぷじ  
障害者就労啓発事業における公共施設活用事業では、平成4年にふれあいショップ事  
ぎょうかいし しょうがい かつた こよう ば そうしゆつ しみん けいはつ おこな  
業を開始し、障害のある方の雇用の場を創出するとともに、市民への啓発を行っています。  
へいせいねん がつまつ ほうじん じゆう てつたい じえいあーるかんないえききたぐちこうかした しよつぷ  
平成24年3月末に法人の事由により撤退した J R 関内駅北口高架下のふれあいショップに  
しょうがいしゃ しゅうろうしえん かん じぎょうなど じえいあーるかんないえききたぐちせいびじぎょうかんりようご  
ついては、障害者の就労支援に関する事業等として、J R 関内駅北口整備事業完了後も  
どうちく けいぞく ほうしん  
同地区にて継続する方針となっています。

たび ねんど ぼらりんびつ く ぼらとりえん な ーれどうねんかいさい よてい はいけい ご えい  
この度、32年度のパラリンピック・パラトリエナーレ同年開催の予定を背景に、その後も永  
ぞくてき きょうせいしゃかい すいしん しょうがいしゃ しゅうろうけいはつじぎょう いっかん しょうがいしゃ すぼーつや  
続的に共生社会を推進するため、障害者の就労啓発事業の一環として、障害者のスポーツや  
ぶんか げいじゆつかつどう きよ しせつ せいび ともな しん きうんえいじぎょうしゃ こうぼ おこな  
文化・芸術活動に寄与する施設を整備することに伴い、新規運営事業者の公募を行います。  
うんえいじぎょうしゃ たい しょうがいしゃ こよう はいりよ うえ ゆうしやうかしつけ おこな よてい  
なお、運営事業者に対しては障害者雇用に配慮した上で有償貸付を行う予定です。

2 経過

へいせいねん がつまつ ふうれあいしよつぷかもめかいしよ えぬびーおーほうじんよこほまして いくせいかい  
平成4年12月 ふれあいショップかもめ開所（NPO法人横浜市手をつなぐ育成会）  
へいせいねん がつまつ うんえいほうじん じゆう てつたい  
平成24年3月末 運営法人の事由により撤退

3 本協議会に諮る理由

ほんきやうぎかい はか りゆう  
じぎょうしゃ せんてい しょうがいしゃ こよう そうしゆつおよ ふ きゆうけいはつ ほんししょうがいしゃせさく  
事業者の選定にあたっては、障害者雇用の創出及び普及啓発により、本市障害者施策の  
すいしん きよ しょうがいしゃ きほんほうだい じゆうだい こう ごう さだ しょうがいしゃ かん せさく  
推進に寄与することから、障害者基本法第36条第1項2号に定める「障害者に関する施策の  
そうごうてき けいかくてき すいしん ひつよう じこう どうほうだい じょうだい こう もと じょうれい  
総合的かつ計画的な推進について必要な事項」であるため、同法第36条第3項に基づき条例で  
せつち ほんきやうぎかい はか  
設置された本協議会に諮ります。

4 選定方法について

(1) 選定委員会による審議など

じぎょうしゃせんてい せんもんてき しょうさい ちょうさまた どうぎ おこな ひつよう ほんきやう  
事業者選定においては、専門的かつ詳細な調査又は討議を行う必要があるため、本協  
ぎかい かぶ そしき せんてい いんかい せつち せんもんてき しんぎ せつち せんてい いんかい  
議会に下部組織（選定委員会）を設置し、専門的な審議をいただいた後、選定委員会におい  
せんしゆつ じぎょうしゃこうほ きやうぎかい さいしゆうてき しんぎ  
て選出された事業者候補を協議会において最終的に審議いただきます。

(2) 選定委員会開催期間

へいせいねん ど かいかいさい  
平成29年度（2回開催）

(3) 選定委員構成

がくしきけいけんしゃ めい しゃかいふくし けいざい ちいきふくし かんけいしゃ ろうどうぎやうせいけんけい べんごし こうにんかいけいし  
学識経験者2名（社会福祉、経済）、地域福祉関係者、労働行政関係、弁護士、公認会計士

5 スケジュール

へいせいねん がつまつ か ねんどだい かいよこほまししょうがいしゃせさくすいしんきやうぎかい ほんじつ  
平成29年7月6日 29年度第1回横浜市障害者施策推進協議会（本日）  
ねん がつまつ だい かいせんてい いんかいかいさい こうぼかいし  
29年8月 第1回選定委員会開催、公募開始  
がつまつ おうぼうけつけかいし  
9月 応募受付開始

がつ  
10月  
がつ  
11月

ぼしゅうしめきり  
募集締切

だい かいせんてい い いんかいがいさい  
第2回選定委員会開催

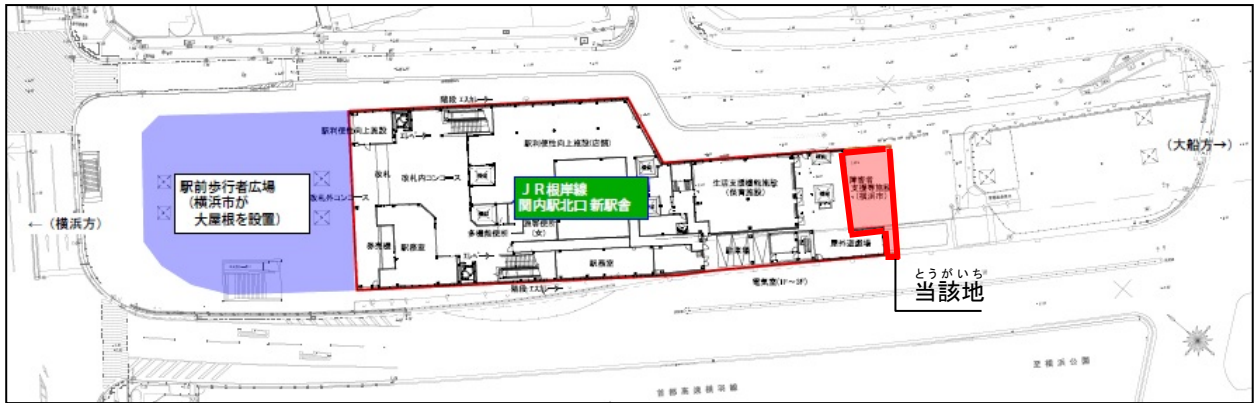
ねん ど だい かいよこはまししやうがいしやせきくすいしんきやうぎかい じぎやうしやせんてい  
29年度第2回横浜市障害者施策推進協議会(事業者選定)

6 公有財産の概要

しよさいち なかくみなとまち ちやうめ  
所在地：中区港町2丁目9-2

しきち めんせき へいほうめーとる  
敷地面積：102.32 m<sup>2</sup>

もよえき じえいあーるかんないえきげしや ぶん  
最寄り駅：J R 関内駅下車1分



しょうがいしゃしゅうろうけいはつじぎょう こうきょうしせつかつようじぎょう  
障害者就労啓発事業（公共施設活用事業）について（2）  
うらふねふくごうふくししせつ  
＜浦舟複合福祉施設＞

1 趣旨

平成29年3月の28年度第3回横浜市障害者施策推進協議会において、障害者就労啓発事業として南区にある浦舟複合福祉施設の一部について、契約満了に伴う新規事業者の公募を開始した旨説明しました。その後、5月に本会議の下部組織である「横浜市市有建物を活用した障害者雇用創出・就労啓発事業における運営事業者選定委員会」（以下、「委員会」という。）にて、運営事業者候補を選定しましたので、本会議にて審議します。

2 審議事項

運営事業者の決定

（運営事業者候補 サンクステンプ株式会社（現：パーソルサンクス株式会社））

3 委員会委員構成

まつい のぶ お がくしきけいけんしゃ ふくし	ぶんきょうがくいんだいがく きやくいんきょうじゅ
松為 信雄(学識経験者<福祉>)	文京学院大学 客員教授
かげやま ま こ や がくしきけいけんしゃ けいざい	よこはましりつだいがく きょうじゅ
影山 摩子弥(学識経験者<経済>)	横浜市立大学 教授
きよはら かつ や ちいきふくし かんけい	よこはましうらふねちいきけ あぶらぎ しょちょう
清原 轄家(地域福祉関係)	横浜市浦舟地域ケアプラザ 所長
さとう まさゆき ろうどうぎょうせい かんけい	よこはまこうきょうしよくぎょうあんていじょ じちょう
佐藤 正幸(労働行政関係)	横浜公共職業安定所 次長
もり かずお べんごし	よこはまししゃかいふくしきょうきかいしょうがいしゃしえんせんたーたんどうりじ ほんきょうぎかい いん
森 和雄(弁護士)	横浜市社会福祉協議会 障害者支援センター担当理事(本協議会委員)
あらい きよし こうにんかいけいし	あらい きよし こうにんかいけいし じむしょ
荒井 清志(公認会計士)	荒井清志公認会計士事務所

4 選定の経過

(1) 第1回委員会

ア 開催日時：平成29年2月8日 14:30～17:00

イ 場所：横浜市浦舟地域ケアプラザ

ウ 議題：

(ア) 募集要領の内容について

(イ) 運営事業者の選定方法について

(2) 第2回委員会

ア 開催日時：平成29年5月8日 10:00～11:30

イ 場所：K R Cビル6階大会議室

ウ 議題：

(ア) 選定基準の確認

(イ) 応募事業者（1社）からのプレゼンテーション及びヒアリング

(ウ) 採点及び集計

(エ) 運営事業者候補の選定

エ 選定内容

(ア) 各委員による採点  
 企画書等提出書類及びプレゼンテーション、ヒアリングにより採点。(50点満点)

(イ) 採点結果  
 (委員6名×50点=300点満点)

サンクステンブ株式会社 (現：パーソルサンクス株式会社) 257点

項目	配点	委員					
		A	B	C	D	E	F
理念及び応募理由 ・ 理念に即した応募理由となっているか。	5	5	4	5	5	5	5
事業実績等 ・ 提案した事業を確実に実施することができる、信用・実績があるか。	5	5	4	4	5	5	4
経営状況の安定性 ・ 財務状況が健全であるか。 ・ 安定的な資金調達能力があるか。	5	5	5	5	5	5	5
事業概要 ・ 事業全体の3年後及び5年後の中期的な見通しを 描けているか。	5	5	3	4	4	3	4
事業計画の実現性 ・ 各年度の事業のスケジュール及び内容は実現可能な ものか。 ・ 事業計画と収支計画の整合性が図られており、現実 的であるか。	5	4	2	4	4	4	5
障害者への配慮 ・ 障害の特性に配慮した事業内容、体制(労務環境、 人材育成等を含む)、設備か。 ・ 障害者雇用促進法の合理的配慮の考えが提示され ているか。	10	10	8	10	8	10	10
地域連携 ・ 地域の状況や特性を把握しているか。 ・ 事業の中でいかに地域や関係機関と連携するか、 具体的に書かれているか。	5	4	3	4	4	4	4
普及啓発・地域貢献 ・ 普及啓発の取組により、市民・企業等への障害理解 の促進を期待できるか。 ・ 地域貢献に対する考え方が提示されているか。	10	8	6	8	8	8	8

しょうけい 小計	50	46	35	44	43	44	45
ごうけい 合計	300	257					

- ※ いずれかの審査項目の評価点が最低点（1点）と評価された応募者は、得点の如何に関わらず失格。
- ※ 審査項目の合計点数（300点）が最低制限基準（6割(180点)）に満たない場合は失格。
- ※ 応募者が1者であっても、ア又はイとなった場合は選定されず、再度公募を行う。

## 5 スケジュール

平成28年10月26日	28年度第2回横浜市障害者施策推進協議会（下部組織設置の承認）
29年2月8日	第1回委員会開催（募集要領及び選定方法の審議）
3月29日	応募受付開始
3月30日	28年度第3回横浜市障害者施策推進協議会（経過報告）
4月11日	応募締切
5月8日	第2回委員会開催（事業者候補選定）
7月6日	29年度第1回横浜市障害者施策推進協議会（事業者決定）
30年4月	契約締結・貸付開始

### [参考]現在の事業者による運営状況

- 1 障害者雇用人数  
約70名（主に知的障害者だが、身体・精神も）
- 2 業務内容  
グループの人材派遣スタッフに配布する記念品としてのクッキーを製造
- 3 建物及び対象スペース  
  - ・浦舟複合福祉施設（12階建、南区浦舟町、旧市大病院）
  - ・対象スペースは9階の一部で床面積は約730 m<sup>2</sup>
- 4 現事業者  
  - ・パーソルサンクス株式会社
  - ・パーソルホールディングス株式会社（人材派遣業）の特例子会社
  - ・当初サンクスステップ株式会社だったが、6月に社名変更



たてものがいかん  
<建物外観>



さぎょうようす  
<作業の様子>

第3期横浜市障害者プラン中間見直し

～前期3年間の振り返り及び後期3年間の方向性について～

1 主旨

6年を計画期間として策定している「第3期横浜市障害者プラン」について、3年が経過するため、中間見直しを行います。また「障害福祉計画」に係る部分については後期3年間の障害福祉におけるサービスごとに必要な利用の見込み量を設定します。

次期「障害福祉計画」の3年間のサービス見込み量については、障害者総合支援法・児童福祉法をはじめとした関係法令の改正法令等及び「障害福祉計画」に係る国の基本指針等の内容を踏まえ設定します。

2 進捗及び今後のスケジュール（予定）

日程	内容	内容
4月～5月	ニーズ把握 (当事者ワーキング・関係者団体グループインタビュー)	<p>◇当事者ワーキング</p> <p>テーマ1：4月19日（水）、テーマ2：4月26日（水）、 テーマ3：4月28日（金）、テーマ4：5月9日（水）、 テーマ5：5月11日（木） &lt;の延べ参加者数：約80人&gt;</p> <p>◇関係者団体グループインタビュー</p> <p>4月14日（金） 横浜市知的障害関連施設協議会 4月15日（土） 横浜市心身障害児者を守る会連盟 4月25日（火） 横浜市精神障害者家族連合会 横浜市身体障害者団体連合会 4月26日（水） 横浜市障害者地域作業所連絡会 4月28日（金） 横浜市地域活動ホーム連絡会 5月10日（水） 横浜市グループホーム連絡会 5月12日（金） 横浜市精神障害者地域生活支援連合会</p>
6月9日（金）	前期3年の振り返り・後期3年の方向性検討	横浜市自立支援協議会
6月12日（月）		第1回障害者施策検討部会
7月6日（木）		第1回横浜市障害者施策推進協議会
9月初旬	「障害福祉計画」に係るサービス見込み量の改定案報告	第2回障害者施策検討部会
9月中旬～10月中旬		<ul style="list-style-type: none"> <li>市民意見募集</li> <li>市民説明会・関係者団体説明</li> </ul>
11月	市民意見等報告	<p>横浜市自立支援協議会</p> <p>第3回障害者施策検討部会</p> <p>第2回横浜市施策推進協議会</p>
1月	「第3期横浜市障害者プラン改訂版」報告	第4回障害者施策検討部会
2月		<p>横浜市自立支援協議会</p> <p>第3回横浜市障害者施策推進協議会</p>



しょうがいふくしけいかく かか くに きほんしん がいよう  
「障害福祉計画」に係る国の基本指針（概要）

しょうがいしゃそうごうしえんぽう およ じどうふくしほう しゅじどう ふ しょうがいしゃとう ちいきせいかつ しえん  
「障害者総合支援法」及び「児童福祉法」の趣旨等を踏まえ、障害者等の地域生活を支援する  
ためのサービス基盤整備等に係る平成32年度末の目標を設定するとともに、「障害福祉計画」の  
作成に当たって即すべき事項を定め、障害福祉サービス及び相談支援並びに地域生活支援事業及び  
しょうがいじつうしょしえんとう ていきょう たいせい かくほ そうごうてき けいかくてき はか  
障害児通所支援等を提供するための体制の確保が総合的かつ計画的に図られるようにすることを  
もくてき  
目的としています。

おも かいせいてん  
主な改正点

1 ちいききょうせいしゃかい じつげん きてい せいび  
1 地域共生社会の実現のための規定の整備

ちいき じゅうみん ささ て て わ ちいき くらし い  
地域のあらゆる住民が「支え手」と「受け手」に分かれるのではなく、地域、暮らし、生き  
がいとともに創り、高めあうことができる「地域共生社会」の実現に向けた取組等を計画的  
すいしん さだ  
に推進することを定める。

2 せいしんしょうがいしゃ たいおう ちいきほうかつけ あしすてむ こうちく  
2 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築

せいしんしょうがいしゃ ちいき いちいん あんしん じぶん く せいしん  
精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、精神  
しょうがい はったつしょうがいおよ こうじのうきのうしょうがい ふく たいおう ちいきほうかつけ あしすてむ こうちく  
障害（発達障害及び高次脳機能障害を含む）にも対応した地域包括ケアシステムの構築に  
さだ  
ついて定める。

3 しょうがいじえん ていきょうたいせい けいかくてき せいび  
3 障害児支援の提供体制の計画的な整備

しょうがいしゃそうごうしえんぽうおよびじどうふくしほう いちふかいせい ともな じどうはったつしえんせんたー ちゅうしん  
障害者総合支援法及び児童福祉法の一部改正に伴い、児童発達支援センターを中心とし  
ちいきしえんたいせい こうちく いりょうてきに ーす たいおう めざ いりょうてきけ あじしえん  
た地域支援体制を構築することや、医療的ニーズへの対応を目指し、医療的ケア児支援のため  
ほけん いりょう しょうがいふくし ほいく きょういくとう かんけいきかん きょうぎ は せっちとう さだ  
の保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関との協議の場の設置等を定める。

4 はったつしょうがいしゃしえん いっそう じゅうじつ  
4 発達障害者支援の一層の充実

はったつしょうがいしゃ しえん たいせい せいび はか はったつしょうがいしゃしえんちいききょうぎかい せっち じゅうようせい  
発達障害者の支援の体制の整備を図るため、発達障害者支援地域協議会の設置の重要性  
とう さだ かのう かぎ みじか ばしょ ひつよう しえん とう はったつしょうがいしえんせんたー  
等を定め、可能な限り身近な場所に必要な支援を受けられるよう発達障害支援センターの  
ふくすうせっちとう てきせつ はいりょ おこな  
複数設置等の適切な配慮を行う。

5 しょうがいふくし さーび すどうおよ しょうがいじつうしょしえんとう ていきょうたいせい かくほ かか もくひょう せつてい  
5 障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の提供体制の確保に係る目標の設定

6 ふくしせつ にゅうしょ ちいきせいかつ いこう  
(1) 福祉施設の入所の地域生活の移行

- へいせい ねんどまつしせつにゅうしやすう ぱーせんといじょう ちいきいこう  
平成28年度末施設入所数の9%以上を地域移行
- へいせい ねんどまつしせつにゅうしやすう ぱーせんといじょう さくげん  
平成28年度末施設入所者数の2%以上を削減

こうれいか じゅうしょうか はいけい もくひょうせつてい  
※ 高齢化・重症化を背景とした目標設定



(2) **精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築**

- ・保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置
- ・精神病床における1年以上長期入院患者数の目標値を設定
- ・入院後3か月69 % 以上、入院後6か月以上84 % 以上、入院後1年以上90 % 以上の退院率の目標値を設定

(3) **地域における生活の維持及び継続の推進**

平成32年度末までに障害者の地域での生活を支援する拠点等を少なくとも一つ整備することを基本とする。

(4) **福祉施設から一般就労への移行等**

- ・就労移行支援事業等を通じた一般就労への移行者数を平成28年度実績の1.5倍以上とする
- ・就労移行支援事業の利用者数を平成28年度実績から2割以上増加することをめざす
- ・就労移行率3割以上である就労移行支援事業所を全体の5割以上とすることをめざす
- ・各年度における就労定着支援による支援開始から1年後の職場定着率を80 % 以上とする

(5) **障害児支援の提供体制の整備等**

- ・児童発達支援センターを1か所以上設置すること
- ・保育所等訪問支援を利用できる体制を構築すること
- ・重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び放課後デイサービス事業所を少なくとも1か所以上確保すること
- ・医療的ケア児の支援のため、保健、医療、障害福祉、教育等の関係機関等が連携を図るための協議の場を設置すること

(6) **その他**

- ・障害者虐待の防止、養護者に対する支援
- ・障害を理由とする差別の解消の推進
- ・難病患者等本人に対して必要な情報の一層の周知
- ・意志決定支援、成年後見制度の利用促進の在り方

# よこはまし かくしょうがいしゃてちょうとうとうけい すいひ 横浜市の各障害者手帳等統計の推移

## (1) 横浜市の障害者手帳所持者数について

よこはましはつこう かくしょうがいしゃてちょう しんたいしょうがいしゃてちょう あい てちょう りょういくてちょう せいしんしょうがい  
横浜市発行の各障害者手帳（身体障害者手帳・愛の手帳（療育手帳）・精神障害  
者保健福祉手帳）の平成29年3月末時点での所持者数の合計は、約16万人（横浜市全  
たいじんこう ひ ばーせんと  
体人口比で4.28%）となっています。

ひょう 1 によると、てちょうしよじしやすう ねん やく まん せんにん げんざい やく まん せん  
表1によると、手帳所持者数は、24年の約13万9千人から、現在までに、約2万1千  
人増加し（増加率約14.8%）、所持者数が伸びていることが分かります。

また、ひょう 2 からわかるように、しょうがいしゃてちょうしよじしやすう ぞうかりつ すうねん  
表2からわかるように、障害者手帳所持者数の増加率については、ここ数年2  
%から4%の間で推移しており、よこはましじんこう ぞうかりつ くら おお  
%から4%の間で推移しており、横浜市人口の増加率と比べても大きいことか  
ら、しょうがいしゃてちょうしよじしや わりあい ぶん こんご しょうがいしゃてちょうしよじしやすう わりあい  
ら、障害者手帳所持者の割合が増えてきています。今後も障害者手帳所持者数の割合  
は増えていくことが推測されます。

ひょう 表1 よこはましじんこう しょうがいしゃてちょうしよじしやすう ひかく  
横浜市人口と障害者手帳所持者数の比較

がつかまつてん よこはましじんこう がつ ひじてん い かどうよう にん  
(3月末時点、ただし、横浜市人口のみ4月1日時点。以下同様) (人)

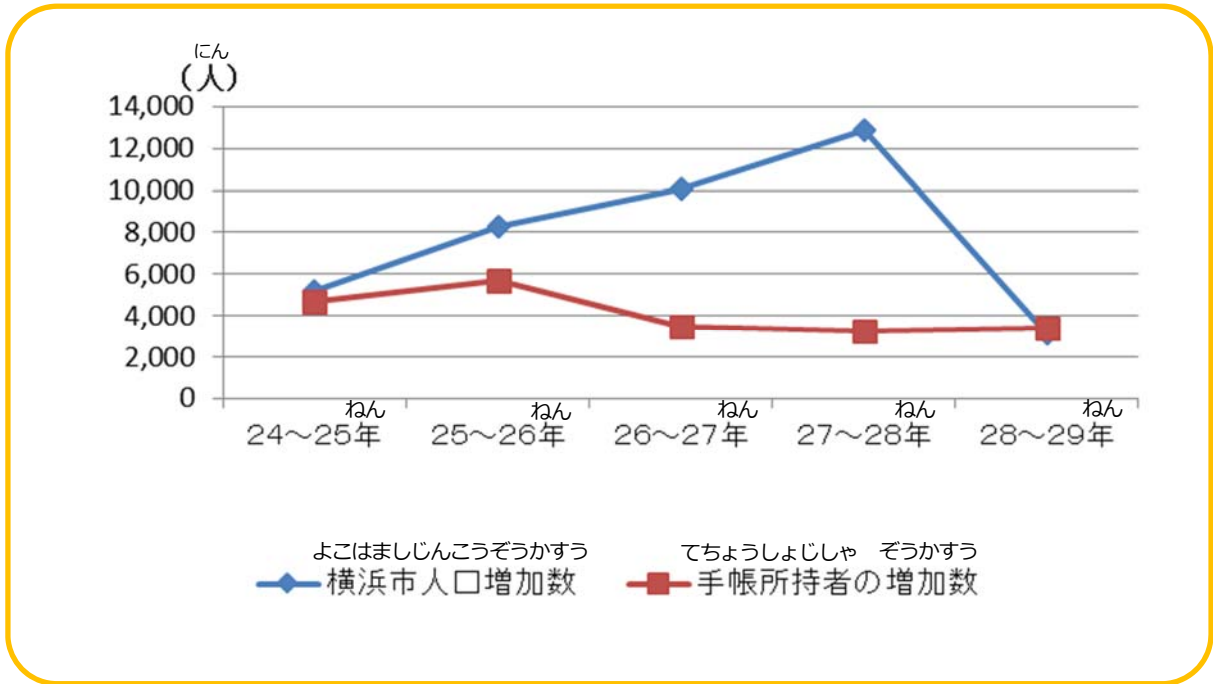
	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
よこはましじんこう 横浜市人口	3,688,624	3,693,788	3,702,093	3,712,170	3,725,042	3,728,124
しんたいしょうがいしゃ 身体障害者	94,291	96,114	98,706	99,120	99,199	99,356
ちてきしょうがいしゃ 知的障害者	21,864	23,005	24,171	25,447	26,712	27,958
せいしんしょうがいしゃ 精神障害者	22,785	24,538	26,475	28,285	30,225	32,249
てちょうしよじしやせんたい 手帳所持者全体	138,940	143,657	149,352	152,852	156,136	159,563
よこはましじんこう しょうがいしゃ 横浜市人口における障害者 てちょうしよじしやすうわりあい 手帳所持者数割合	3.77%	3.89%	4.03%	4.12%	4.19%	4.28%

ひょう 表2 よこはまし じんこう しょうがいしゃてちょう しよじしや すう ぞうかすう ひかく  
横浜市人口と障害者手帳所持者数の増加数の比較

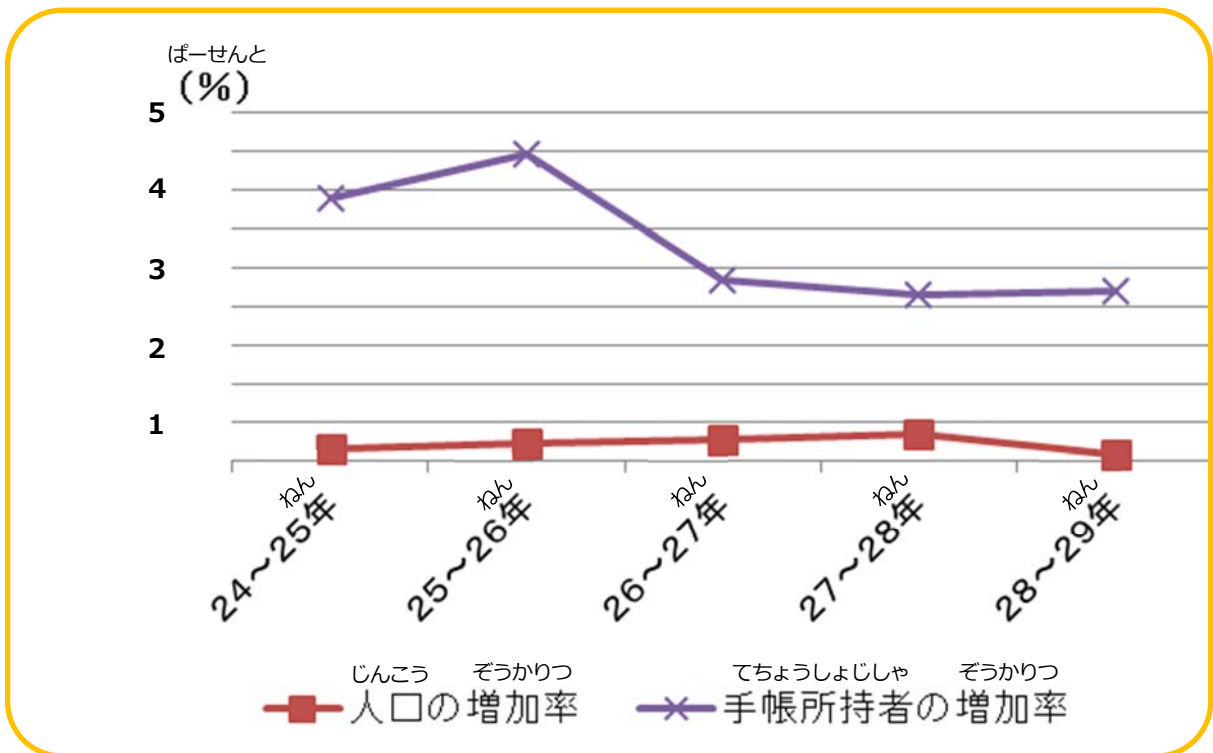
にん (人)

	ねん 24～25年	ねん 25～26年	ねん 26～27年	ねん 27～28年	ねん 28～29年
よこはまし じんこう ぞうかすう 横浜市人口増加数	5,164	8,305	10,077	12,872	3,082
ぞうかりつ (増加率)	(0.14%)	(0.22%)	(0.27%)	(0.35%)	(0.08%)
てちょう しよじしや ぞうかすう 手帳所持者の増加数	4,717	5,695	3,500	3,284	3,427
ぞうかりつ (増加率)	(3.39%)	(3.96%)	(2.34%)	(2.15%)	(2.19%)

ず 1 し じんこう てちようしょじしゃ そうかすう  
図1 市人口と手帳所持者の増加数



ず 2 し じんこう てちようしょじしゃ そうかりつ すい  
図2 市人口と手帳所持者の増加率の推移



しょうがいべつ じょうきょう  
**(2)障害別の状況**

しんたいしょうがいしやてちょう  
**ア 身体障害者手帳**

ひょう 表 3 によると、てちょうしよじしやすう 手帳所持者数は、したふじゆう 肢体不自由が最も多く、つ 次いで、ないぶしょうがい 内部障害となつています。

また、ひょう 表 4 からわかるように、てちょうしよじしやすう 手帳所持者数は、さいみまん 18歳未満の人数が横ばい、さい 18歳から さいみまん 65歳未満の人数が減少しているのに対して、さいいじょう 65歳以上の人数は、ねんねんぞうか 年々増加しています。

ひょう 表 3 身体障害者手帳 障害状況 別推移

かくとし 各年 3月末時点 (人)

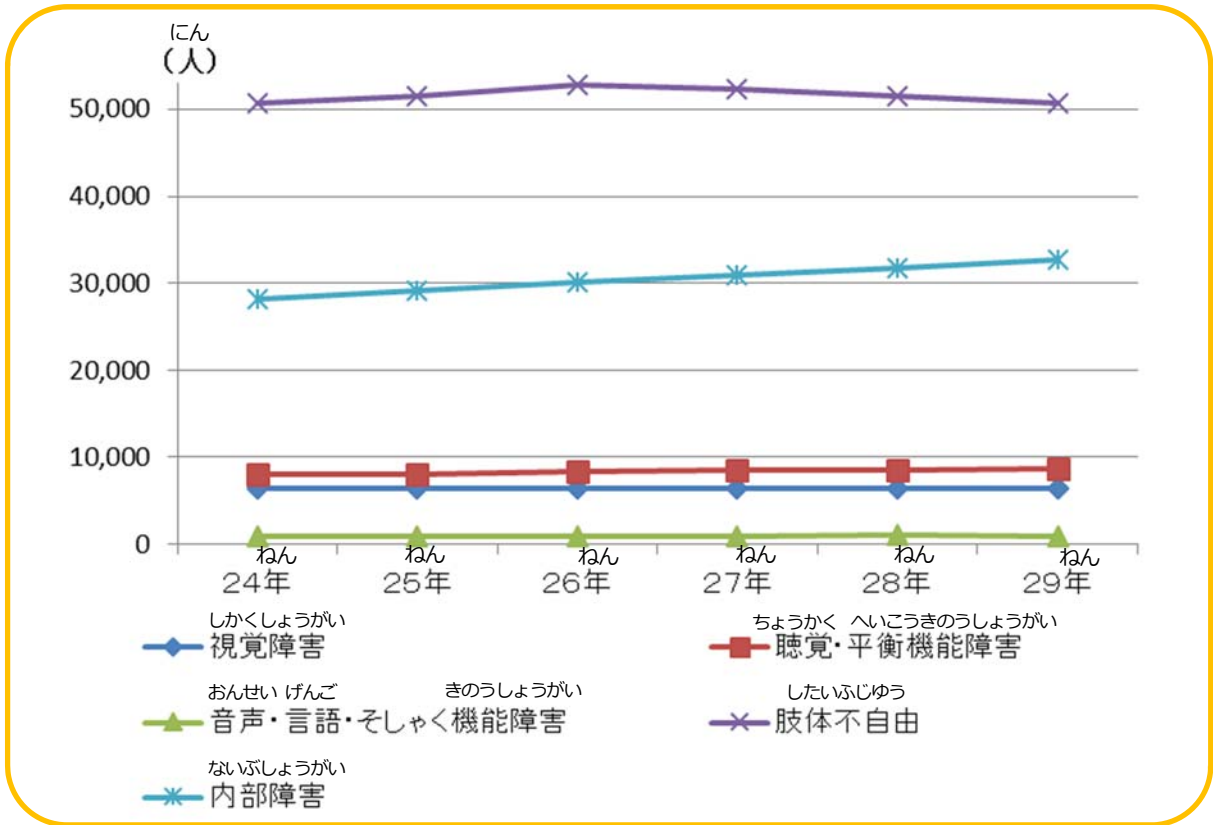
	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
しかくしょうがい 視覚障害	6,400	6,441	6,435	6,447	6,397	6,370
ちょうかく へいこう きのう しょうがい 聴覚・平衡機能障害	7,987	8,083	8,321	8,452	8,585	8,643
おんせい げんご きのう しょうがい 音声・言語・そしゃく機能障害	946	957	964	982	993	979
したふじゆう 肢体不自由	50,706	51,519	52,813	52,284	51,420	50,669
ないぶ しょうがい 内部障害	28,252	29,114	30,173	30,955	31,804	32,695
けい 計	94,291	96,114	98,706	99,120	99,199	99,356

ひょう 表 4 身体障害者手帳所持者数 年齢別推移

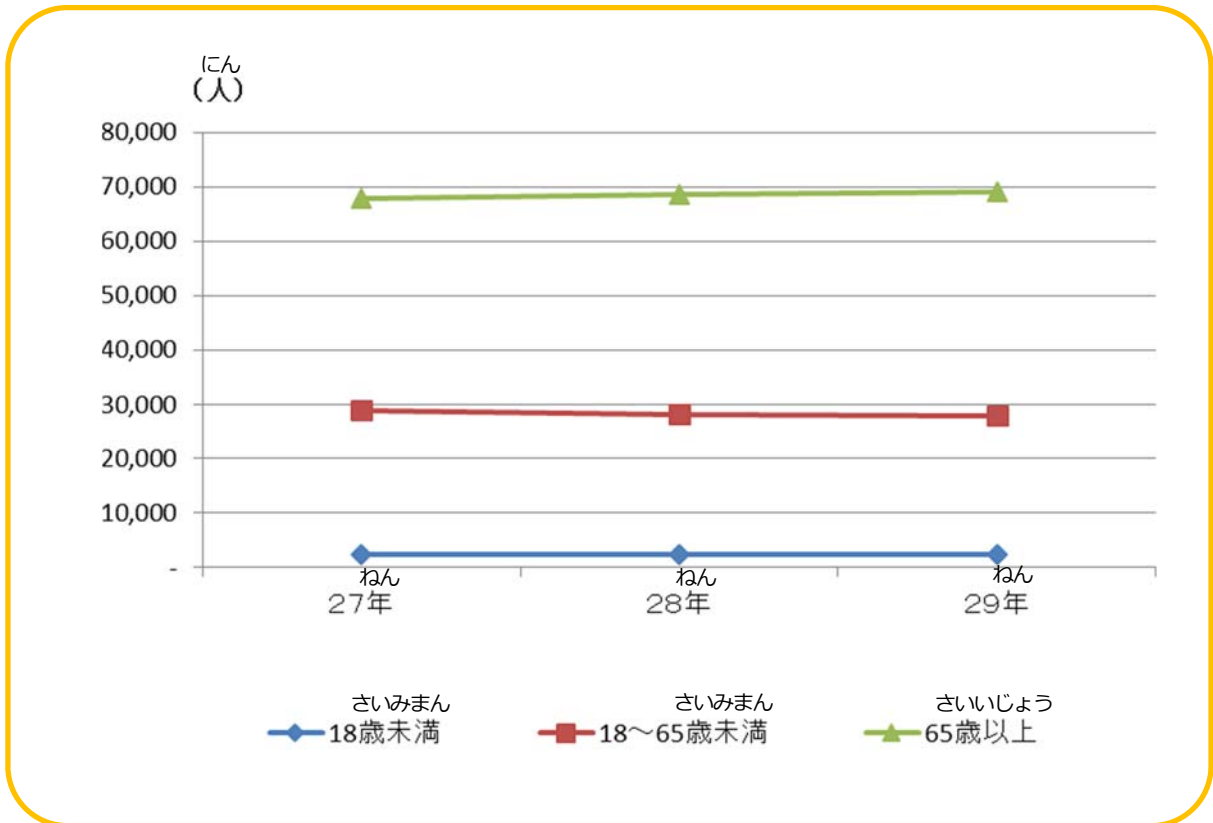
かくねんど 各年度 3月末時点 (人)

	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
さいみまん 18歳未満	2,423	2,425	2,469	2,426	2,428	2,397
(下段：全体に占める割合)	(2.6%)	(2.5%)	(2.5%)	(2.4%)	(2.4%)	(2.4%)
さいみまん 18～65歳未満	30,332	29,702	29,509	28,823	28,193	27,903
(下段：全体に占める割合)	(32.2%)	(30.9%)	(29.9%)	(29.1%)	(28.4%)	(28.1%)
さいいじょう 65歳以上	61,536	63,987	66,728	67,871	68,578	69,056
(下段：全体に占める割合)	(65.3%)	(66.6%)	(67.6%)	(68.5%)	(69.1%)	(69.5%)
けい 計	94,291	96,114	98,706	99,120	99,199	99,356

す 図3 身体障害者 障害状況別推移  
 身体障害者 障害状況別推移



す 図4 身体障害者 年齢別推移  
 身体障害者 年齢別推移



あい てちょう りょういくてちょう  
**イ 愛の手帳(療育手帳)**

ひょう ねん がつまつじてん ねん くら せんになん いじょう ふ なか  
 表 5によると、29年3月末時点では、24年と比べ、6千人以上 増えています。中  
 も、B 2の手帳を所持している方が、約4千人と、全体の増加数の約6割5分を占めてい  
 ます。

また、表 6からわかるように、全体の所持者数における各年齢の所持者数の割合は、  
 この6年間を通して、ほぼ横ばいとなっています。

ひょう あい てちょう しょうがいていど べつ すい  
**表 5 愛の手帳 障害程度別推移**

かくなん がつまつ じてん になん  
 各年3月末時点 (人)

	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
えー A 1	4,502	4,629	4,775	4,908	4,995	5,087
えー A 2	4,487	4,617	4,706	4,799	4,923	5,040
びー B 1	5,004	5,164	5,366	5,646	5,843	6,009
びー B 2	7,871	8,595	9,324	10,094	10,951	11,822
けい 計	21,864	23,005	24,171	25,447	26,712	27,958

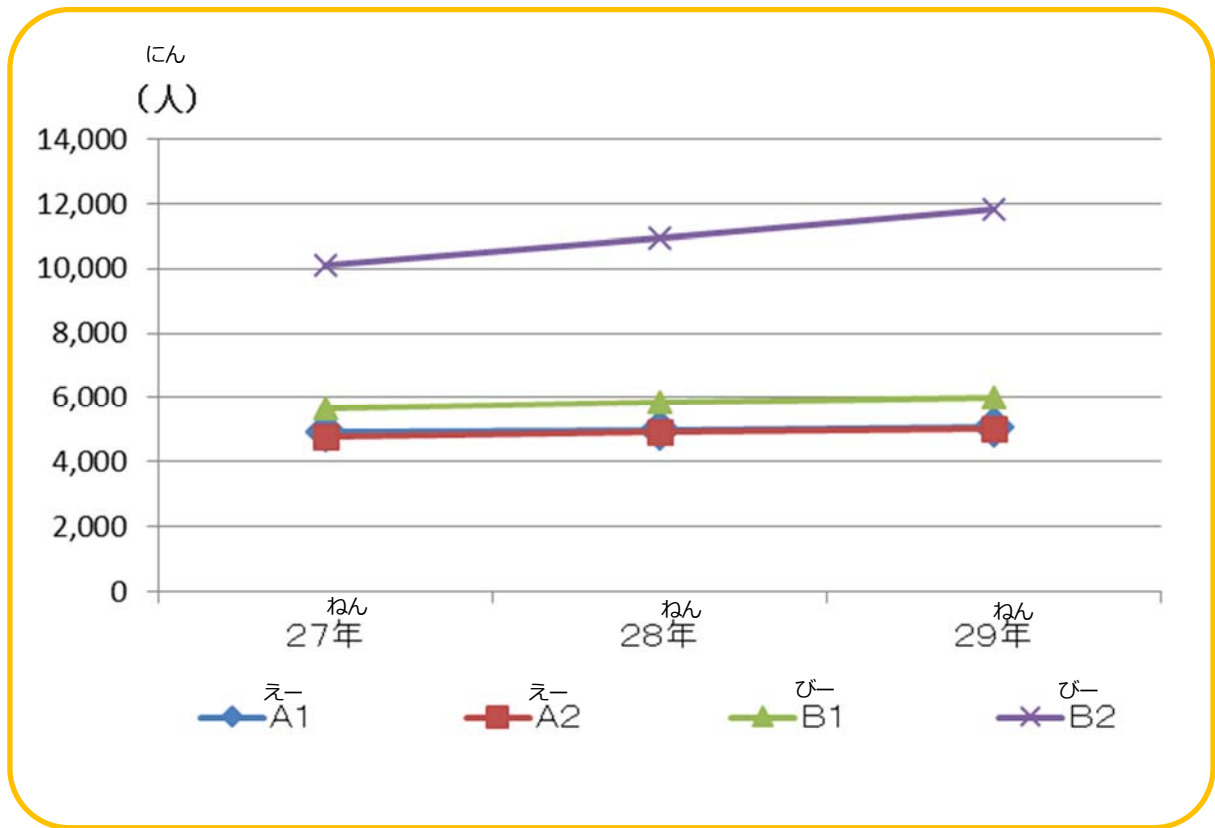
※参考 A 1…IQ 20以下、A 2…IQ 21～35、B1…IQ36～50、B2…IQ51～75

ひょう あい てちょう しょうじしゃ すう ねんれいべつ すい  
**表 6 愛の手帳所持者数の年齢別推移**

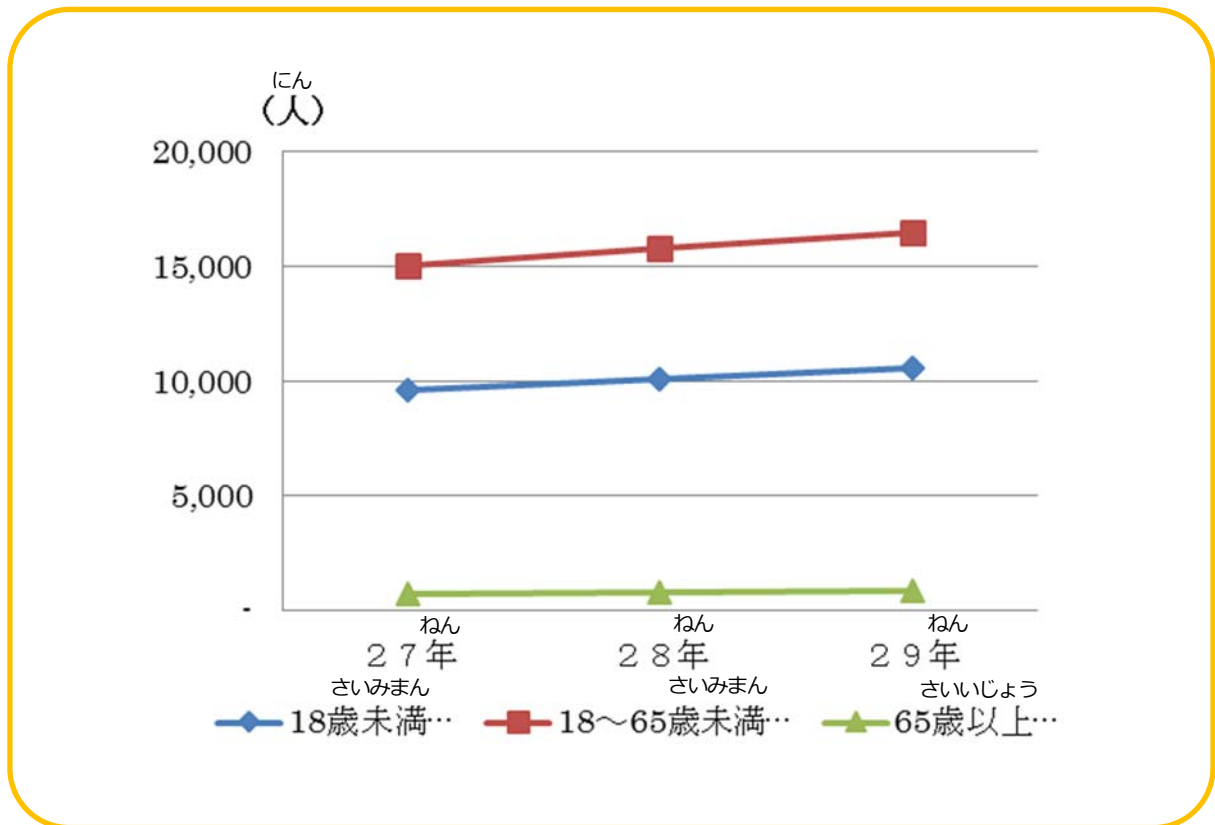
かくなん がつまつ じてん になん  
 各年3月末時点 (人)

	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
さいみまん 18歳未満	8,315	8,761	9,172	9,646	10,141	10,612
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(38.0%)	(38.1%)	(37.9%)	(37.9%)	(38.0%)	(38.0%)
さいみまん 18～65歳未満	13,010	13,636	14,312	15,058	15,746	16,485
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(59.5%)	(59.3%)	(59.2%)	(59.2%)	(58.9%)	(59.0%)
さいいじょう 65歳以上	539	608	687	743	825	861
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(2.5%)	(2.6%)	(2.8%)	(2.9%)	(3.1%)	(3.1%)
けい 計	21,864	23,005	24,171	25,447	26,712	27,958

す  
図5 あい てちょう りょういくてちょう  
愛の手帳 (療育手帳)



す  
図6 あい てちょう りょういくてちょう  
愛の手帳 (療育手帳)





せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう  
**ウ 精神障害者保健福祉手帳**

しんたいしょうがい ちてきしょうがい せいしんしょうがい しょうがい てちょうしょじしゃ ねんかん  
 身体障害・知的障害・精神障害の3障害の手帳所持者のうち、この5年間でもつ  
 とも増加してきているのが、精神障害です。表7からわかるように、平成29年3月末  
 時点では、24年と比べ、9千人以上増えており、特に2級が約5千5百人（約1.4  
 倍）増えています。

また、表8からわかるように、手帳所持者数は、20歳～65歳未満の人数が大きく増加  
 してきている傾向に対し、20歳未満の人数は、ほぼ横ばい、65歳以上の所持者数は、  
 若干の増加という傾向となっています。

ひょう せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう とungskyūべつ すいい 各ねん がつまつじてん にん  
**表7 精神障害者保健福祉手帳 等級別推移** 各年3月末時点（人）

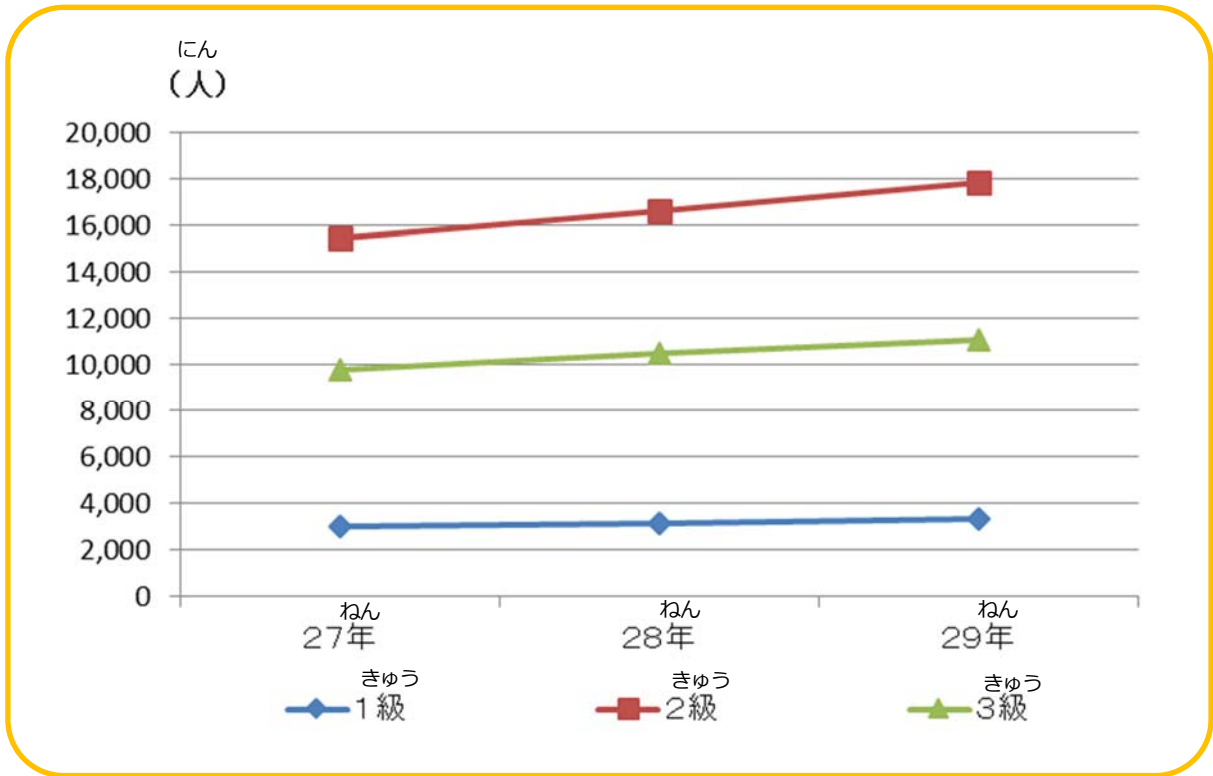
	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
きゅう 1級	2,669	2,694	2,870	2,994	3,118	3,308
きゅう 2級	12,387	13,399	14,497	15,477	16,623	17,844
きゅう 3級	7,729	8,445	9,108	9,814	10,484	11,097
けい 計	22,785	24,538	26,475	28,285	30,225	32,249

ひょう せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう しょうじしゃ ねんれいべつ すいい 各ねん がつまつじてん にん  
**表8 精神障害者保健福祉手帳所持者の年齢別推移** 各年3月末時点（人）

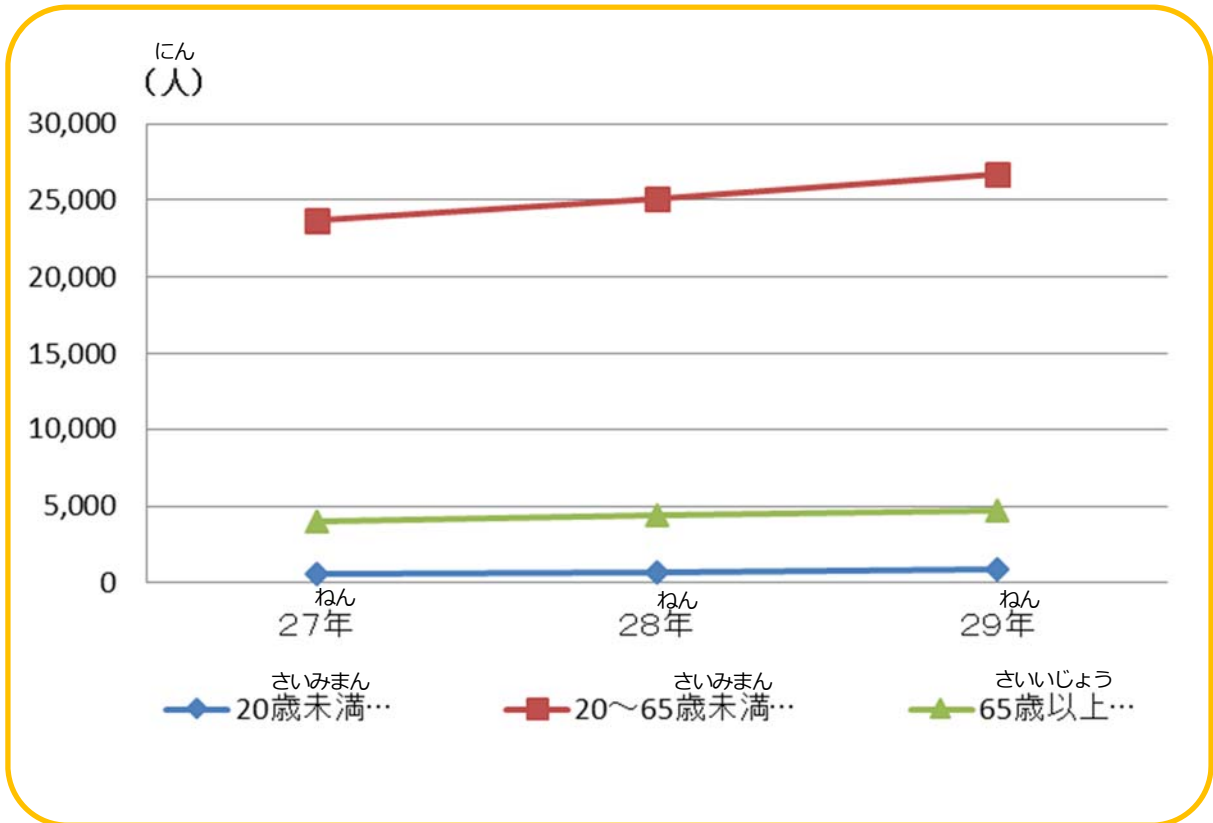
	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
さいみまん 20歳未満	298	408	493	596	727	869
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(1.3%)	(1.7%)	(1.9%)	(2.1%)	(2.4%)	(2.7%)
さいみまん 20～65歳未満	19,663	20,952	22,355	23,682	25,126	26,666
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(86.3%)	(85.4%)	(84.4%)	(83.7%)	(83.1%)	(82.7%)
さいいじょう 65歳以上	2,824	3,178	3,627	4,007	4,372	4,714
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(12.4%)	(13.0%)	(13.7%)	(14.2%)	(14.5%)	(14.6%)
けい 計	22,785	24,538	26,475	28,285	30,225	32,249

せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう さいみまん どうけい と さいみまん  
 ※精神障害者保健福祉手帳については、18歳未満での統計を取っていないため、20歳未満としています。

ず せいしんしょうがいしゃ とうきゅうべつすい  
**図7 精神障害者 等級別推移**



ず せいしんしょうがいしゃ ねんれいべつすい  
**図8 精神障害者 年齢別推移**



さん こう  
【参 考】

しょうがいしゃ ぷらん ちゅうかんふり かえ む どうじしゃ わーきんぐ どうじしゃどうし いけんこうかん およ  
障害者プラン中間振り返りに向けた「当事者ワーキング（当事者同士の意見交換）及び  
しょうがいしゃ かんけいだんたい など ぐるーぷいんたびゅー おも ごいけん  
障害者関係団体等へのグループインタビューでいただいた主な御意見



ぶらん とりくみ こうもく  
◇プラン取組項目

とりくみ ふきゅう けいはつ  
◇取組 1 - 1 普及・啓発

No.	ご 意 見
1	身体障害を肢体・視覚・聴覚で分けて検討するべき。
2	障害者・健常者では繋がる感覚が違う。小さい頃から気づきが必要。
3	幼稚園から障害のある人ない人が一緒に学べる環境にすればよい。
4	障害理解を言葉だけで進めるだけでは難しい。交流や体験を通じて学ぶことが大切。
5	障害者 = かわいそうという教育はやめてほしい。
6	耳が聞こえないとはどういう事が福祉体験を増やしてほしい。
7	小学校低学年で障害者特性を学ぶ機会を作してほしい。
8	障害者と言葉を話すだけでなく、運動会など一緒にの行事を増やして交流したほうがよい。
9	健常者の見方が変わったら、障害者もいなくなる。
10	全員が手話を使えるようになってほしい。
11	各障害者団体の広報を定期的に広報誌に載せてほしい。
12	全体の中で、視覚障害が遅れている。プランも視覚障害者に具体的な計画になっていない。
13	手話でなくても身振りでコミュニケーションがとれる周知をしてほしい。
14	コミュニケーションについてプランに意図的に触れていない。
15	耳が聞こえない人が存在する事を知ってほしい。そういう施策を展開してほしい。
16	難聴だとしゃべれるので、理解してもらえなくトラブルが多い。
17	コミュニケーション機器を広く普及してほしい。

とりにくみ 取組 1 - 1 普及・啓発	
No.	ご 意 見
18	せいしんしょうがい はったつしょうがい、ちようかくしょうがい 精神障害や発達障害、聴覚障害など、め み しょうがい 目に見えない障害についてもちいき みちか ば 地域の身近な場で（例えば各区のちいきほうかつしえん せんたー 地域包括支援センターによるケアプラザなど）けあぷらざ しょうがいりかい しょうがいりかい しょうがいりかい しょうがいりかい しょうがいりかい しょうがいりかい しょうがいりかい しょうがいりかい しょうがいりかい しょうがいりかい の障害理解のための交流の機会を設ける事業を行ってください。
19	であ ば すく 出会いの場が少ない。ボーイフレンドが欲しい。ほーいふれんど ほ
20	しょうちゅうがっこうじだい けんじょうしゃ だれ たす 小中学校時代に健常者にいじめられ誰にも助けてもらえず先生は気づかず思い出すと辛い。いじめがなくなる世の中にしてほしい。せんせい き おも だ つら よ なか
21	こうきょうこうつうきかん しょくいん やさ 公共交通機関の職員さんがもっと優しくしてくれるといい。
22	まち なか さべつ め み 街の中で差別の目で見られているのではないか、しょうがい りかい 障害を理解されているのか不安になるときがある。ふあん
23	むかし りかい ふか 昔より理解が深まっているように感じる。かん
24	そうだん ともだち 相談にのってくれる友達がほしい。
25	いろいろ ひと し あ 色々な人と知り合うための機会がほしい（パーティーなど）。きかい ぱーてぃー
26	じちかい じゅうみん あつ ば しょうがいりかい べんきようかい だま しょうがい 自治会や住民の集まりの場で障害理解勉強会や出前講座を行ってもらうよう推進する。おこな すいしん
27	ちいき かた しょうがいけいはつ はっしん ば すく 地域の方に障害啓発を発信する場が少ない。
28	ちいき けいはつ ば すく 地域啓発ができる場が少ない。
29	しょうがいしゃ ふつう せいかつ こと つた 障害者も普通の生活をしている事を伝えてほしい。
30	がいしゅつ とき りかい め む 外出する時には理解のない目を向けられる事がある。こと
31	まえ まえ あたり前のことが、あたり前になるようなプランにしてほしい。ぶらん
32	しょうがいふくし ふれーむ こ おうだんてき しく 障害福祉のフレームを超えた横断的な仕組みを。
33	ぐるーぷほーむ はっしん ば グループホームの発信の場がない。
34	ちてき こ のうりよく の けいはつ 知的な子の能力をもっと伸ばす啓発を。
35	しょうちゅうがっこう さぎょうじょ ぐるーぷほーむ まわ いべんと 小中学校が作業所やグループホームを回るイベントを。
36	へるがまーく ふきゅう ヘルプマークの普及を。

とくみ ふきゆう けいはつ ◇取組 1 - 1 普及・啓発	
No.	ご 意 見
37	ぐるーぷほーむ しょうがくせい ほらんでいあ けいけん グループホームで小学生のボランティア経験を。
38	なつやす しゅくだい ぐるーぷほーむ すたんぷらりー 夏休みの宿題でグループホームのスタンプラリーを。
39	か もの ちようかしくようがい わ ひと おお ひつだん ねが りかい き ひと こうわ あいて はなし りかい 買い物のときなど、聴覚障害があることが分からない人が多く、筆談をお願いしても理解されない。聞こえない人は口話で相手の話が理解できる が、マスクをしていると分からない。知ってもらうためのPRが大切。
40	けいじさいはん さいはんいん せいど でき ようやく ひつぎ もと けーす みんじ さいはん ようやく ひつぎ もと けーす な き ようやく ひつぎ どうしや わ 刑事裁判は裁判員制度が出来て要約筆記を求めるケースがあるが、民事裁判では要約筆記を求めたケースが無いと聞いている。当事者が分かったふ りや、我慢をしているのではないかと思う。コミュニケーションのツールとして手話は浸透しているが、要約筆記があるという事をPRしていか ないといけないと思う。
41	とも い こうりゆう おな くうかん す 共に生きることは交流することでなく、同じ空間を過ごすこと。
42	ばりあふりー い せいしんしょうがい ぼあい かべ ぼりあ ほう よ ひと まわ しげき さえぎ ひつよう バリアフリーとは言うものの、精神障害の場合など、壁、バリアがあった方が良い人もいる。周りからの刺激を遮る必要がある。
43	ちかてつ いばしょ な ひと かお き どあ よこ た ひと かお うつ 地下鉄で居場所が無い。人の顔が気になるが、ドアの横に立つと人の顔が映ってしまう。
44	ますこみ と あ かた へんけん おも マスクの取り上げ方にも偏見があると思う。
45	こうえんかい く きようみ ひと きようみ ひと ふきゆうけいはつ 講演会に来るのは興味のある人だけ。興味のない人たちにどうやって普及啓発をしていくのか。
46	せいしんしょうがい じぶん しょうじょう つた でき たいおう つた 精神障害の自分の症状は伝えることが出来るが、どう対応したらいいか伝えられない。
47	てれびどらま うつ おも けーす おお すこ かる ひと テレビドラマなどで映っているのは、重いケース。多いのはもう少し軽い人。
48	いっしょ すぽーつ ちょうり がっこう ぎょうじ ふ あ りかい ふか おも はい し さぼーと ほ 一緒にスポーツや調理をしたり、学校行事で触れ合えば理解が深まると思う。そうしたものに入市をサポートして欲しい。
49	こよう さき ちゆうがく しょうぎやさいけん く びーかた さぎょう じょ たいけん き 雇用先に中学から職業体験に来ている。B型作業所でも体験に来てくれるといい。
50	し こうほうし さべつ の こうか きもん ちい ちようなしかい けいはつ すず ほう よ おも し じちかい ちようないかい い 市の広報紙に差別はいけないと載せても効果があるか疑問。もっと小さい町内会などで啓発を進めた方が良く思う。市から自治会町内会に言って ほしい。
51	しょうがくせい ちゆうがくせい りかい ひつよう じぶん じしん ころ りかい はや じゆしん 小学生・中学生への理解が必要。自分自身、その頃に理解があれば、もっと早く受診ができたかも。
52	いりようきかん せいしんしっかん たい りかい ひつよう 医療機関の精神疾患に対する理解が必要。



とりにくみ 取組 1 - 1 普及・啓発	
No.	ご 意 見
53	もう少し障害を理解してもらいたい。コミュニケーションが大事。お話を分かってもらうことが必要。
54	発作が少しだけ出たときに、自分自身は大丈夫だと思っている。皆から「帰りなさい」と言われてしまい、つらい思いをしたことがある。
55	出会う機会が限られている。小さいことから皆と同じ環境に居ることが必要。幼いころから健常者と障害者で環境が分けられている。健常者と友達になる機会がない。小さいことから同じ年代の子と一緒に勉強したり、ケンカしたりすることが出来るよう、同じ環境で過ごすことが必要ではないか。そうしないと差別は無くならないと思う。
56	小さい頃から障害のある人となない人を分けると、大人になってから困る。例えば、勉強が出来ないから働けない。ルビがあっても意味が分からない。もっと勉強をしたいし、勉強が出来る環境が必要。なぜ小さい頃から分けるのか、その理由を知りたい。
57	学校に通っている間は、隔離され、グループホームに入ると作業所とグループホームの往復になる。そうすると健常者とのふれあいの機会がない。
58	お店に一般のお客さんが来てくれることで、触れ合える機会がある。
59	小学校で当事者として話をしてほしいという依頼を受けるが、人によって話しの内容は様々。市で小学校向けに障害を理解するためのビデオを用意してもらえると良い。ビデオで概論を伝え、そこに加えて当事者が話すという形があるといい。
60	福祉に守られた環境で暮らしてきた人たちは、地域で生活しようとしたときにどうすればいいか分からないという人が多いような印象を受ける。障害者の意思を尊重してくれる社会であってほしい。
61	付き添いのひとはなく、私を見て話をしてほしい。出来るだけ早い時期から障害のある人の意思を尊重する環境を整えて欲しい。
62	人権の懇話会に出ているが、昔は障害者がトップに近かったが、今は下がってきている、インターネットの人権侵害、女性問題が出てきて障害者が劣後になってきている。順番は市民のアンケートを参考にしている。5・6月には出るが、人権課が職員に研修をやると言っていた。やはり全てが経済優先になっていることが問題。福祉は専門職がいるが、しっかりと土台が出来ているわけではなく、若い層で成り立っている。ヨーロッパと比べるとレベルが落ちている。マスコミの問題、教育の問題、企業、家庭の問題など、行政はいろいろなところに口を出せると思うので、さらに取組を進めて欲しい。

とりにくみ      そうだん      しえん ◇取組 1 - 2      相談支援	
ばんごう No.	ご 御 い 意 けん 見
1	けいかく そうだん    じぎょうしょ    すう    ぞうか    かさん    ひつよう 計画相談事業所数の増加・加算が必要。
2	そうだん    まどぐち    おお    わ 相談・窓口が多くて分かりづらい。
3	いんふおめーしょんせんたー      よう    えきまえ    かふえ      きがる    た    よ    こと      そうだんじよ    いばしょ    ひつよう インフォメーションセンターの様な駅前カフェなど、気軽に立ち寄る事ができる相談所、居場所が必要。
4	だれ    りよう      すぺーす      はなしあいて    ひつよう 誰でも利用しやすいスペースと話相手が必要。
5	た    もんだい    せたい    おお    こうれい    ちてき    せいしん    たぶんや    れんけい    しく    ひつよう 多問題世帯が多く、高齢・知的・精神など他分野連携の仕組みが必要。
6	けいど    ちてき    しょうがい    はったつしょうがい      じょうたい    かた      つな    しく      ひつよう 軽度知的障害・発達障害でひきこもり状態である方とゆるく繋がる仕組みづくりが必要。
7	ちいき    う    ざら      けあぷらざ      そうだん    さーびす    つな      しく      ひつよう 地域の受け皿（ケアプラザ）から相談・サービスを繋げていく仕組みづくりが必要。
8	ふくし    さーびす      かた      しえん    ひつよう 福祉サービスになじめない方への支援が必要。
9	くやくしょふくしほけん    せんたー    いりよう    そーしゃるわーかー      ぞういん 区役所福祉保健センターの医療ソーシャルワーカーを増員してください。
10	せいかつしえん    せんたー    きのう    こんご      かた      えーがた    びーがた    かくさかいしょう    もんだい    ふく    かぞく    どうじしゃ    ふく    かんけいしゃ    けんとう    ぶかい    もう    さつきゅう 生活支援センターの機能の今後のあり方について、A型とB型の格差解消の問題も含め、家族・当事者を含めた関係者による検討部会を設けて早急に けんとう    せいり 検討・整理してください。
11	いりよう    ふくし    さーびす    むす      こりつ      せいしんしょうがいしゃ    せいかつしえん    せんたー    い      しょうがいしゃ    たい    ほうもんしえん    じぎょう    きょうか 医療や福祉サービスに結びついていない孤立している精神障害者（生活支援センターに行かれない障害者）に対する訪問支援の事業を強化してくだ さい。そのための人員を増員してください。
12	きかんそうだんしえん    せんたー    せいしん    かん      そうだんたいおうりよく    きょうか      じぎょう    ぐたいてき    ないよう    めいかく      しゅうち      せいかつしえん    せんたー    きのう    ほ 基幹相談支援センターの精神に関する相談対応力を強化して、事業の具体的な内容を明確にし、周知させてください。生活支援センターの機能を補 かん      のぞ      かぞく    そうだん    おう 完することを望みます。家族の相談にも応じてください。
13	せいしんしょうがい    かん      けいかくそうだんじぎょう    じぎょうしゃ    せんもんいん    かず    ふそく      ふくし    さーびす    りようしゃ      せるふぶらん    あつか      じゅうぶん    きの 精神障害に関する計画相談事業は事業者と専門員の数不足しているため、福祉サービスの利用者のほとんどがセルフプラン扱いとなり、十分に機 能していません。事業の徹底のための抜本的な対策を立て実のある事業にしてください。
14	いりようかんけいしゃ    どうこうほうもん      そうだん      いりよう    むす      そうだんいん    たいわ    なか    お    つ      じりつせいかつ    あしすたんと    じ 医療関係者と同行訪問して相談にのり医療に結びつけたり、あるいは相談員との対話の中で落ち着くことができるように、自立生活アシスタント事 ぎょう    べつ      ほうもんかいにゅう    そうだんしえん      せいど    もう 業とは別に、訪問介入し相談支援をする制度を設けてください。

◇取組 1 - 2 相談支援	
No.	御 意 見
15	活動ホームとグループホームの職員以外にだれかに相談できる場所はありますか？
16	親に言えない事や職員にも言えない事。身近な方以外に相談したいが、なかなか担当のケースワーカーに会えない。
17	相談したい事、誰に話したら解決するのかわからない時はグループホーム職員、活動ホーム職員に相談して助言をもらっている。
18	日中の事業所のスタッフに相談するので安心。
19	日中利用者の友達に相談したりする。
20	病院の先生に相談する。
21	相談事業所に相談する。
22	相談は日中の職員やグループホームの職員。それ以外は知られていない。情報の周知を。
23	相談場所が多すぎる。一元的に集約し、たらい回しにならないように。
24	計画相談を増やす場合には、質の担保をする必要がある。
25	計画相談の事業所が圧倒的に少なすぎる。
26	相談の場は増えているが、当事者には日中とグループホームの職員以外、どこに相談していいかわからない。
27	基幹相談支援センターが不明記。何をしてくれるかわからない。
28	計画相談事業所が増えるよう設置条件の緩和や、市独自の補助制度の設置。
29	中学校区であるケアプラザと基幹相談が連携できる仕組みづくり。
30	学校の事業でセーフティネットの出前講座を地域の拠点委員が行う事で障害理解を促す。
31	計画相談事業所を増やすための、具体的な方向性を明示してほしい。
32	障害も中学校区のケアプラザで相談ができ、基幹がバックアップする仕組みづくり。

とくみ とうだん しえん ◇取組 1 - 2 相談支援	
ばんごう No.	ご い けん 御 意 見
33	そうだん ばしょ く そーしゃるわーかー ちから しえん ないよう さ う 相談できる場所がわかりづらい。区のソーシャルワーカーの力で支援内容に差が生まれている。
34	けーすわーかー たんとう か と き あ ケースワーカーの担当が変わった時ぐらいいは会いにきてほしい。
35	そうだん しすてむ りよう 相談システムを利用しやすいようにしてほしい。
36	けいかく そうだん し く ぜんぜんつた 計画相談の仕組みが全然伝わっていない。
37	く けーすわーかー りきりよう 区のケースワーカーの力量をそろえてほしい。
38	ていきてき ほんにん あせすめんと 定期的に本人のアセスメントをしてほしい。
39	けいかく そうだん なかみ しきゆう けつてい ほんにん じしん 計画相談の中身が支給決定のためか、本人自身のためか。
40	ぐるーぷほーむ しえんしゃ どうじしゃ きより ちか だい しゃ かいにゆう グループホーム支援者、当事者で距離が近い。第3者の介入がほしい。
41	せいど そうだん あんない すく 制度や相談についての案内が少なすぎる。
42	けーすわーかー そうだん さーびす じたい りかい ケースワーカーも相談やサービス自体を理解していない。
43	けいかく そうだん じぎょう しょ み なんねん 計画相談事業所が見つからず、もう何年もたっている。
44	そうだん しえん し く ふくざつ いちじ に じ そうだん しえん きかん つか わ 相談支援の仕組みが複雑。一次・二次相談支援機関の使い分けがわからない。
45	せいかつ しえん せんたー けあぶらざ こうりゆう 生活支援センターやケアプラザとの交流がほしい。
46	へるばー すう すく けいかく そうだん ヘルパー数が少なく、計画相談をたてても、そのままになってしまっている。
47	ざいたく ひと けいかく そうだん し ひと おお 在宅の人は計画相談を知らない人が多い。
48	く けーすわーかー そうだん ぎょうむ すきるあつぷ 区ケースワーカーの相談業務のスキルアップ。
49	けいかく そうだん だ きじゆん きじゆん いかい さーびす ていきよう 計画相談を出して基準があるので、基準以外はサービス提供ができない。
50	けいかく そうだん ねん ぜんぜんすす き こうれい し く 計画相談が5年たっても全然進んだ気がしない。高齢はうまい仕組みになっている。

とくみ とうだん しえん ◇取組 1 - 2 相談支援	
ばんごう No.	ご 御 い 意 けん 見
51	そうだん しえん いん ほうしゆう あ 相談支援員の報酬を上げてほしい。
52	こま そうだん ひと おお よ 困ったときに、相談できる人が多いと良い。
53	こうけんてき しえん せいど でき そうだん ば ふ 後見的支援制度が出来て、相談する場が増えた。
54	くんれんかい こ し あ そうだん 訓練会で子どもたちから知り合っていると、相談しやすい。
55	ひとり く へるばー たの こま 一人暮らしをして、どのようにヘルパーさんに頼むのか、困ったときはどうしたらいいのか。
56	くやくしょ ひとり そうだん い ひとり でき おも い にく 区役所に一人で相談しに行くと、「一人で出来るじゃん」と思われそうで行き難い。
57	ほっさ お わ じかん たいせい そうだん さき おも いつ発作が起きるか分からないから、24時間体制の相談先があるといいと思う。
58	けいかく そうだん わ つか き おも き おも 計画相談は分かりづらいので使っていない。聞きたいと思ったときに聞けばいいやと思ってしまう。
59	おな しょうがい ひと そと はな でき ばしょ よ 同じ障害のある人と、外でお話しが出来る場所があると良い。
60	ちいき けあがらざ しゃかい ふくし きょうぎかい せいしんしょうがい りかい おも 地域ケアプラザや社会福祉協議会が、精神障害を理解してくれていないと思う。
61	せいかつしえん せんた びあ そうだん でんわ う せんもん ひと い よ 生活支援センターのピア相談にも電話がたくさんかかっているが、受けきれていない。専門の人が居ると良い。
62	さぎょう じょ りようしゃ どうし そうだん さぎょう じょ しょくいん そうだん い ほんとう きも わ ひと どうし はなし 作業所の利用者同士で相談をしたいが、作業所からは、職員に相談するように言われてしまう。本当は気持ちが分かる人同士で話したい。
63	けいど ひと かいわ いけん つた ほんにん い いっぽう おも ひと いけん だ しえんしゃ あうとりーち ひつよう おも 軽度の人には会話で意見が伝えられるが本人には言いたいこともない。一方で、重い人は意見を出せない。支援者からのアウトリーチが必要だと思 う。
64	びょうき いしゃ い そうだん さき し いりょう あんない よ 病気になったら医者に行く。相談先は知らないのですが、医療で案内してくれると良い。
65	かつどうほむ かか そうだん く ひと むか ほごしゃ しょくいん はなし こま さっち すこ 活動ホームに関わっているが、相談に来る人はほとんどいない。迎えに来る保護者が職員と話をし、そのときに困っていることを察知して、少し ずつ深い話をすると多い。

<small>とりくみ</small> <b>取組 1 - 2</b>		<small>そうだん しえん</small> <b>相談支援</b>	
<small>ばんごう</small> <b>No.</b>	<small>ご い けん</small> <b>御 意 見</b>		
66	<small>けいかくそうだん じぎょうしょ ふ どりよく おも むずか じょうきょう おも たんか ひく しごと な た</small> いままでも計画相談の事業所を増やそうと努力はしてきたと思うが、難しい状況にあると思う。また、単価が低くて仕事として成り立っていないと <small>き</small> いうことを聞く。		
67	<small>う てあし しょうがい ぐれーぞん はい おも ふつう ようちえん ほいくえん ことわ</small> 生まれつき手足がなかったということで、障害でいうとグレーゾーンというところに入ると思う。普通の幼稚園・保育園でも断られてしまう。そう <small>そうだん まどぐち あ がた</small> いったときに相談できる窓口があると有り難い。		
68	<small>いま いちばんそうだん しえん た かん う</small> 今、一番相談の支援が足りないと感じるのは、こどもが生まれたとき。		



◇ <sup>とりぐみ</sup> 取組 1 - 3 <sup>じょうほう ほししょう</sup> 情報の保障	
<sup>ばんごう</sup> No.	<sup>ご</sup> 御 <sup>い</sup> 意 <sup>けん</sup> 見
1	<sup>よか</sup> 余暇活動の提供元、 <sup>じょうほう</sup> その情報の集約と <sup>じょうほう</sup> 情報提供できる <sup>しく</sup> 仕組みづくり。
2	<sup>せいかつ</sup> 生活用具に見合った <sup>みあ</sup> 情報提供 <sup>じょうほう</sup> をしてほしい。
3	<sup>きゆう</sup> QRコードを <sup>よ</sup> 読んで <sup>おんせい</sup> 音声発信 <sup>はっしん</sup> をするようにしてほしい。
4	<sup>し</sup> 市の <sup>ほむ</sup> ホームページは <sup>しかく</sup> 視覚障害者 <sup>しやうがいしや</sup> に対応 <sup>たいおう</sup> していない。
5	<sup>てんじ</sup> 点字図書館等の <sup>とう</sup> 情報センター <sup>じょうほう</sup> の開設 <sup>せんたー</sup> 。 <sup>かいせつ</sup>
6	<sup>さいがい</sup> 災害時の <sup>じ</sup> 情報保障 <sup>じょうほう</sup> ができていない。 <sup>ほししょう</sup>
7	<sup>かめら</sup> カメラで <sup>もじ</sup> 文字が <sup>しゆわ</sup> でたり、 <sup>はなし</sup> 手話で <sup>えんかく</sup> 話ができる <sup>そうさ</sup> 遠隔操作 <sup>ひろ</sup> が広がっている。
8	<sup>しやくしよ</sup> 市役所からの <sup>じょうほう</sup> 情報は <sup>かん</sup> あまりないと <sup>にちちゆう</sup> 感じる。 <sup>じぎょうしよ</sup> 日中の事業所から <sup>し</sup> 知ることが <sup>おお</sup> 多い。
9	<sup>じぶん</sup> 自分で <sup>よ</sup> 読んで <sup>くやくしよ</sup> もわからない。 <sup>も</sup> 区役所に <sup>い</sup> 持って <sup>おし</sup> 行って <sup>しよくいん</sup> 教えて <sup>き</sup> もらったり、 <sup>むずか</sup> 職員に <sup>き</sup> 聞かないと <sup>むずか</sup> 難しい。
10	<sup>わ</sup> 分かりやすい <sup>べんきようかい</sup> 勉強会 <sup>さんか</sup> があるなら <sup>さんか</sup> 参加 <sup>さんか</sup> してみたい。
11	<sup>じぶん</sup> 自分の <sup>たいせつ</sup> 大切な <sup>しよるい</sup> 書類 <sup>とど</sup> が届くたびに、 <sup>ないよう</sup> まだまだ <sup>むずか</sup> 内容が <sup>かつどう</sup> 難しく <sup>ほむ</sup> て <sup>しよちよう</sup> わからないが、 <sup>じりつせい</sup> 活動ホーム <sup>あしずたん</sup> 所長 <sup>たんどうしや</sup> や <sup>いっしよ</sup> 自立生活 <sup>よ</sup> アシスタント <sup>かくにん</sup> の <sup>よ</sup> 担当者 <sup>よ</sup> と一緒に <sup>かくにん</sup> 読んで <sup>かくにん</sup> 確認 <sup>かくにん</sup> し、 <sup>あんしん</sup> やっと <sup>あんしん</sup> 安心 <sup>あんしん</sup> できる。
12	<sup>じょうほう</sup> 情報 <sup>じょうほう</sup> をもっと <sup>じょうほう</sup> わかりやすく <sup>じょうほう</sup> してほしい。
13	<sup>す</sup> 好きな <sup>かしゆ</sup> 歌手 <sup>こんさーと</sup> のコンサート <sup>い</sup> に行きたい、 <sup>ふあんくらぶ</sup> ファンクラブ <sup>はい</sup> の入り方 <sup>かた</sup> 、 <sup>ちけつと</sup> チケット <sup>し</sup> をとるには <sup>し</sup> どうすれば <sup>し</sup> よいか <sup>し</sup> 知りたい。
14	<sup>じょうほう</sup> 情報が <sup>い</sup> 行き届いて <sup>とど</sup> いない。
15	<sup>ぎょうせい</sup> 行政からの <sup>しよるい</sup> 書類 <sup>つうしよ</sup> は <sup>とう</sup> 通所 <sup>かた</sup> 等 <sup>せつめい</sup> している <sup>かた</sup> 方は <sup>りかい</sup> 説明 <sup>りかい</sup> できるが、 <sup>りかい</sup> していない <sup>りかい</sup> 方は <sup>りかい</sup> 理解 <sup>りかい</sup> しているのか。
16	<sup>せいど</sup> 制度 <sup>しく</sup> や <sup>しく</sup> 仕組み <sup>かんけつはん</sup> が <sup>しよさいばん</sup> わかりずらい。 <sup>さくせい</sup> 簡潔版 <sup>さくせい</sup> と <sup>さくせい</sup> 詳細版 <sup>さくせい</sup> で作成 <sup>さくせい</sup> してほしい。
17	<sup>くない</sup> 区内の <sup>ぐるーぷ</sup> グループ <sup>ほむ</sup> ホーム <sup>まっぷ</sup> マップ <sup>つく</sup> を作 <sup>つく</sup> ってほしい。
18	<sup>しょうがい</sup> 障害 <sup>おう</sup> に応じた <sup>わ</sup> 分かりやすい <sup>はん</sup> 版 <sup>はん</sup> がほしい。



19	<small>じょうほう おお ひつよう じょうほう とど よ み くふう してん だいじ</small> 情報が多すぎる。必要な情報だけ届くと良い。見やすい工夫という視点も大事。
20	<small>なかま かいわ なか じょうほう え ひと じょうほう はい</small> 仲間うちの会話の中で情報を得ている。だれともつながっていない人は情報が入らないのでは。

とりにくみ さいがい たいさく ◇取組 1 - 4 災害対策	
ばんごう No.	ご 御 い 意 けん 見
1	さいがいじ ぎょうせいまどぐち わ 災害時についての行政窓口が分からない。
2	とくべつ ひなん ばしょ めいしやうけんこう しょうがいしや わ 特別避難場所の名称変更（障害者に分かりづらい）。
3	ちいき きやうりよくぎやうしよ ほじよ ひじょうしょくこうにゆう ほじよ 地域の協力事業所として補助はあるが、非常食購入の補助がほしい。
4	ひなんじよ せいかつ とき しんぱい ひごろ とうやく いりようてき こうい かくほ 避難所生活となった時の心配、日頃の投薬、医療的な行為の確保。
5	ぼうさいくんれん さんか 防災訓練に参加すればいいというものではない。
6	とくべつ ひなん ばしょ ちやくせつい よ 特別避難場所に直接行けると良い。
7	ぼうさいくんれん さんか しょうがいしや こと 防災訓練に参加しても障害者という事でひとくくりされる。
8	ひなん ばしょ といれ わしき くるまいす ひと つか 避難場所のトイレが和式となって、車イスの人が使えない。
9	すつま とう そうぐ さいがいじ びちく ストマ等の装具も災害時の備蓄としてほしい。
10	ようえんごしや めいぼ かつよう しかく しょうがいしや ひなん ばしょ ひつよう 要援護者名簿が活用されていない。視覚障害者の避難場所が必要。
11	せいしんしょうがいしや ようえんごしや りすと けいさい せいしんしょうがいしや ひなんばしょ とくせつ かたち しょうがい とくせい たいおう 精神障害者は要援護者リストに掲載されるようになったが、精神障害者のための避難場所を特設することなど、なんらかの形で障害の特性への対応 けんとう を検討してください。
12	じぶん ちいき ぼうさいきてん ひなんくんれん し さんか 自分の地域で防災拠点の避難訓練があるのを知らない。あれば参加をしてみたい。
13	びょうき はは しょうがいしや あに ひと く さいがい ふあん 病気の母と障害者の兄と3人暮らしていて災害があったら不安。
14	ひなんばしょ こうえん ばりあふりー 避難場所の公園をバリアフリーにしてほしい。
15	さいがいじ とっさ こえ だ たず ぜんこくきょうつう ぐっず い 災害時、咄嗟に声が出せない。「助けてください」全国共通グッズがあると良い。
16	がいけん しょうがい わ ひと ひと りかい くるま の こ あつか かな おも 外見で障害があると分かる人とそうでない人ではまだまだ理解してもらえず、車いすに乗っていると子ども扱いされがち。悲しい思いをしたことが ある。

とくみ さいがい たいさく ◇取組 1 - 4 災害対策	
No.	ご 意 見
17	きよてん しょうがいしゃ ひなん そうてい ちいき ひと 拠点に障害者が避難するという想定が地域の人にはまったくない。
18	ようえんごしゃ かず ちいき かた し じょうほうはっしん 要援護者の数すら地域の方は知らない。情報発信をしてほしい。
19	とくべつ ひなん じょ ふくし ひなんじょ へんこう なに とくべつ 特別避難所を福祉避難所に変更しないと何が特別だかわからない。
20	とくべつ ひなん ばしょ し ひと し 特別避難場所は知る人ぞ知るになっている。
21	しょうがい かた とつか ぼうさい まつぷ さくせい 障害のある方に特化した防災マップを作成してほしい。
22	しょうがいてくせい おう ひなん ばしょ かくほ 障害特性に応じた避難場所の確保。
23	ちいき ぼうさいきよてん とくべつ ひなん ばしょ いどう むずか 地域防災拠点から特別避難場所の移動は難しい。
24	じもと しょうがっこう おこな ぼうさいくんれん しんたいしょうがい ひと みず で くすり のど かわ し ほ 地元の小学校で行う防災訓練では、身体障害の人にしか水が出なかった。薬で喉が渴くので、こうしたことも知って欲しい。
25	ひなんじょ しんたいしょうがいしゃ ちてき しょうがいしゃ くら あとまわ ふあん 避難所で身体障害者や知的障害者と比べ、後回しにされないか不安。
26	たいじん ふあん たいじん きょうふ ひと はいりょ ひつよう ひと ばしょ かくほ ひつよう 対人不安、対人恐怖がある人への配慮が必要。そうした人への場所の確保が必要。
27	おと びんかん ひと おお はいりょ ひつよう 音に敏感な人も多いので、配慮が必要。
28	さいがい お くすり な しんばい びょういん くすり だ よ おも 災害が起きたとき、薬が無くなるのが心配。病院がすぐに薬を出してくれたら良いと思う。
29	いろいろ しょうがいしゃ しょうがいしゃよう へや すべーす ひなんじょ ひつよう ほか ひと くるま あ あぶ すべーす 色々な障害者がいるので、障害者用の部屋（スペース）を避難所につくることが必要。他の人も車いすに当たって危ないこともあるため、スペースは大切。
30	たいきぼ さいがい お しょうがい かた しえん い わた じかん い よこはまし かつどう ぼーむ ちいき けあぶらざ 大規模災害が起こったとき、障害のある方に支援が行き渡るまでに72時間くらいかかると言われている。横浜市は活動ホームや地域ケアプラザなどのランチはあるが、視覚障害者への支援を行う拠点が無い。二俣川にライトセンターはあるが、県の施設。横浜では、視覚障害者の中核的な拠点となる施設が無いので、そういう施設が災害時に必要。
31	ちいき く いじょう くるま く ひと い し おも みんないいん あ い じたく びちく とくべつ ようごろう 地域で暮らす以上、車いすで暮らす人が居ることを知ってもらおうと思い、民生委員に会いに行った。そのときに自宅に備蓄すること、特別養護老人ホームに行くことを教えてもらった。

とりくみ      さいがい    たいさく ◇ 取組 1 - 4    災害対策	
ばんごう No.	ご                    い                    けん 御                    意                    見
32	ちいき    かつどう    みずか    さんか                    じぶん                    し                    じょうきょう    か                    おも 地域の活動に自ら参加して、自分たちのことを知ってもらわないと状況は変わらないのではないかと思う。
33	ちいき    かた                    つ                    あ                    たいせつ                    きかい                    むずか 地域の方との付き合いが大切なのはわかっているけれど、なかなかそのような機会をつくるのが難しい。
34	ぎょうせい    い                    ちいき                    むずか                    いみ                    じょうほう    きよてん                    ネットワーク                    ちゅうしん                    ひつよう 行政が言う「地域とのつながり」はなかなか難しい。そういう意味でも情報の拠点というネットワークの中心になるところが必要。

とくみ す ◇取組 2 - 1 住まい	
ばんごう No.	ご 意 見
1	げんじつ えら 現実として選べていない。
2	いりょう てき けあ ぐるーぷほーむ そうせつ 医療的ケアのグループホームの創設。
3	しせつ にゅうしょ けつてい ぎょうせい かか しく づく 施設入所の決定に行政が関われる仕組み作り。
4	にゅうしょしせつ ちいき せーふていねっと きのう ゆうき りょう しせつ めいかくか 入所施設は地域のセーフティネットと機能するよう有期利用施設と明確化する。
5	にゅうしょしせつ ちいき いこう ばあい いんせんていぶ よ かさん じんてきたいおう 入所施設から地域移行の場合のインセンティブがあると良い。加算・人的対応。
6	つうしょ ささ きんきゆうじ たいおう たんき にゅうしょしせつ ぞう 通所を支えられるように緊急時に対応できる短期入所施設の増。
7	じゅうどしょうがい かた す ばしょ かくほ 重度障害のある方の住む場所の確保。
8	そうだん こうけん てき しえん せいど じゅうじつ どうじ う ざら ひつよう そふと めん せんこう 相談・後見的支援制度が充実しているが、同時に受け皿が必要なのに、ソフト面ばかりが先行。
9	しょうきぼ にゅうしょしせつ じゅうじつ あんしん じゅうきよ ば かくほ 小規模入所施設の充実によって安心した住居の場が確保できる。
10	にゅうしょしせつ あつどうてき た 入所施設が圧倒的に足りない。
11	ひとり せいかつ ひと たいおう ぶらん め にゅうしょしせつ けんせつ 一人で生活できない人への対応がプランに抜けている。入所施設の建設。
12	しかく ぐるーぷほーむ しょ しかく しょうがいしゃ ぐるーぷほーむ つく 視覚のグループホームは2か所だけ。視覚障害者のグループホームをもっと作ってほしい。
13	せいかつしえんせんたー たいさほじぎょうたんとうしよくいん いくせい ぞういん 生活支援センターの退サポ事業担当職員を育成して増員してください。
14	たいいんさき ゆうこう しゅくはくがた せいかつくれんしせつ ふ し そつせん すいしん じぎょうか せいど つく 退院先として有効な宿泊型の生活訓練施設を増やすことを市が率先して推進し、事業化しやすい制度を作ってください。
15	たいいんさき にち じかん てあつ しえん ぐるーぷほーむ かいせつ しさく こう 退院先として、365日24時間の手厚い支援がついたグループホームを開設しやすいような施策を講じてください。
16	くやくしょふくしほけん せんたー きかんそうだんしえん せんたー びょういん たいいんごせいかつかんきょうそうだんいん ふくし いりょう ていけい たいいんご ほうもんいりょうかんご ふ お 区役所福祉保健センター、基幹相談支援センターなどと病院の退院後生活環境相談員（福祉と医療）が提携して、退院後の訪問医療看護などのフ ォーを実施してください。
17	こうどうしょうがい ひと す けんとう じぎょう いっそうすいしん 「行動障害のある人の住まいの検討」事業を一層推進してください。

とくみ す ◇取組 2 - 1 住まい	
ばんごう No.	ご い けん 御 意 見
18	はったつしょうがいしゃ たい せいかつしえん すいしん じぎょう さぼーとほーむ きのう めいかく もでる じぎょう じっし 「発達障害者に対する生活支援の推進」事業の「サポートホーム」の機能を明確にし、そのモデル事業を実施してください。
19	せいしんしょうがいしゃ こうれいかたいおう ぐるーぷほーむ もでる じぎょう けいぞくてきあん じぎょう かくだいじっし じょうけん けんとう ととの 精神障害者の高齢化対応グループホームのモデル事業を、継続的案な事業として拡大実施できる条件を検討し、整えてください。
20	おじいちゃん・おばあちゃんになってみんなでわいわい暮らせたら楽しいかもね。お金ないから無理かな。
21	ぐるーぷほーむ にゆうきよ きも かんたん にゆうきよ につちゆかつどうさき へんこう せんたくし すく グループホームに入居したい気持ちがあっても、簡単に入居できない。また日中活動先の変更をしたくないので、選択肢としては少ない。
22	しょうらい ぐるーぷほーむ はい みつ ふあん 将来グループホームに入りたいが見付かるか不安。
23	す ばしょ えら 住む場所をいろいろなところから選びたい
24	にゆうきよ ねん いま ぐるーぷほーむ す 入居して21年、このままずっと今のグループホームに住んでいたい。
25	しょうがい じたく く ちいき ひとり ぐ どんな障害でも自宅ですずっと暮らしてきたい。地域で一人暮らしをしてみたい。 あんしん しく ねが それが安心してできるような仕組みをお願いします。
26	うち く ずっとお家で暮らしたい。のんびりしたい。
27	ぐるーぷほーむ けいど しょうがいしゃ と あ じゅうど ひと す グループホームが軽度障害者の取り合いとなっている。重度の人の住まいがない。
28	ぐるーぷほーむ にゆうしよせつ いかい せんたくし ほ グループホーム、入所施設以外の選択肢が欲しい。
29	ちんたい とき ほしょうにん よこはまし にな ほ 賃貸をする時の保証人を横浜市に担って欲しい。
30	ちんたい とき し かいにゆう ほ 賃貸する時に市に介入して欲しい。
31	ほっさ で じかん たいおう ぐるーぷほーむ ほ てんかん発作は、いつ出るかわからないので、24時間対応のグループホームが欲しい。
32	ふどうさん てつづ さぼーと ほ 不動産の手続きのサポートが欲しい。
33	びょうき ぐるーぷほーむ だ じたく もど 病気になるとグループホームを出されて自宅に戻されてしまう。
34	あ や ぐるーぷほーむ かつよう きじゆん かんわ 空き家をグループホームに活用できないか。基準を緩和してほしい。

<small>とくみ</small> <small>す</small> <b>◇取組 2 - 1 住まい</b>	
<small>ばんごう</small> <b>No.</b>	<small>ご</small> <small>い</small> <small>けん</small> <b>御 意 見</b>
35	<small>す もんだい いこーる しゅうにゆう もんだい</small> 住まいの問題 = 収入の問題。
36	<small>ほご じゆきゆう なんじゆっけん ふどうさん や ことわ</small> 保護受給、何十件も不動産屋に断られた。
37	<small>こうれい たいおう ぐるーぷほーむ かいしゆう さい ほじよ</small> 高齢に対応したグループホームに改修する際の補助。



とりにくみ く ◇取組 2-2 暮らし	
ばんごう No.	ご 御 い 意 けん 見
1	きょうかがた ほうじんがた ちいき かつどう ほーむ じゅうじつ 強化型・法人型地域活動ホームの充実。
2	こうれいか しょうがいしゃ せいかつ 高齢化した障害者の生活。
3	ふくし さーびす すいしん ちいき そだ いろいろ ひと く 福祉サービスの推進ばかりでなく、「地域」をどう育て、色々な人が暮らせるようにするか。
4	じゅうどか こうれいか いりょうてき ぼくあつぷ しえん 重度化・高齢化への医療的なバックアップ支援。
5	きょうど こうどうしょうがい たいおう にゅうしょせつつ ぞう ゆうき りょう 強度行動障害へ対応できる入所施設増（有期利用）。
6	きよ けいど ほーだー かた にゅうしょせつつ ぐるーぷほーむ ひと ふおろー 居なし・軽度ボーダーの方で、入所施設でもグループホームでもなじめない人へのフォロー。
7	にゅうしょせつつ せいかつ せんたくし 入所施設も生活の選択肢の1つである。
8	せんもんせい たか しょくいん はいち ぐるーぷほーむ ほうしゅうたんか あつぷ 専門性の高い職員が配置できるグループホーム、報酬単価のアップ。
9	しょーとすていせんたー ひつよう ショートステイセンターが必要。
10	たんき にゅうしょせつつ ふそく 短期入所施設の不足。
11	つうしょ しせつつ しょーとすていせんたー へいせつつ 通所施設にショートステイセンターを併設。
12	ほごしゃ せいねんこうけん いしき かいかく ひつよう 保護者への成年後見などの意識改革が必要。
13	しょうがい さーびす りょう しょうがいしゃ ほごしゃ きんきゅうにゅういんとう きんきゅうじ す な 障害サービスを利用していない障害者について、保護者が緊急入院等をしたときの緊急時の住まいが無い。
14	じゅうど こうど しょうがい ひと あんしん く ぼ きんきゅうかだい 重度高度障害の人が安心して暮らせる場が緊急課題。
15	たんき にゅうしょ まわ 短期入所のたらい回しをなんとかしてほしい。
16	しょうらいとし りぐ とき ちょうかしょうがいしゃ ひ あんしん ぼ ほ 将来歳をとり、1人暮らしになった時、聴覚障害者は引きこもりになりやすくなる。安心の場が欲しい。
17	じんこう ないじ そとがわ きき ほちょうき どうよう ほそくぐ ふくし ほじよ ありがた 人工内耳の外側機器は補聴器同様の補足具であるので、福祉の補助があると有難い。
18	ちいきせいかつしえんきよてん きゆう めいじ しゅうち あと ぞうせつつ ほんだんきじゆん めいかく 「地域生活支援拠点」の機能を明示し、周知して、その後も増設する判断基準を明確にしてください。

とくみ く ◇取組 2-2 暮らし	
ばんごう No.	ご い けん 御 意 見
19	いりよう ふくし さーびす りよう ちょうせい せきにん けんげん も たいおう けあまねじゃー せいど どうにゆう 医療と福祉がまたがったサービス利用や調整を責任と権限を持って対応するケアマネジャー制度を導入してください。
20	しゃかいふつき ぶるぐらむ あいむある だぶりゆーある えーびー えすえすてい しんりきょういく びょういん でいけあ せいかつしえん せんたー ふくし さーびす じぎょうしょ ふきゆう 社会復帰プログラム（IMR、 WRAP、 SSTなど）や心理教育を、病院デイケア・生活支援センター・福祉サービス事業所などに普及させるための施策を講じてください。
21	せいしんしょうがい かぞくしえんじぎょう くやくしょ かぞくきょうしつ かいさい そくしん 精神障害の家族支援事業である区役所の家族教室の開催を促進してください。
22	じりつせいかつ あしすたんと じぎょう たいしやう たんしんどう せいかつ しょうがいしゃ じりつ きぼう しょうがいしゃ いがい しえん じりつ きぼう かのうせい しょうが 自立生活アシスタント事業の対象を「単身等で生活する障害者と自立を希望する障害者」以外に、「支援があれば自立を希望する可能性がある障害者」にも拡大してください。総合支援法改訂に伴う自立支援事業の対象者も同様です。
23	しゃかいふくしほうじんがけちいきかつどう ほーむ せいしんしょうがいしゃたいおくりよく せいしんしょうがいしゃ あんしん しょーとすてい りよう 社会福祉法人型地域活動ホームに精神障害者対応力をつけて、精神障害者も安心してショートステイを利用できるようにしてください。
24	ほか ひと せいしんしょうがいしゃ い き ひと ばす しえいちかてつ うんちんわりびき りよう ふくしばす あいしーかーどか 他の人から精神障害者と言われることを気にしがちな人がバスや市営地下鉄の運賃割引を利用しやすいように、福祉パスをICカード化してください。
25	だんな ふたり く いま しゅう かい はん いっしょ つく へるばー き たす 旦那さんと二人で暮らしてきたけれど、今は週2回ご飯を一緒に作ってくれるヘルパーさんが来てくれて助かる。
26	じゅうど しょうがい いりようてきけあ ひつよう ばあい げんざい にっちゅうかつどうさき へんこう かぞく ふたん あんしん く いりようてき 重度の障害、医療的ケアが必要な場合であっても、現在の日中活動先を変更したくないので、家族の負担なく安心して暮らしていけるよう、医療的ケアを実施できるヘルパー事業所の充実を目指して欲しい。
27	どにち しゅくじつ へるばー すく かん にゅうよくしえん へや そうじ とう てつだ こと い にんずう すく おも 土日・祝日のヘルパーが少ないと感じる。入浴支援や部屋の掃除等、手伝ってもらいたい事は言えるが人数が少ないと思う。
28	びょうき はは しょうがいしゃ あに にんく きんじょ ひと わるぐち い 病気の母と障害者の兄と3人暮らしで近所の人が悪口を言う。
29	たんしん ぐるーぷほーむ いま く つづ じぞく かのう せいど ひつよう 単身グループホームの今の暮らしを続けられるように持続可能な制度づくりが必要。
30	おや な あと きんきゆうばしょ すく 親が亡くなった後の緊急場所が少なすぎる。
31	ぐるーぷほーむ あ じょうきよう グループホームの空き状況がわからない。
32	にゅうしょ ぶらいばしー かくほ ほ 入所してもプライバシーを確保して欲しい。

とくみ く ◇取組 2 - 2 暮らし	
ばんごう No.	ご い けん 御 意 見
33	がいへる かた けんとう りようしゃ たちば ガイヘルのあり方について検討してほしい。利用者の立場から。
34	こうれい ふくやく かんり むずか 高齢になっていくと服薬管理が難しくなる。
35	りゆう にっちゅう ぐるーぷほーむ す かた たい かせん しえん せいど なんらかの理由で日中をグループホームで過ごす方に対し、加算や支援制度があれば。
36	く しえん すく ぐるーぷほーむ だ ひとり暮らしの支援が少なく、グループホームを出すことができない。
37	こうれい げん ぐるーぷほーむ せいかつ むずか みあ ぐるーぷほーむ 高齢で現グループホーム生活が難しくなっても、それに見合うグループホームがない。

<small>とりくみ</small> <small>けんこう</small> <small>いりよう</small> <b>取組 3 - 1 健康・医療</b>	
<small>ばんごう</small> <b>No.</b>	<small>ご</small> <small>い</small> <small>けん</small> <b>御 意 見</b>
1	<small>いりよう きかん しょうがい うけいれ すず</small> 医療機関への障害の受入を進めてほしい。
2	<small>いりよう にちじょうてき きょうりよく あんしん く つづ</small> 医療との日常的な協力づくりがないと安心して暮らし続けられない
3	<small>やかん たんきゆういん おこな びょういん くない な</small> 夜間の痰吸引が行える病院が区内に無い。
4	<small>ちてき しょうがい し いし かんごし いくせい ひつよう</small> 知的障害をよく知る医師・看護師の育成が必要。
5	<small>きょうど こうどうしょうがいしゃ じゅうど ちてき かた あんしん ちりょう にゅういんせつ ひつよう</small> 強度行動障害者、重度知的の方が安心して治療できる入院施設が必要。
6	<small>じゅうどしょうがい かた にゅういん ひつよう とき てきせつ いりよう う たいせい ひつよう</small> 重度障害の方が入院が必要な時に適切な医療が受けられる体制づくりが必要。
7	<small>いしや ちょうかしょうがい りかい けんしゅう</small> 医者に聴覚障害の理解研修を。
8	<small>びょういん ふあん じゅしん だんねん なんちようしゃ おお</small> 病院での不安のため受診を断念してしまう難聴者が多い。
9	<small>ひつだん きぼう いし きら ばあい おお</small> 筆談を希望しても医師から嫌われる場合が多い。
10	<small>せいしんしっかん がつべい しんたいきゅうきゅうかんじや いりよう きよひ びょういん すく こうかてき しさく こう</small> 精神疾患を合併する身体救急患者の医療を拒否する病院を少なくする効果的な施策を講じてください。
11	<small>びょういん しょうがいりかい とき う い</small> 病院の障害理解がなく、いざという時に受け入れてくれない。
12	<small>にゅういんじ こみゆにけーしょん しえん かいじよ かね すこ しえん</small> 入院時のコミュニケーション支援では、介助にお金がつかない。もう少し支援を。
13	<small>みみ わる にゅういんちゅう いし こみゆにけーしょん ようやく ひつき ねが こみゆにけーしょん と きゅう びょういん い</small> 耳が悪く、入院中に医師などとコミュニケーションがとりづらい。要約筆記にお願いをすればコミュニケーションが取れるが、急に病院に行くこと <small>ばあい たいおう まずく と はなし くち よ でき</small> になった場合は対応できない。マスクを取って話をしてもらえれば、口を読むことが出来る。
14	<small>ないか おうしん せいしんか ふ</small> 内科には往診があるのに、精神科はほとんどないので、増やしてほしい。
15	<small>いりよう きかん せいしんしっかん たい りかい ひつよう</small> 医療機関の精神疾患に対する理解が必要。

とくみ どりくみ ◇取組3-2 バリアフリー		ご 御 い 意 けん 見	
ばんごう No.			
1	おんせいあんない こえ そうさ まどぐち はんのう こと 音声案内で声で操作するような窓口だと反応されない事がある。		
2	じもと えき けんばいき くるま がめん しゃ そうさ 地元の駅の券売機が車いすからだと画面が斜めになっているので操作しにくい。		
3	まえ ばす の うんてんしゅ い いや こ くるま ことわ 前に、バスに「乗らないでください」と運転手さんに言われて嫌だった。混んではいなかったのだから車いすだから断られたのかな。		
4	たてもの かい たもくてきといれ かいじょう たてもの 建物の1階に多目的トイレがあるとよい。2階以上にある建物がちらほらある。		
5	ばすたーみなる て バスターミナルに手すりしてほしい。		
6	ばす えんせき ちか と バスを縁石の近くに止めてほしい。		
7	まちのバリアフリーがすす いろいろ しゆだん ばりあふりー まちのバリアフリーが進んだが、移動手段がバリアフリーではない。		
8	つうしょ さき かい えれべーたー な 通所先が2階なのにエレベーターすら無い。		
9	ほどま なか でんちゆう た でんどうくるま とお 歩道の真ん中に電柱が立っていると、電動車いすで通れなくなってしまう。		
10	でんしゃ ゆうせんせき せいしんしょうがい ひと あなうんす ひつよう ひと い 電車の優先席で、精神障害の人はアナウンスされない。必要な人も居る。		
11	でんしゃ ばす いきさき あんない ふ がな ほ はじ わ 電車やバスの行先（案内）に振り仮名をつけて欲しい。初めていくところだと分からない。		

とくみ けんり ようご ◇取組 3 - 3 権利擁護	
ばんごう No.	ご い けん 御 意 見
1	じりつ いろいろ こんなん ささ い かんり 自立するには、色々な困難があり支えあって生きていくものなのに、管理されている。
2	さべつ かいしやう ふんそうまどぐち こうほう 差別解消の紛争窓口を広報してほしい。
3	しょうがいしゃさべつ かいしやう いっぱん ひと たい けいはつかつどう 障害者差別解消について、一般の人に対する啓発活動がない。
4	しょうがいしゃさべつかいしやう そうだんまどぐち げんじやう きそん そうだんさき べつ せっち そうだん たいせい しゆうち 障害者差別解消のための相談窓口を、現状の既存の相談先とは別に設置し、相談しやすい体制として周知させてください。
5	じぎやうしゃ さべつ そうだんまどぐち じぎやうしゃいがい だいさんしゃそうだんきかん もう 事業者による差別の相談窓口として、事業者以外の第三者相談機関を設けてください。
6	つくい じけん 津久井やまゆり事件はぜったいだめ。
7	おや いっしょ く こと ほんとう よ じりつ なに かんが じぶん でき こと しえん でき こと き こと み つ しんらい 親と一緒に暮らす事が本当に良いのか？自立とは何か考えている。自分ができる事、支援してもらえば出来る事を決める事をもっと身に着け、信頼 できる人に見守られていたら地域で生きていけると思う。
8	さべつ だめ つよ めっせーじ 差別はダメという強いメッセージを。
9	くるま しゆうり しんき さくせい りはせんたー ねが すいようび ごぜんちゆう かどう ややく はや げつご しんたい あ 車いすの修理や新規作成のときに、リハセンターにお願いするが、水曜日の午前中しか稼働していない。そのため予約は早くて2か月後。身体に合 わない車いすを使い続けるのは大変なので、素早く作れるよう、市内でも新横浜だけでなく、もう1か所欲しい。
10	とくべつじやうしゃけん つか あいしーかーど も きつぷ かいさつ すく ふべん かん 特別乗車券を使っているとICカードを持たない。そうすると、切符の改札が少なく不便を感じる。
11	ちやうし わる とき さんぐらす いやほん がーど とくべつじやうしゃけん み はず ふべん 調子が悪い時は、サングラスやイヤホンでガードしているが、特別乗車券を見せるときは外さなければいけないので不便。
12	せいき こよう はたら けいやく じやうけん ふごうり 正規雇用で働いていても、契約で条件をつけられてしまうのは不合理。
13	しゃかいふつき かんが りれきしょ ぐわくきかん でき なん ほ 社会復帰を考えたとき、履歴書に空白期間が出来てしまう。これを何とかして欲しい。
14	けいはつ へんけん よ 啓発が偏見を呼んでしまうこともある。
15	わか とき にゆういん お にゆういん がくぎやう でき 若い時に入院をしてしまうと、そこで終わってしまう。入院をしても学業が出来るようにしてほしい。

とくみ りょういく ◇取組 4 - 1 療育	
ばんごう No.	ご い けん 御 意 見
1	せんたー かてい がっこう じぎょうしょ むり つな りょういく センター、家庭、学校、事業所が無理なく繋がれる療育を。
2	ようじき ふおろー ぜんたいてき よわ かぞく ちから い 幼児期のフォローが全体的に弱い。家族サポートにも力を入れるべき。
3	ざいたく きょうど こうどうしょうがいじ しえん すーぱーばいざー あどばいす 在宅の強度行動障害児の支援、スーパーバイザーによるアドバイス。
4	りょういく せんたー い ていいん かんけい い 療育センターに行きたくても定員の関係で行けない。
5	りょういく せんたー そうだん つうしょ りょういく せんたー た 療育センターへの相談や通所がいっぱいである。療育センターが足りないのでは。
6	ようご がっこう にゆうがゆく すく 養護学校の入学枠が少ない。
7	だいさんしゃ め じぶん じょうきょう はあく ひと たす さぎょうじょ しょくいん 第三者の目で自分の状況を把握してくれる人がいると助かる。（作業所の職員さんみたいな）
8	そうだん ひと い よ 相談しやすい人が居てくれたら良い。
9	せいしんてき よわ ようしょうき しえん ほ むかし てんこう でき 精神的な弱さがある。幼少期からの支援が欲しい。昔は転校が出来なかった。
10	とうごうしつちょうしょう ししゅんき はっしょう おお がくれい こうき はったつ げんてい ほ 統合失調症が思春期の発症が多い。学齢後期は発達だけと限定しないで欲しい。
11	いし しか いし せいしんしょうがい りかい じゅしん きよひ 医師・歯科医師が精神障害を理解していないため、受診を拒否されることもある。

とりにく きょういく ◇取組 4 - 2 教育	
ばんごう No.	ご い けん 御 意 見
1	おや たい しえん たいせい きょうか ひつよう 親の対する支援体制の強化が必要。
2	きょういく いりよう れんけい ことば ぐたいてき ほうほう しく おこな ほ 教育・医療の連携。言葉だけじゃなく具体的な方法仕組みづくりを行って欲しい。
3	ようご がっこう せいじん き か じき じゅうぶん じょうほうていきょう 養護学校から成人として切り替わる時期に十分な情報提供ができていない。
4	ふつう がっこう いっしょ そだ どうごう きょういく 普通学校で一緒に育てられるような統合教育。
5	どうとく きょういく どうじしゃ はな ば ほ こどもの道徳教育で当事者が話す場が欲しい。
6	がっこうきょういく しょうがい おし じんざい べんり つーる ひつよう 学校教育で障害を教える人材がいない。便利なツールが必要。
7	ちゅうがっこう ころ べんきょう むずか いや しょうがっこう ともだち てつだ ちゅうがっこう ころ だれ まも ほ 中学校の頃は勉強が難しかったし、いじめられて嫌だった。小学校はお友達が手伝ってくれたのに、中学校の頃は いじめられたから誰かに守って欲 しかった。
8	しんたいしょうがい とくべつしえんがっこう かよ いまおも どうごうきょういく ば べんきょう でき おも こと 身体障害があり、特別支援学校に通ったが、今思えば統合教育の場で勉強が出来ていたらと思う事がある。
9	きょうし じぶん しょうがい りかい 教師に自分の障害をもっと理解してほしい。
10	がっこう そつぎょうご べんきょう 学校卒業後も勉強したい。
11	べんきょう なお 勉強をし直したい。
12	しえん い おや しえん つよ おとな つごう ふ まわ こどもの支援と言いながら、親の支援が強くなっている。大人の都合に振り回されないように。
13	いんくるーしぶ きょういく し かか きかい ふ インクルーシブ教育で知る・関わる機会を増やす。
14	ふくし きょういく あいだ せん 福祉と教育の間には「線」がある。
15	いっしょ ばしょ まな たいせつ どうごうきょういく 一緒の場所で学ぶことが大切。「統合教育」がいい。
16	ぶんり きょういく けんじょうしゃ わ せいかつ ちから まな でき おきな まな ひつよう 「分離教育」で健常者と分けられて生活する力を学ぶことが出来ない。幼いうちからともに学ぶことが必要。
17	しっぱい あぶ けいけん けんり おも けが だいじ まな ひと おも 失敗したり、危ないことを経験することも、「権利」だと思う。また、ケガをすることも大事な学びの一つだと思う。



とりにく きょういく ◇取組 4 - 2 教育	
ばんごう No.	ご い けん 御 意 見
18	けんじょうしゃ しょうがいしゃ おな きょうしつ まな のぞ とき まな あ おも 健全者と障害者が同じ教室で学ぶことが望ましい。時にははじめがあるかもしれないが、それでもそこから学び合うことがあると思う。
19	せいふていねっとぷろじえくと 横ばい で コミュニケーションボード ( = わかりやすい絵記号や写真を用いてコミュニケーションを行うためのボード ) を作ったが、それを学校で教えてもらえないと意味がない。
20	こ でき き ほ かのうせい の ちゃれんじ ほ この子は出来ない、と決めつけたくないで欲しい。可能性を伸ばすために、なんでもチャレンジさせて欲しい。
21	じかん が かかってもいいから、学年が上がったら上のレベルの勉強を教えてください。「この人は分からない」というという決めつけはしないで欲しい。
22	がっこう ほーむるーむ じかん ふつう きゆう ひと はなし でき かお おほ たす 学校のホームルームの時間に普通級の人と話が出来た。顔を覚えてもらうことで助けてもらった。
23	がっこう こころ しく まな ひつよう おも すとれす はっさん めん 学校で“心の仕組み”について学ぶことが必要だと思う。いじめもストレス発散の面もある。
24	がっこう せんせい はったつしょうがいどう まな ほ 学校の先生に発達障害当について学んで欲しい。
25	ふくし けいこうせい けんしゅう く ほんとう ふくし めざ ぎもん かん せいと 福祉系高校生が研修に来るが、本当に福祉を目指しているか疑問に感じる生徒もいる。

とりにくみ じんざい かくほ いくせい ◇取組 4 - 3 人材の確保・育成	
ばんごう No.	ご 御 い 意 けん 見
1	じんざい かくほ し せいど おこな 人材確保への市としての制度づくりを行ってほしい。
2	じんざい かくほ ぜんてい ちんぎんとう ろうどうじょうけん かいぜん し じよせい 人材確保の前提となる賃金等の労働条件の改善の市の助成を。
3	しせつ じゅうじしゃ ちんぎんぞう じんざい かくほ 施設従事者の賃金増が人材確保につながる。
4	がくせい ぐるーぷほーむ し がくせい せつめいかい たいけん 学生がグループホームを知らない。学生への説明会や体験。
5	じはつてき しどうしゃ ふあしりてーたー ようせい かつどう じよせいきん もう 自発的な指導者やファシリテーターの養成の活動などに助成金を設けてください。
6	しゆだん けんとう じんいん じんざいぶそく ふくしきく とどこお かたよ しさく こう あらゆる手段を検討し、人員・人材不足による福祉施策の滞りや偏りがないような施策を講じてください。
7	どうじしゃだんたい かつどう しえん しゃかいさんかすいしんせんたー ちゆうしん せいしんしょうがいしゃ びあさほーたー そうだんしえん たいいんそくしんしえん 当事者団体の活動への支援については、社会参加推進センターが中心になるとしても、精神障害者のピアサポーターによる相談支援や退院促進支援の活動を促進する事業を具体的な施策としてください。
8	な しょいん なが しんらい しょいん へ わか しょいん はい かな 慣れた職員には長くいてほしい。信頼している職員が減ることもいや。しかし若い職員が入らないことも悲しいです。
9	く そーしゃるわーかー じむ りょう ふ いぜん しんみ 区のソーシャルワーカーが事務量が aumentado のか、以前より親身ではなくなった。
10	せいど こま じむ りょう ふ けーすわーかー ほうもん 制度が細かくなり、事務が増え、ケースワーカーの訪問がなくなった。
11	しょいん ながねんつと ほうさく ひつよう 職員が長年勤めてもらうような方策も必要。
12	しょいん せいかつ たんか せつてい ひつよう 職員が生活できる単価設定が必要。
13	ふくし けい しゅうじょく じき おそ こと ないてい ふあん 福祉系の就職は時期が遅いとので、みんなが内定をもらって不安。
14	まーけてぃんぐ しんくたんく どう りょう ちょうさ マーケティングをシンクタンク等を利用して調査してみても。
15	にゅうしゃ ひと ながねんつと ひと さぼーど ふじゅうぶん 入社した人・長年勤めている人たちのサポートが不十分。
16	いくせい ほうほう み こうちく 育成方法が未構築。
17	きやりああつぷ しく き せいび キャリアアップの仕組みを聞かれるが、整備されていない。
18	いんたーしっぷ がくせい ぼらんていあ ちが じぶん りきりょう たか いしき インターシッップの学生もボランティアと違うので自分の力量を高める意識になってほしい。

とりにくみ じんざい かくほ いくせい ◇取組 4 - 3 人材の確保・育成	
ばんごう No.	ご 意 見
19	ろうどうじょうけん ちんぎん へんそく しふと どう わる 労働条件（賃金・変則シフト）等が悪い。
20	ひとで ふそく にん ふたん ま あくじゅんかん 人手不足で1人の負担が増し、悪循環。
21	ちい とき しょうがい かなか きかい ご じんざい かくほ つな 小さき時に障害に関わる機会があるとその後の人材確保に繋がるのではないか。
22	ぐるーぷほーむ しょくいん ひとり しょくば すとれず かんきょう たいしよく グループホーム職員は一人職場なのでストレス環境があり、退職をしてしまう。
23	ちゅう こうせい ぼらんていあ にっぺい き こ きがる こ よ おも 中・高生のボランティアは、あらかじめ日程が決まっていなとなかなか来ない。気軽に来られるようになったら良いと思う。
24	ぼらんていあ ぼしゅう あんない ちらし きがる がっこう しく ほ しきい ひく よ ボランティア募集の案内チラシを気軽に学校にまける仕組みが欲しい。敷居が低いと良い。
25	しえんしゃ ふ りしょくりつ さ ひつよう りしょく りゆう ちょうきどう はあく ひつよう 支援者を増やすやめ、離職率を下げる必要がある。そのためには、離職理由の調査等、把握が必要。
26	ぐるーぷほーむ いまあくじゅんかん ひと こ やす じょうきょう じっさい せきにんかん おも ぐるーぷほーむ こうそく グループホームは今悪循環になっている。人が来ないから休めないという状況がある。実際にやってみると責任感が重くて、グループホームは拘束 じかん なが じよせい こ よなか きゆうけい ねむ 時間が長いので、女性は来ない。また、夜中は休憩といってもなかなか眠れない。
27	よる せんもん じぎょうしゃ だんしがくせい あるばいと ひと がっこう そつぎょう ふくし せかい こ 夜だけの専門の事業者がいて、男子学生がアルバイトでやっているところがある。そういう人は学校を卒業しても、福祉の世界には来ない。

とくみ しゅうろう ◇取組5-1 就労	
ばんごう No.	ご い けん 御 意 見
1	ようご せい たか けいど ちてき ひとたち あんてい はたら つづ しえん しせつ じゅうじつ もと 養護性の高い経度知的の人達が安定して働き続けられるように支援できる施設の充実を求める。
2	しゅうろう あと けいぞく ひと しえん ひつよう 就労した後に継続できなくなった人への支援が必要。
3	じゅうど かた そと きぎょう はたら しく つく 重度の方でも外（企業）で働ける仕組み作り。
4	こよう ば しょうがいしゃ けんじょうしゃ おな しょういん 雇用の場で障害者ではなく、健常者と同じ職員にしてほしい。
5	しょうがいしゃ こよう ほうりつ き てき くらぎ 障害者雇用でも「法律で決められているから」的な空気がある。
6	しゅうろう ひつよう ちしき のうりょく たいりょく こうじょう ひつよう がくしゅう くんれん ひつすこうもく どうじ じっし てっぺい 就労に必要な知識および能力、体力の向上のために必要な学習・訓練を必須項目にすると同時に実施を徹底。
7	どうじしゃ しょうぼ なや そうだん こようしゃ てきせつ はいりょ じよげん しょうぼ かうんせらー じよぶあしすと じよぶ 当事者が職場での悩みをいつでも相談できるように、また雇用者による適切な配慮について助言できる職場カウンセラー（ジョブアシスト、ジョブ こーち さいご さいご コーチなど）の配置を公的施策としてください。
8	どうじしゃ はたら すとれす さいはつ こようしゃ どう じかん かんきょうちようせい はいりょ しく せいどか 当事者が働きすぎてストレスをためて再発しないように、雇用者が働く時間や環境調整を配慮しやすい仕組みを制度化してほしい。
9	しゅうろう とき きゅうりよぎょう しょうく 就労していた時、給料泥棒といわれてショックだった。
10	じよぶこーち しく じゅうじつ はたら つづ ジョブコーチの仕組みがもっと充実すれば、働き続けられる。
11	へるばー しかく も じぎょう しょうせい しんしょうがいしゃ こよう さいよう あいてさき なつとく ヘルパーの資格を持っていても、事業所が精神障害者の雇用をしてくれない。採用されたとしても、相手先が納得してくれるか。
12	さぎょう じよ いっぱん きぎょう へいよう か しゅう にち いっぱん きぎょう はたら せいど ほ 作業所と一般企業との併用が可となるよう、週に1日でも、一般企業で働ける制度が欲しい。
13	いっばん きぎょう はたら ちんぎん やす はたら 一般企業に働けるなら、賃金が安くなっても働きたい。
14	たんじかん ろうどう きぎょう そん ほじよ せいど ほ 短時間労働でも企業が損をしないように補助をしてくれる制度が欲しい。
15	しゅうろう しえん せんたー ぞうせつ ほ せやく 就労支援センターを増設して欲しい。（瀬谷区に）
16	はたら しゅうい りかい にんげんかんけい たいへん がっこう だんかい どうごう たいじ おも 働いていたとき、周囲の理解がなく、人間関係が大変だった。学校の段階で、統合することが大事だと思う。
17	しゅうろう かいしゃ こじん あいだ もんだい やくしょ たの けいはつ 就労は会社と個人との間の問題であり、役所に頼みたいことは啓発である。
18	ちいき せいかつ しえん じぎょう から つうきん いどう しえん みと 地域生活支援事業とも絡むが、通勤の移動支援も認めてほしい。

<small>とりくみ</small> <small>しゅうろう</small> <b>◇取組5 - 1 就労</b>	
<small>ばんごう</small> <b>No.</b>	<small>ご</small> <small>い</small> <small>けん</small> <b>御 意 見</b>
19	<small>ちようきにゆういん</small> <small>がっこうちゆうたい</small> <small>しゃかい</small> <small>ふつき</small> <small>がっこう</small> <small>ほ</small> <small>りれきしょ</small> <small>ぶらんく</small> <small>しゅうしょく</small> <small>むずか</small> 長期入院、学校中退から社会復帰のための学校が欲しい。履歴書にブランクがあると、就職が難しい。
20	<small>しゃかい</small> <small>ふつき</small> <small>かんが</small> <small>りれきしょ</small> <small>くわく</small> <small>きかん</small> <small>でき</small> <small>なん</small> <small>ほ</small> 社会復帰を考えたとき、履歴書に空白期間が出来てしまう。これを何とかして欲しい。

とくみ 取組 5 - 2 福祉的就労	
ばんごう No.	ご 御 い 意 けん 見
1	こうちん かんけい おな しごと さぎょう ないよう へんこう ひつよう かん 工賃の関係から同じような仕事ばかりしている。作業内容の変更も必要と感じる。
2	くない しょうがいしゃだんたい くやくしょ すぺーす しょう はんばいすぺーす かつよう う ば う ば み みせ 区内の障害者団体が区役所のスペースを使用し販売スペースとして活用できるようになってきているが、売り場が売り場に見えない。お店のようにしてほしい。
3	かつどうほむ こうちん じきゅう えん すこ こうちん うれ 活動ホームの工賃が時給20円なので、もう少し工賃がもらえると嬉しい。
4	しゅう かい かふえ てんいん かつどう じぶん じしん じゅうじつ しょうがいしゃ はたら みせけいき ぼしょ 週2回カフェで店員として活動している。自分自身、そこでもとても充実していて、このような障害者が働けるお店形式の場所がたくさんできるとい おも いと思う。
5	きゅうよ ほ か た 給与があるとうれしい。欲しいものが買える、おいしいものが食べられる。
6	しごと たっせいかん しごと もちべーしょん やりがいがある仕事がほしい、（達成感のある仕事、モチベーションがあがる）
7	こうちん ほ 工賃がもっと欲しい。
8	しごと ほかの仕事もしたい
9	しょうがいしゃ さぎょう ふ 障害者でもできる作業をもっと増やしてほしい。
10	しゅうろう いち わ やくしょ はたら とき くら さぎょう じょ おな じかん はたら こうちん で 就労の位置づけが分からない。役所で働いていた時と比べ、作業所では同じ時間働いてもわずかな工賃しか出ない。

とりにくみ につちゆう かつどう ◇取組5-3 日中活動	
ばんごう No.	ご 御 い 意 けん 見
1	けい ちゆうど かた さい ぜんご い 軽・中度の方で18歳前後の行くところがない。
2	じゆうど こうれい しょうがいしゃ ちいき かつどう ばしょ かくほ ひつよう 重度・高齢の障害者の地域での活動場所の確保が必要。
3	へいじつ よか じゆうじつ 平日の余暇の充実。
4	ひ ちてき しょうがいしゃ さろん ひつよう 引きこもりがないような知的障害者のサロンが必要。
5	ねんだい みあ かつどう ばしょ こうれいか ひと かつどう ば 年代に見合った活動の場所がほしい。高齢化した人が活動できる場。
6	ほんにん たの ば 本人たちが楽しめる場があるとよい。
7	じかん につちゆう い さき ちょうどいい時間の日中の行き先があれば。
8	ねんまつ ねんし かつどう しえんしゃ さが たいへん 年末年始、活動の支援者を探すのが大変。
9	こうどうしょうがい かた よか しえん おも 行動障害のある方の余暇支援があればいいと思う。

とくみ いどう しえん ◇取組5-4 移動支援	
ばんごう No.	ご 御 い 意 けん 見
1	かいご たくしー たか 介護タクシーが高い。
2	いどう しえん りょう むずか てつたい じぎょう しょ ふ 移動支援の利用が難しい。撤退する事業所が増えてきた。
3	にゅうしょ がいへる つか 入所でもガイヘルが使えるようにする。
4	いどう しえん いっぱん かた めいわく かん 移動支援で一般の方に迷惑をかけていると感じることがある。
5	いどう しえんしゃ こ れべる きょうか 移動支援者の個のレベルの強化。
6	にゅうしょせつ ひと がいしゅつ きかい がいどへるばー りょう 入所施設の人が外出できる機会ができるようにガイドヘルパーが利用できるようにしてほしい。
7	がそりん だい けん し だ ガソリン代の券を市も出すようにしてほしい。
8	あさ らっしゅ じょうしゃ しゅうぎょうかん せんたく 朝のラッシュには乗車することができない。就業時間をいろいろ選択できるようにしてほしい。
9	ろせん ばす と ばす てい せっち と てんどう おそ 路線バスを止めるときにバス停に接地して止めてほしい。転倒の恐れがある。
10	ばす の とき まえ れんらく い たいおう い バスに乗る時に前もって連絡してくれと言われた。でなければ対応できないと言われた。
11	じょうしゃ すきま きけん ばす うんてんしゅ りかい 乗車のスキマが危険であることをバスの運転手にも理解してほしい。
12	すくらんぶる ほどうきょう えれべーたー やかん と くるま りょうしゃ よ スクランブル歩道橋のエレベーターが夜間止まってしまう。車いす利用者はどうすれば良いのか。
13	がいどぼらんていあ いっこう ふ よこはま ぽいんと せいど かつよう ガイドボランティアが一向に増えていない。ヨコハマいきいきポイントの制度を活用してはどうか。
14	つうがく いどう しえん りょう かたみち ひ う 通学で移動支援を利用したいが、片道では引き受けがない。
15	でんし はくじょう つうきん し みと 電子白杖なら通勤ができる。市でも認めてほしい。
16	いどう じょうほう せんたー じゅうじつ じょうほう え 移動情報センターの充実により情報を得ることができている。
17	がいどへるばー ひとで ぶそく か もの い ガイドヘルパーの人手不足、買い物に行けない。
18	にっちゅうかつどう きかく なかま いっしょ がいしゅつ こじんてき い 日中活動での企画で仲間と一緒に外出するものいいけど・・・個人的にも行きたいことがある。
19	あくせさりー か アクセサリーを買い、おしゃれをしてでかけたい。



20	へるぱー そうげい こと がいどへるぱー じゅうじつきょうか へるぱー はば ひろ ひつよう ヘルパーは送迎する事ができないので、ガイドヘルパーの充実強化。もしくはヘルパーの幅を広げることが必要。
21	つういん おお ひと いどう しえん じかん ふそく ぶん ぐるーぷほーむ しょくいん かさん どう よ おも 通院が多い人の移動支援時間が不足。その分グループホーム職員が。加算等があれば良いと思う。
22	かいご たくしー つか おお ゆーでいー たくしー りすとあっぷ たくしー かいしゃ うんてんしゆ りよう でき よやく ひ 介護タクシーを使うことが多い。UDタクシーのリストアップがなされていたが、タクシー会社に運転手がいないと利用が出来ないので、予約が必 つよう じょうきよう きゆう りよう ようぼう たいおう ほ 要な状況。急な利用要望があったときにも対応できるようにして欲しい。

とりにくみ      ぶんか      すぼ一つ      れくりえーしょん  
 ◇取組5-5 文化・スポーツ・レクリエーション

No.	ご 意 見
1	ボランティアサークル、クラブ活動の場は誰がどこで活動してるか分からない。
2	障害者用のカルチャースクールの役割の施設が少ない。
3	同行援護で案内はしてもらえるが、ジョキングは一緒にできない。
4	障害者のスポーツ・芸術活動で助成をしてほしい。
5	カルチャーセンターで習い事をしたくても、コミュニケーションの壁がある。
6	ラポールのようなスポーツ施設を各区に設置してほしい。
7	前、マリノスの選手だった人が教えてくれるサッカーの教室があったな。またあるといいのに。
8	活動ホームの地域交流事業がきっかけで、地域の自治会の方達とやりとりをするようになり、現在は一緒に参加できるレクリエーション（お祭りの出し物や、雑草刈等）を一緒に企画するような関係になった。顔の見える関係が大事だと感じる。
9	グループホームにはとても満足しているが、土日ずっとグループホームにいると息がつかまってしまいがち。出たくても出られない人がいるので、サービスの充実をお願いしたい。
10	文化に触れる機会を増やすための仕組みが必要。
11	ヘルパー不足や支給量の制限で一般の中での余暇を楽しむ事ができない。
12	手帳の割引は使いやすく、映画館に行くときに利用している。
13	ヘルパーが居ないと余暇に行くことが出来ない。ヘルパーを増やしてほしい。
14	いつもの友達、仲間ではなく、外の仲間たちと関わることがいいのだと思う。
15	ガイヘルにお願いすると、どうしても終わりの時間が気になって楽しめない。障害者が主体の余暇となるようにしてほしい。
16	施設に暮らしている横浜市脳性マヒ者協会の友人たちの余暇活動はあまりやっていない。外に出られたとしても、夕食までには帰らないとならない。たまには夜遅くに帰ることも大人なのでほしい。横浜市は、施設の人の暮らしを見つめてほしい。

<small>とりくみ</small> <small>ぶんか</small> <small>すぽーつ</small> <small>れくりえーしょん</small> <b>取組 5 - 5 文化・スポーツ・レクリエーション</b>	
<small>ばんごう</small> <b>No.</b>	<small>ご</small> <small>い</small> <small>けん</small> <b>御 意 見</b>
17	<small>ひ</small> <small>きぶん</small> <small>い</small> <small>ばしょ</small> <small>か</small> <small>がいどへるぱー</small> <small>とちゆう</small> <small>けいろ</small> <small>へんこう</small> <small>でき</small> <small>よか</small> <small>かつどう</small> <small>い</small> その日の気分で行きたい場所が変わることはあることなのに、ガイドヘルパーは、途中で経路の変更が出来ない。それでは余暇活動とは言えないのではないか。
18	<small>しえんしゃ</small> <small>よるかえ</small> <small>おそ</small> <small>い</small> <small>しょうがいしゃ</small> <small>こ</small> <small>あつか</small> <small>す</small> <small>さけくさ</small> <small>かえ</small> 支援者は「夜帰りが遅い」などと言って、障害者のことを子ども扱いし過ぎている。お酒臭くなって帰ってくるようなこともしたい。

<small>た</small> ◇その他	
<small>ばんごう</small> No.	<small>ご</small> <small>い</small> <small>けん</small> 御 意 見
1	<small>よこはま</small> <small>い</small> <small>ちりつ</small> <small>な</small> <small>しよ</small> <small>な</small> <small>る</small> <small>せん</small> <small>たー</small> <small>そう</small> <small>せつ</small> <small>ひつ</small> <small>よう</small> 横浜市立のナショナルセンターの創設が必要。
2	<small>しょう</small> <small>がい</small> <small>も</small> <small>かた</small> <small>おや</small> <small>あん</small> <small>しん</small> <small>せい</small> <small>かつ</small> <small>せい</small> <small>ど</small> <small>かく</small> <small>ほ</small> 障害を持った方の親が安心して生活できる制度の確保。
3	<small>ぶ</small> <small>らん</small> <small>はん</small> <small>えい</small> <small>こ</small> <small>え</small> <small>ひろ</small> <small>ぶ</small> <small>らん</small> <small>じ</small> <small>ゆう</small> <small>ど</small> <small>ち</small> <small>て</small> <small>き</small> <small>しょう</small> <small>がい</small> <small>し</small> <small>や</small> <small>はん</small> <small>えい</small> <small>おも</small> プランの反映に声なき声が拾えてない。プランに重度の知的障害者が反映されていないと思う。
4	<small>し</small> <small>けん</small> <small>しょう</small> <small>がい</small> <small>し</small> <small>や</small> <small>う</small> <small>た</small> <small>り</small> <small>っ</small> <small>ぱ</small> <small>し</small> <small>ごと</small> <small>おも</small> 市や県に障害者のことを訴えるのも、立派な仕事だと思う。
5	<small>び</small> <small>ょう</small> <small>き</small> <small>に</small> <small>ゆう</small> <small>いん</small> <small>み</small> <small>ま</small> <small>も</small> <small>ひと</small> <small>ほう</small> 病気になったときや、入院したときに見守ってくれる人がいた方がいい。
6	<small>そ</small> <small>つ</small> <small>ぎ</small> <small>よう</small> <small>と</small> <small>も</small> <small>だ</small> <small>ち</small> <small>あ</small> <small>ば</small> <small>し</small> <small>ょ</small> 卒業したりしても友達と会える場所があるといい。

て ま べつちゆうかん き げんじょう こん ご ほうこうせい ようてん  
**テーマ別 中間期の現状と今後の方向性 要点**

て ま であ たす あ  
**テーマ1 出会う・つながる・助け合う**

とりくみ 1-1 普及啓発活動をする機会や場がなく、効果的な啓発ができていません。共生社会  
 [普及啓発] の実現に向け、幼少期及び学齢期から障害理解に向け様々な取組を推進します。

とりくみ 1-2 「基幹相談支援センター」の設置や、区役所等の相談支援機関相互の連携体制を強  
 [相談・支援] 化するとともに、相談支援機関の周知や計画相談支援の推進等により、相談支援の充実を図ります。

とりくみ 1-3 高齢化に伴う医療現場等での通訳機会の増加により、専門的な通訳業務を担える  
 [情報の保障] 人材の育成を進めます。また情報発信の際の合理的配慮の提供について、継続的に研修等を実施することにより、市職員への周知を図ります。

とりくみ 1-4 地域防災拠点の要援護者支援の取組は進んでいますが、災害時の要援護者の支援方  
 [災害対策] 法や特別避難場所の対応方法について、地域に対し啓発が必要であり、引き続き障害のある方が安心して避難所生活ができるよう検討していきます。

新規 ● 難病患者等への必要な情報提供 ● 福 発達障害者支援の一層の充実

て ま す く  
**テーマ2 住む、そして暮らす**

とりくみ 2-1 障害者支援施設の耐震再整備は完了しました。地域生活移行については、目標値に  
 [住まい] は達していない状況です。多様化・複雑化している要因・現状を分析し、地域移行に向けた施策の推進に向け検討を行います。

とりくみ 2-2 自立生活アシスタント事業は、全18区での支援体制を整備しました。引き続き支援  
 [暮らし] の質の維持・向上を図っていきます。また地活ホーム、生活支援センター、多機能型拠点の課題を把握・共有し、機能の充実化など課題の解決を行っていきます。

新規 ● 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築 ● 「地域共生社会」の実現に向け  
 た取組等の推進

て ま まいにち あんしん すこ す  
**テーマ3 毎日を安心して健やかに過ごす**

とりくみ 3-1 障害特性を理解し対応ができる医療機関が少ないため、適切な医療が受けられる  
 [健康・医療] 体制が必要です。引き続き、医療や障害福祉施設の従事者に対し、研修等を実施するとともに、重症心身障害児者の在宅生活を支えるネットワーク構築のため、医療機関等と連携し検討しています。

とりくみ 3-2 バリアフリー基本構想に基づいた整備が着実に進んでいます。引き続き、ハード(バ  
 [バリアフリー] リアフリー整備)とソフト(思いやりのこころの育成)の両面を一体的に推進していきます。

とりくみ 3-3 一人ひとりの権利擁護を目的に、障害者虐待防止に関する啓発や研修を実施する  
 [権利擁護] とともに、成年後見制度の利用促進等の取組を推進していきます。

新規 ● 医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置

てーま ちから まな はぐく  
テーマ4 生きる力を学び・育む

- とりくみ かくしゅだんたい たい ひ あり ん ぐと う り よう に ー ず は あく う え げんじょう は あく  
取組 4 - 1 各種団体に対するヒアリング等により利用ニーズを把握した上で、現状を把握し、  
りょういく かい せい り う え こん ご ほうこうせい けつてい  
[療育] 課題を整理した上で、今後の方向性を決定します。
- とりくみ とくべつ し えん ひつよう じどうせいと そうか た よう か いんくろーしぶ きょういくし  
取組 4 - 2 特別な支援が必要な児童生徒は増加し、多様化しています。インクルーシブ教育シ  
きょういく す て む こうちく ひ と り ひ と り に おう しゅうがくそうだん きょういくそうだん おこな きょういくかんきょう  
[教育] ステム構築のため、一人ひとりに応じた就学相談と教育相談を行い、教育環境  
じゅうじつ はか よう じ じ どうせいと たい きょういく し えん おこな こ  
の充実を図るとともに、幼児児童生徒に対して教育支援を行うことで、子ども達  
しょうらい じりつ しゃかいさんか  
の将来の自立と社会参加につなげていきます。
- とりくみ じんざい ぶ そく きつきん かだい じんざい かく ほ せんもんせい たか じんざい ていちゃく  
取組 4 - 3 人材不足が喫緊の課題となっています。人材を確保し、専門性の高い人材を定着さ  
じんざい かく ほ ゆうこう こうほうせんりやく みんかん じぎょうしゃ きょうどう じんざいかく ほ む だ かいさく けん  
[人材の確保・ せるため、有効な広報戦略や民間事業者と協働して人材確保に向け、打開策を検  
いくせい とう  
育成] 討していきます。

しんき しょうがい じ し えん ていきょうたいせい せいびどう  
新規 ● (福) 障害児支援の提供体制の整備等

てーま はたら かつどう よか たの  
テーマ5 働く・活動する・余暇を楽しむ

- とりくみ ほうてい こようりつ ひ あ ていちゃく し えん じぎょう かいし み こ なか しゅうろう し えん せん た ー  
取組 5 - 1 法定雇用率の引き上げや定着支援事業の開始が見込まれる中、就労支援センター  
しゅうろう かたけんとう ふ し えん ないよう こうじょう とく しゅうろう し えん ねつ と わ ー く こう  
[就労] のあり方検討を踏まえ、支援内容の向上に取り組み、就労支援ネットワークの構  
ちく め ぎ きぎょう しみん たい けいはつ はか  
築を目指すとともに、企業や市民に対し啓発を図ります。
- とりくみ きぎょう はつちゅう すく しゅうろう し えん じせつ こうちん ひく じょうきょう しんせつ きょう  
取組 5 - 2 企業からの発注が少なく、就労支援施設の工賃も低い状況ですが、新設した共  
ふくしてきしゅうろう どうじゅちゅうせんたー かつよう ちょうない ゆうせんちようたつ すいしん きぎょう はつ  
[福祉的就労] 同受注センターを活用し、庁内の優先調達を推進するとともに、企業からの発  
ちゅう ふ しゅうち とく  
注を増やすよう周知に取り組みます。
- とりくみ そうか た よう か に ー ず たいおう にっちゅう さーびす かか かくしせつ やくわり  
取組 5 - 3 増加・多様化するニーズに対応するため、日中のサービスに関わる各施設の役割や  
しきくとう かんけいしゃとう けんとう す  
[日中活動] 施策等について、関係者等と検討を進めていきます。
- とりくみ いどう ささ せいど かくじゅう すす りょうじつせき そうか いどうじょうほう  
取組 5 - 4 移動を支える制度の拡充が進み、利用実績は増加しています。また、移動情報  
せんたー ぜんく かいせつ が いどへる ぼー ようせい すす にな て ぶそく  
[移動支援] センターは全区に開設し、ガイドヘルパーの養成が進みましたが、担い手が不足し  
かだい こんご が いどへる ぼー かくほ が いどぼらんていあ  
ているなどの課題があります。今後もガイドヘルパーの確保、ガイドボランティア  
とうちいき いどうしえん にな て はつくつ いくせい とく いどうしえん じゅうじつ めぎ  
等地域の移動支援の担い手の発掘・育成に取り組み、移動支援の充実を目指します。
- とりくみ とうきょう おりんぴっく ぱらりんぴっく ひか しょうがい かた す ぼー つ ぶん かつどう  
取組 5 - 5 東京オリンピック・パラリンピックを控え、障害のある方のスポーツ・文化活動に  
ぶんか す ぼ たい ちゅうもく ひじょう たか に ー ず たいおう し えん しゃ  
[文化・スポ 対する注目が非常に高まっていますが、それぞれのニーズに対応できる支援者と  
ー つ れくり ば じゅうぶん かんけいそしき だんたい れんけい かつどう さ ぼー と じんざいいく  
場が十分ではありません。関係組織・団体と連携し、活動をサポートできる人材育  
えーしょん せい りょう ぼ かくほ すす  
成、利用しやすい場の確保を進めます。

ちゅう かん き げん じょう こん ごと ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゅう かん ぶ かせ  
**中間振り返り**

げんじょう  
**【現状】**

しょうがいりかい ぶきゅうけいはつ ふくし きょういく かんけいだんたいとう かつどう すいしん かつどう  
 障害理解の普及啓発は、福祉・教育をはじめ関係団体等と活動を推進していますが、活動  
 きかい ば すく こうかてき ぶきゅうけいはつ  
 する機会や場が少なく、効果的な普及啓発ができていません。

かだい  
**【課題】**

きょうせいしゃかい じつげん む ちいき れんけい こういき れんけい ぶきゅうけいはつ ひつよう とうじしゃ  
 共生社会の実現に向け、地域との連携や広域と連携した普及啓発が必要です。また当事者  
 ちいき かた こうりゅう ば かくほ おおく しゃかいさんか きかい ひつよう  
 と地域の方がふれあう交流の場を確保し、より多くの社会参加の機会をつくる必要がありま  
 す。

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

かんけいきかん れんけい しょうがいしゃしゅうかん かくしゅい べん と つう ようしょう きおよ がくれいき  
 関係機関と連携しながら、障害者週間や各種イベントを通じて、幼少期及び学齢期から  
 しょうがいじ しゃ かか きかい ぶ しょうがいしゃりかい む さまざま とりくみ すいしん  
 障害児・者と関わる機会を増やし、障害者理解に向け様々な取組を推進していきます。  
 せいふていーねつとぶろじえくとよこはまとう きょうどう ちいき たい だまえこうぎ じっし  
 また、セイフティーネットプロジェクト横浜等と協働し、地域に対し出前講座を実施し、  
 しょうがいとくせいとう ぶきゅうけいはつ そくしん  
 障害特性等の普及啓発を促進します。

じぞくてき ぶきゅう けいはつ そくしん  
**◆持続的な普及・啓発の促進**

しみん む ぶきゅう けいはつ  
**▶市民へ向けた普及・啓発**

じぎょうめい <b>事業名</b>	じつせき <b>これまでの実績</b> へいせい ねん がつまつ (平成29年3月末)	かだい <b>課題</b>	あら ねんかん <b>新たな3年間</b> ほうこうせい <b>の方向性</b>
とうじしゃ しょうがいふくし 当事者や障害福祉 かんれんしせつ しみんだんたい 関連施設、市民団体 とう ぶきゅう けいはつ 等による普及・啓発 かつどう しえん 活動への支援	しょうがいふくしかんれんしせつ 障害福祉関連施設 じっし しょうがいり が実施する障害理 かい かん じぎょう けい 解に関する事業を経 ひめん しえん 費面で支援しました。 また、セイフティーネ っ とぶろじえくとよこ ットプロジェクト横 はま だまえこうぎ 浜による出前講座の	ちいき きょうどう さまざま 地域と協働し、様々 ば ぶきゅう けいはつかつ な場で普及・啓発活 どう すいしん 動の推進をすること たいせつ が大切です。	かくじぎょう しえん おこな 各事業の支援を行 うとともに、せいふて いーねつとぶろじえ ーネットプロジェ くとよこはまとう しょうがい クト横浜等の障害 りかい かか ぶきゅうけい 理解に係る普及啓 はつかつどう つう しょう 発活動を通じた障 がいりかい すいしん つと 害理解の推進に努め



	<p>開催など、障害理解 に向けた普及・啓発 活動を実施しました。</p>		<p>ます。</p>
<p>障害者本人及び 家族による普及・啓 発活動の推進</p>	<p>横浜市 障害者 社会 参加推進センター等 により、普及啓発 リーフレットの作成 及び啓発講座等を 実施しました。</p>	<p>地域へ障害理解の 普及・啓発活動をす る場が必要です。</p>	<p>横浜市社会参加推進 センター等と協働 して普及啓発を実施 していきます。</p>
<p>疾病や障害に 関する情報の発信</p>	<p>年度ごと情報更新 をし、紹介しまし た。</p>	<p>より分かりやすい 情報の発信が必要 となっています。</p>	<p>引き続き、ホームペー ジなどの媒体を活用 して、疾病や障害に 関する情報や支援 に関わる活動の情 報を更新していきま す。</p>
<p>各区の普及・啓発 活動の促進</p>	<p>各区独自で地域特性 に応じた普及・啓発 活動をしました。</p>	<p>福祉分野だけでなく、 他分野とも横断的に 連携した普及・啓発 活動が必要です。</p>	<p>障害者週間を中 心に各区で普及・啓 発活動を促進してい きます。</p>
<p>4校種 図画工作・ 美術・書道作品展 特別支援教育部門 ～つたえたい ぼく のおもい わたしの きもち～の開催</p>	<p>4校種（小・中・ 高・特別支援）の幼児 児童生徒の作品を 一堂に集め、市民 公開の作品展を開催 し、毎年1万人を超 える市民が来場し ています。また、平成 28年度にはNPOの 後援を受け、展示する パネルを新しくする ことができました。</p>	<p>様々な幼児児童生徒 が参加しているにも 関わらず、会場の 駐車場が狭く、 特別支援学校のスク ールバスの駐車及 び駐車場の確保が 困難な状況です。</p>	<p>4校種（小・中・ 高・特別支援）の幼児 児童生徒の作品を 一堂に集め、市民 公開の作品展を開催 することで、障害の ある子どもの文化活 動に関する普及・啓 発を図ります。</p>



がくれいき じゅうてんてき ふきゅう けいはつ  
◆学齡期への重点的な普及・啓発

しょう ちゅうがっこう しょうがいりかい そくしん  
▶ 小・中学校への障害理解の促進

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 へいせい ねん がつまつ (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
がくれいきじどうおよ 学齡期児童及び ほごしゃ しょうがい 保護者への障害 りかいけいはつ 理解啓発	しない とうじしゃだんたいとう 市内の当事者団体等 の協力を得ながら、 きょうりょく え 教育委員会事務 きょういく いんかいじ む 局と連携し、教職 きやく れんけい きょうしやく 員向けの障害理解 いんむ しょうがいりかい を進める冊子を すす きっし 作成・発行しました。 さくせい ほうこう 	がくれいき じどうおよ ほご 学齡期児童及び保護 しゃ しょうがいりかい 者への障害理解に む ひ つづ とく 向け、引き続き取り組 みが必要です。 ひつよう	しない とうじしゃだんたいとう 市内の当事者団体等 の協力を得ながら、 きょうりょく え 教育委員会事務 きょういく いんかいじ む 局と連携し、障害 きやく れんけい しょうがい 理解を進める教材 りかい すず きょうざい 等を作成します。 とう さくせい

とも そだ とも まな こうりゅうおよ きょうどうがくしゅう  
▶ 共に育ち、共に学ぶ交流及び共同学習

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 へいせい ねん がつまつ (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
ふくがくせき こうりゅう 副学籍による交流 きょういくおよ きょうどうがく 教育及び共同学 しゅう 習	まいとし めい こ 毎年、200名を超える じどう せいと ふくがくせき 児童生徒が副学籍 こうりゅう りよう きよ 交流を利用し、居 じゅうち しょう ちゅうがっこう 住地の小・中学校 での授業や校外 じゅぎょう こうがい 活動において一緒に かつどう いっしょ 学ぶ機会を設けるこ まな きかい むう とができました。 	ふくがくせき こうりゅう 副学籍による交流 およ きょうどうがくしゅう 及び共同学習のさ らなる推進のために、 うけい さき 受入れ先となる しょう ちゅうがっこう 小・中学校での りかい すず 理解を進めるととも とくべつしえんがっこう に、特別支援学校で たいせい こうちく の体制づくりを構築 する必要があると ひつよう 	きょうせいしゃかい じつげん 共生社会の実現に む とくべつしえんがっこう 向け、特別支援学校 かよ じどうせいと に通う児童生徒と、 ちいき がっこう かよ こ 地域の学校に通う子 どもたちとの交流 こうりゅう をより一層推進して いきます。 いつそうすいしん

中間期の現状と今後の方向性

中間振り返り

【現状】

障害のある人たちへの相談支援を担う「基幹相談支援センター」の設置や、区役所等の相談支援機関相互の連携体制を強化するとともに、計画相談支援の推進に向けた取組を進めています。

【課題】

相談支援機関の周知や、相談支援が必要な全ての方への支援が足りていません。

【今後の方向性】

引き続き、基幹相談支援センター、区役所、精神障害者生活支援センターによる3機関連携を軸として、各区域における相談支援体制の充実に努めていきます。さらに、計画相談支援の推進等により、相談支援を必要とする方へ相談支援を提供するとともに、地域ケアプラザ等の地域の社会資源との連携や、当事者等による相談支援の充実に図ります。

◆相談支援体制の再構築と充実

▶相談支援機関の役割の明確化と充実

事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	課題	新たな3年間の方向性
相談支援事業の周知及び普及・啓発	区自立支援協議会や各障害者団体、事業所連絡会等において、継続的に周知、啓発に取り組みました。	今でもどこに相談すればいいのかかわからないという声や、気軽に相談できる場所がないという声や、欲しいという声があがっており、相談支援事業が身近なものになっていません。	相談支援事業が身近なものになるように、区自立支援協議会等と連携して、周知、啓発を継続します。

<p>そらだんしえんじゆうじしゃ 相談支援従事者の じんざいいくせい 人材育成</p>	<p>よこはまししょうがいしゃじりつ 横浜市障害者自立 しえんきょうぎかいじんざいいくせい 支援協議会人材育成 ぶかい 部会において、「横浜 しそらだんしえんじゆうじしゃ 市相談支援従事者 じんざいいくせいびじょん 人材育成ビジョン」 へいせいねんどかいてい を平成28年度に改訂 し、へいせいねんど 平成29年度から ほんびじょんもと 本ビジョンに基づい たじんざいいくせいとく た人材育成に取り組 めるように検討を おこな 行っています。 また、くじりつしえんきょう 区自立支援協 ぎかい 議会に相談支援部会 をせつち を設置し、相談員同 士の横のつながりを うなが 促し、育ち合える環 まきょう 境の整備を推進し ています。</p>	<p>ひとりしょくば 一人職場の相談員が おおなか 多い中、職場内での オージェイティー OJTが進まず、 じんざい 人材が育ちづらい じょうきょう 状況があります。 また、けいやく 計画相談支援 をたう を担う相談支援専門 いんかず 員の数が少なく、障 がい 害のある人に相談支 えん 援が行き渡っていま せん。</p>	<p>よこはましそらだんしえん 「横浜市相談支援 じゆうじしゃじんざいいくせいび 従事者人材育成ビ じょん ジョン」に基づき、 ししいき 市域で実施する研 しゅうとう 修等と区域で実施 するそらだんしえんぶかい する相談支援部会や オージェイティーとう OJT等の取組を れんどう 連動させ、よこはまし 連動させ、横浜市 ぜんたい 全体で一体的な人材 いんざいいくせい 育成に取り組みます。 また、そらだんしえんせんもん 相談支援専門 いんぶ 員が増えるように、 じぎょうしょ 事業所への勸奨を けいぞく 継続します。</p>
<p>とうじしゃ 当事者による相談 のじゆうじつ 充実</p>	<p>びあそらだんいんけんしゅう ピア相談員研修を かつよう 活用し、ピア相談員 のすきるあつぷ のスキルアップを図 りました。また、ピア そらだんせんたーこーで 相談センターコーデ いねーたー イネーターが一次相 だんしえんきかんあつ 談支援機関の集まり さんか に参加し、派遣相談 とうとりくみしゅうち 等の取組の周知を おこな 行っています。</p>	<p>びあそらだんせんたー ピア相談センターに かか 係る理解が広がら ず、とうじしゃそらだん じゆう ず、当事者相談の十 ぶん 分な活用がされてい ません。</p>	<p>きかんそらだんしえんせんた 基幹相談支援センタ ーとう 一等の相談支援機関 たい に対して、ピア相談 せんたーとりくみ センターの取組の しゅうち 周知を強化し、 とうじしゃそらだん かつよう 当事者相談の活用に つなげていきます。</p>
<p>きそん 既存の相談窓口 ちいきけあぶらざ (地域ケアプラザ とう 等)による連携</p>	<p>ちいきみじか 地域の身近な相談 きかん 機関である、地域 けあぶらざ ケアプラザにおいて、 しょうがい 障害に関する相談 う を受け、必要に応じ てきせつ て適切な機関へつな</p>	<p>ちいきけあぶらざ 地域ケアプラザごと に、そらだんけんすう に、相談件数に差が しょう 生じています。</p>	<p>こうほうなど 広報等を通じ、ちいき 地域 けあぶらざ ケアプラザでは障 がいじしゃかん 害児・者に関する相 だんう 談も受け付けている ことなどをしみん の みなきま 皆様に周知し、そらごう 総合</p>

	<p>げました。  <small>へいせい ねんど</small>          平成27年度  <small>そうだんけんすう</small>          相談件数：1,632件</p>	<p><small>そうだん とりくみ けいぞく</small>          相談の取組を継続し          ていきます。</p>
--	---	---

福 ※1

	<small>へいせい ねんど</small> 平成27年度	<small>へいせい ねんど</small> 平成28年度	<small>へいせい ねんど</small> 平成29年度	<small>へいせい ねんど</small> 平成30年度	<small>へいせい ねんど</small> 平成31年度	<small>へいせい ねんど</small> 平成32年度
<small>けいかくそうだんしえん</small> 計画相談支援 <small>りようしゃすう</small> 利用者数 <small>ねんかん</small> (年間)	21,500 人	23,000 人	24,500 人	22,000 人	23,000 人	24,000 人
	<small>しゆめい</small> :4,777 人	<small>しゆめい</small> :5,662 人				

※1…福は、「障害福祉計画」で定めるサービス等の数値目標を指します。(以下、同様とします)

なお、障害福祉計画には、障害福祉サービスの見込み量と、地域の特性や利用者の状況に応じ、柔軟な形態により事業を進める地域生活支援事業の見込み量が含まれています。

くじりつしえんきようぎかい もくてき やくわりとう せいり  
 ▶区自立支援協議会の目的・役割等の整理

<small>じぎょうめい</small> 事業名	<small>じつせき</small> これまでの実績 <small>へいせい ねん がつまつ</small> (平成29年3月末)	<small>かだい</small> 課題	<small>あら ねんかん</small> 新たな3年間 <small>ほうこうせい</small> の方向性
<small>しじりつしえんきようぎかい</small> 市自立支援協議会 <small>くじりつしえんきよう</small> と区自立支援協 <small>ぎかい れんけい れんどう</small> 議会の連携・連動	<small>しじりつしえんきようぎかい</small> 市自立支援協議会に <small>くじりつしえんきようぎかい</small> 区自立支援協議会で <small>けんとう ちいきかだい</small> 検討した地域課題の <small>ほうこく しさく ていあん</small> 報告や施策の提案な <small>おこな る ー る</small> どを行うルールを <small>さだ</small> 定めることで、市自立 <small>しえんきようぎかい くじりつ</small> 支援協議会と区自立 <small>しえんきようぎかい れんけい</small> 支援協議会が連携・ <small>れんどう</small> 連動する仕組みをつ くりました。	<small>くいき しいき と く</small> 区域と市域で取り組 <small>かだい せいり たいおう</small> む課題の整理と対応 <small>ほうほう かか る ー る</small> 方法に係るルールが <small>ほうほう かか る ー る</small> 設定し、効果的な <small>せってい ちいき</small> 地域づくりの取組を すす 進めます。	<small>くいき しいき と く</small> 区域と市域で取り組 <small>かだい せいり たいおう</small> む課題の整理と対応 <small>ほうほう かか る ー る</small> 方法に係るルールを せってい 効果的な 地域づくりの取組を すす 進めます。
<small>くいき こ おうだん</small> 区域を超えた横断 <small>てき けんとう すいしん</small> 的な検討の推進	<small>しじりつしえんきようぎかい</small> 市自立支援協議会へ <small>ちいきかだい ほうこくとう</small> の地域課題の報告等 <small>あ る ー る さだ</small> を挙げるルールを定 <small>くじりつし</small> めたことで、区自立支 <small>えんきよう ぎ かい およ ぶ</small> 援協議会及びプロ <small>く れんらくかい</small> ック連絡会におけ <small>しいき かだい</small> る、市域の課題の	<small>ぶ、ろ っ くれんらくかい</small> ブロック連絡会のあ <small>かた せいり</small> り方が整理されてい <small>とりくみないよう</small> ないため、取組内容 <small>しやう</small> にばらつきが生じ、 <small>おうだんてき けんとう さまた</small> 横断的な検討を妨 <small>じやうきやう</small> げている状況があ ります。	<small>ぶ、ろ っ くれんらくかい</small> ブロック連絡会のあ <small>かた せいり</small> り方を整理し、市自 <small>りつしえんきようぎかい ぶ、ろ</small> 立支援協議会、プロ <small>っ くれんらくかい くじりつ</small> ック連絡会、区自立 <small>しえんきようぎかい</small> 支援協議会の3層の <small>れんどう きやうか</small> 連動を強化させるこ とで、区域を超えた

	きょうゆう たいおう けんとう 共有や対応の検討 かっぱつか が活発化しました。	おうだんてき けんとう すいしん 横断的な検討を推進 していきます。
--	---	--

なんびょうかんじゃ そうだんしえん じっし  
▶ 難病患者への相談支援の実施

これまでの実績 (平成29年3月末)	課題	新たな3年間の方向性
かくく せんもんい 各区において、専門医による いりょうこうえんかい ねんかん かい 医療講演会を年間2回ずつ、 しっかんべつ こうりゅうかい じっし 疾患別の交流会を実施して います。 へいせい ねん どうかいさいすう かい 平成27年度開催数：203回 へいせい ねん どうかいさいすう かい 平成28年度開催数：193回 へいせい ねん どうかいさいすう かい 平成29年度開催数：200回 みこ (見込み)	きしょうしっかん こうえんかい こうりゅうかい 希少疾患の講演会・交流会 の機会が十分ではありません。 ん。	なんびょうそうだん しえん せん たー 難病相談・支援センターと れんけい じぎょう じゅうじつ 連携をとり、事業の充実を はか 図っていきます。

【新規】

● 難病患者等への必要な情報提供

なんびょうかんじゃとう ほんにん たい ひつよう じょうほうていきょう おこな  
難病患者等、本人に対して必要な情報提供を行うこと等により、難病患者等  
しょうがいふくしきーび すとう かつよう うなが けんとう  
の障害福祉サービス等の活用が促されるよう検討します。

▶ 発達障害者に関わる相談支援の充実

事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	課題	新たな3年間の方向性
はったつしょうがいしゃしえん 発達障害者支援 せんたーうんえいじぎょう センター運営事業	はったつしょうがいしゃ みぢか ・発達障害者が身近 な地域で相談を受け られるよう、18区に とくていそうだんび もう 特定相談日を設けま した。 はったつしょうがい かん ・発達障害に関する いちじそうだんしえん しかん 一次相談支援機関の しえん すきる こうじょう 支援スキル向上の ため、研修を開催し ました。	いちじそうだんしえん しかん 一次相談支援機関や かんけいしかん れんけい 関係機関との連携を きょうか ひつよう 強化する必要があり ます。また、二次相談 しえん しかん 支援機関としての やくわり せいり 役割の整理をする ひつよう 必要があります。	みぢか ちいき 身近な地域における そうだんしえんたいせい きょうか 相談支援体制の強化 めざ を旨すとともに、 はったつしょうがいしゃしえん せん 発達障害者支援セン たーきのう じゅうじつ ター機能の充実を はか 図ります。



【新規】

	平成30年度	平成31年度	平成32年度
発達障害者支援 地域協議会の開催件数 【新規】	今後設定 件	今後設定 件	今後設定 件
発達障害者支援 センターによる相談 件数 【新規】	今後設定 件	今後設定 件	今後設定 件
発達障害者支援セン ター及び発達障害者 地域支援マネジャーの 関係機関への助言件数 【新規】	今後設定 件	今後設定 件	今後設定 件
発達障害者支援セン ター及び発達障害者 地域支援マネジャーの 外部機関や地域住民 への研修、啓発 【新規】	今後設定 件	今後設定 件	今後設定 件

▷ 高次脳機能障害に関わる関係機関の連携促進

これまでの実績 (平成29年3月末)	課題	新たな3年間の 方向性
高次脳機能障害に対する 専門相談を行う相談支援 拠点を拡大し、10か所で 実施しました。	高次脳機能障害や相談機関 の更なる周知と、相談支援 体制の強化及び関係機関と の連携強化を図る必要があ ります。	高次脳機能障害に対する普 及啓発をより一層行いま す。また、研修等の実施に より、相談支援体制の強化を 図ります。

とりくみ じょうほう ほししょう  
**取組1-3 情報の保障**

ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゅう かん ふ かえ  
**中間振り返り**

げんじょう  
**【現状】**

「障害者差別解消の推進に関する取組指針」や「障害を理由とする差別解消の推進に関する職員対応要領」を策定し、その方の障害特性にあった情報発信を基本として対応をしています。また、手話通訳者及び要約筆記者の派遣による意志疎通については、安定した対応ができています。

かだい  
**【課題】**

高齢化に伴う医療現場等での通訳機会の増加等により、専門的な通訳業務を担う人材の養成が必要です。また、情報発信の際の合理的配慮の提供を、継続的に周知していく必要があります。

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

引き続き安定した派遣ができるよう、手話通訳及び要約筆記者の養成を進めるとともに、よりニーズにあった専門的な通訳業務を担える人材の育成を進めます。対応要領の周知を目的とし、市職員を対象に研修を継続的に実施していきます。また取組指針に基づき、民間事業者等に普及啓発を推進していきます。

ぎょうせいじょうほう ごうりてきはいりよ すいしん  
**◆ 行政情報における合理的配慮の推進**

こみゆにけーしょんぼーど かーど かつようそくしん  
**▶ コミュニケーションボード・カードの活用促進**

<p>これまでの実績  <small>じっせき</small>  <small>へいせい ねん がつまつ</small>  <b>(平成29年3月末)</b></p>	<p>かだい  <b>課題</b></p>	<p>あら ねんかん  <b>新たな3年間</b>  <small>ほうこうせい</small>  <b>の方向性</b></p>
<p>セイフティーネットプロジェクト                      横浜において、コミュニケーションボード・カードの活用を推進するほか、地域防災拠点等で活用するコミュニケーションボード</p>	<p>作成・配付したコミュニケーションボード・カードが普及するよう、引き続き地域防災拠点等様々な場</p>	<p>セイフティーネットプロジェクト                      横浜において、コミュニケーションボード・カードの活用を推進するほか、必要に応じてこれまでに作成したコミュニケーションボ</p>

<p>さいがいよう ぞうさつ みせ (災害用)を増刷し、またお店で かつよう こみゆにけーしょんぼ 活用するコミュニケーションポ ード (お店用) の改訂を行いま した。</p>	<p>めん ふきゆう けいはつ 面での普及・啓発 かつどう ひつよう 活動が必要です。</p>	<p>ード みなお どう じっし ードの見直し等を実施します。</p>
---	---	---

<p>じぎょうめい 事業名</p>	<p>これまでの実績 (平成29年3月末)</p>	<p>かだい 課題</p>	<p>あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性</p>
<p>ごうりてきはいりよ ふ 合理的配慮を踏まえ じょうほうほっしん た情報発信の るーるか ルール化</p>	<p>しょうがいしゃさべつかいしょう ・「障害者差別解消 すいしん かん とりくみ の推進に関する取組 ししん しょうがい り 指針」や「障害を理 ゆう さべつかいしょう 由とする差別解消 すいしん かん しょく の推進に関する職 いんたいおうようりょう さくてい 員対応要領」を策定 しょうがい ひと し、障害のある人の いこう かくにん ぼめん 意向を確認し、場面 おう かんが たいおう に応じて考え、対応 よこはま していくことを横浜 し たいおう きほん 市の対応の基本とし ました。 ちょうかくしょうがい ・聴覚障害のある ひと じょうほうほしょう 人への情報保障の とりくみ たぶれ 取組として、タブレ つ とたんまつ かつよう ット端末を活用した しゅわつうやくさーびす 手話通訳サービスの ていきょうとう く 提供等により、区 やくしよまどぐち しゅ 役所窓口における手 わつうやくたいおう じゅうじつ 話通訳対応の充実 はか を図りました。</p>	<p>じょうほうほっしん さい ・情報発信の際の ごうりてきはいりよ ていきょう 合理的配慮の提供 は、すべての職場に かか てーま 関わるテーマである ため、けいぞくてき よこはま 継続的に横浜 ししよくいん しゅうち 市職員への周知を はか ひつよう 図る必要があります す。 しかくしょうがい ちてきしょう ・視覚障害、知的障 がいどう ひと 害等のある人への じょうほう ほしょう とりくみ 情報保障の取組を すす ひつよう 進めていく必要があ ります。</p>	<p>しょうがいしゃさべつかいしょう 「障害者差別解消 すいしん かん とりくみ の推進に関する取組 ししん ちと し 指針」に基づき、視 かく ちょうかく ちてきしょうがい 覚・聴覚・知的障害 じゃどう じょうほうていきょう 者等への情報提供 ごうりてきはいりよ について合理的配慮 ていきょう けいぞくてき の提供を継続的に じっし 実施していきます。</p>



福 ※1 い し そ つ う し え ん じ ぎ よ う と う  
**意思疎通支援事業等**

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
しゅわつうやくしゃ 手話通訳者の はけん 派遣 りようしゃすう (利用者数)	8,900 人	9,500 人	9,900 人	9,900 人	9,900 人	9,900 人
	実績: 7,897 人	実績: 8,343 人				
ようやくひつきしゃ 要約筆記者の はけん 派遣 りようしゃすう (利用者数)	1,750 人	1,800 人	1,900 人	1,900 人	1,900 人	1,900 人
	実績: 1,494 人	実績: 1,591 人				
しゅわほうしん 手話奉仕員 ようせいけんしゅうじぎょう 養成研修事業 ようせいじんずう (養成人数)	80 人	80 人	80 人	172 人	172 人	172 人
	実績: 44 人	実績: 144 人				
しゅわつうやくしゃ ひつ 手話通訳者・筆 きしゃようせいけんしゅう 記者養成研修 じぎょう 事業 ようせいじんずう (養成人数)	40 人	40 人	40 人	90 人	90 人	90 人
	実績: 50 人	実績: 61 人				
もろろ しゃお 盲ろう者向け つうやく かいじょいん 通訳・介助員 ようせいけんしゅうじぎょう 養成研修事業 ようせいじんずう (養成人数)	25 人	25 人	25 人	30 人	30 人	30 人
	実績: 4 人	実績: 21 人				

ちゆう かん き けん しよつ こん こ ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゆう かん ふ かえ  
**中間振り返り**

げんじよう  
**【現状】**

ちいきほうさいきよてん ようえんごしゃしえん とりくみ じよじよ ちいき すす とくべつひなんぼしよ  
 地域防災拠点の要援護者支援の取組が徐々に地域でも進んでいます。また、特別避難場所の  
 かくほ すす はっさいじ そうてい うんえいほうほうとう くんれん かいさい  
 確保も進み、発災時を想定した運営方法等の訓練も開催されています。

かだい  
**【課題】**

さいがいじ ようえんごしゃ しえんほうほう とくべつひなんぼしよ たいおうほうほうとう ちいき たい ひろ けいはつ  
 災害時の要援護者の支援方法や特別避難場所の対応方法等について、地域に対し広く啓発  
 していく必要があります。また、当事者やご家族にも避難手段等を把握していただく必要があ  
 ります。

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

しょうがい かた あんしん ひなんじよせいかつ ちいきほうさいきよてんうんえいいいんかい くんれん じ  
 障害のある方が安心して避難所生活ができるよう、地域防災拠点運営委員会や訓練時を  
 りよう しょうがいとくせい おつ しえんたいせい きよてん うんえいほうほうとう ひ つづ けんとう  
 利用し、障害特性に応じた支援体制、拠点の運営方法等を引き続き検討していきます。

さいがいじ じじよ きようじよ こうじよ しんとう  
**◆災害時の自助・共助・公助の浸透**

さいがいじ ようえんごしゃ たいさく  
**▶災害時要援護者への対策**

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 じっせき (平成29年3月末) へいせい ねん がつまつ	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
さいがいじ ようえんごしゃ 災害時要援護者 しえんじぎよう 支援事業	さいがいじ ようえんごしゃしえん 災害時要援護者支援 とりくみ じっし の取組を実施してい じ ちかい ちょうないかい る自治会・町内会の わりあい ばーせんと 割合：82.2 %	とりくみ ちいき そろ ほか 取組地域の増を図る とともに、さいがいじ 災害時 ようえんごしゃしえん とりくみ 要援護者支援の取組 ぜんたい かくだい すす 全体の拡大を進める ひつよう 必要があります。	さいがいじ ようえんごしゃしえん 災害時要援護者支援 とりくみ じっし の取組を実施してい ちく かくだい る地区を拡大しま す。

<p>しょうがいしゃ しえんしゃ 障害者・支援者に よるキャラバン隊 はけんしえんじぎょう 派遣支援事業</p>	<p>せいふていーねっと セイフティーネット ぶろじえくとよこはま プロジェクト横浜の きょうりよく え ちいき 協力を得て、地域 ぼうさいきよてんくんれん 防災拠点訓練におい しょうがいりかい かか て障害理解に係る でまえこうぎ じっし 出前講座を実施しま した。また、出前講座 かつよう む かくく の活用に向け、各区 やくしよ かつどう しゅうち 役所に活動を周知 しました。</p>	<p>ちいきぼうさいきよてん 地域防災拠点におい しょうがいりかい すす て障害理解が進む よう、こんご と く よう、今後も取り組み ひつよう が必要です。</p>	<p>せいふていーねっと セイフティーネット ぶろじえくとよこはま プロジェクト横浜が じっし しょうがい 実施している障害 りかい かか でまえこうぎ 理解に係る出前講座 どう ちいきぼうさいきよてん 等を地域防災拠点訓 れんどう かつよう 練等で活用いただけ るよう、かくく ちいき るよう、各区の地域 ぼうさいきよてんらんえいいんかい 防災拠点運営委員会 かいぎどう しゅうち の会議等で周知する ちいきぼうさい とともに、地域防災 きよてんくんれん さんか 拠点訓練に参加しや しいく けんどう すい仕組みを検討し ます。</p>
<p>しょうがいしゅべつさいがいじ 障害種別災害時 たいおうまにゅある 対応マニュアルの さくせい 作成</p>	<p>しょうがいしゅべつ とく 障害種別ごとの特 せいとう きさい 性等が記載された しょうがいしゃり かいけいはつきつ 障害者理解啓発冊 し こころ て か 子「心と手を貸して かくく ちいき ください」を各区地域 ぼうさいきよてんらんえいいんかい 防災拠点運営委員会 はいふ ちいき で配付したほか、地域 ぼうさいきよてんくんれん どう 防災拠点訓練等で しょうがいとくせい ぶく 障害特性を含めた たいおうほうほう しゅうち と 対応方法の周知に取 り組みました。</p>	<p>しょうがいとくせい おう 障害特性に応じた ひつよう はいりよ 必要な配慮がなされ るよう、ひ つづ ま るよう、引き続き、マ ニュアルの作成とと にゅある さくせい マニュアルの作成とと ちいき しょうがい もに、地域での障害 りかい ぶか 理解を深めていく ひつよう 必要があります。</p>	<p>まにゅある さくせい む マニュアル作成に向 けたけんとう すす けた検討を進めま す。</p>
<p>ちいきぼうさいきよてん 地域防災拠点にお けるしょうがいしゃたいけん 障害者体験</p>	<p>せいふていーねっと セイフティーネット ぶろじえくとよこはま プロジェクト横浜が じっし しょうがい 実施している障害 りかい かか でまえこうぎ 理解に係る出前講座 どう ちいきぼうさいきよてん 等を地域防災拠点 くんれんどう かつよう 訓練等で活用いただ かくく ちいき けるよう、各区地域 ぼうさいきよてんらんえいいんかい 防災拠点運営委員会 どう しゅうち 等に周知しました。</p>	<p>めにゅー かつよう メニューを活用いた だけるよう、ひ つづ だけるよう、引き続き しゅうち おこな 周知を行うととも とりくみ かくだい に、取組の拡大が ひつよう 必要です。</p>	<p>せいふていーねっと セイフティーネット ぶろじえくとよこはま プロジェクト横浜が じっし しょうがい 実施している障害 りかい かか でまえこうぎ 理解に係る出前講座 どう ちいきぼうさいきよてん 等を地域防災拠点 くんれんどう かつよう 訓練等で活用いただ かくく ち けるよう、各区の地 いきぼうさいきよてんらんえいいん 域防災拠点運営委員 かい かいぎどう しゅうち 会の会議等で周知し ます。</p>

こうじょ やくわりぶんたん めいかくか  
 ▶ 公助の役割分担の明確化

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
くきょくしょうがいしゃさいがい 区局障害者災害 たいさくかいぎ 対策会議	かんけいくきょく 関係区局において、 とくべつひなんぼしよ 特別避難場所に係る か だいきんとう おこな 課題検討を行いました。	かんけい くきょくかん 関係する区局間での れんけい けんとう ふか 連携・検討を深め、 さいがいほつせいじ たいさく 災害発生時の対策を ふか ひつよう 深めていく必要があ ります。	ゆうこう れんけいしゅほう 有効な連携手法や たいおう けんとう 対応を検討していま ます。

きょうじょ じじょ しゅく こうちく  
 ▶ 共助・自助の仕組みの構築

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
しょうがいしゃさいがいたいさく 障害者災害対策 かいぎ 会議	かいぎ じっしほうほう けん 会議の実施方法の検 とう 討および内部調整 をおこな を行いました。	さいがいじ しすてむ 災害時のシステムの しゅうち てつてい 周知が徹底されて いないため、じじょ 自助・ きょうじょ はなしあ ふか 共助の話し合いを深 めていくことが必要 です。	かいぎとう ぼ つう 会議等の場を通じ て、じじょきょうじょ とりくみ 自助共助の取組 をすいしん 推進していきま す。

しょうがいとくせい おう おうきゅうびちくぶつし ほかんぼしよ かくほ  
 ▶ 障害特性に応じた応急備蓄物資の保管場所の確保

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
しょうがいしゅべつおうきゅうび 障害種別応急備 ちくぶつし れんけいじぎょう 蓄物資連携事業	すともようそうぐ ほかん ストマ用装具の保管 ぼしよ ほかんよう 場所として、保管用 ろっかー く かく ロッカーを18区(各 く しょ せっち 区1か所)に設置しま した。	せいど たいしょう 制度の対象となる かた じぎょうないよう しゅうち 方に事業内容が周知 されるよう、ひ つづ 引き続 き、こうかてき こうほう 効果的な広報を おこな ひつよう 行っていく必要が あります。	けいぞく じっし 継続して実施してい きます。

とりくみ  
取組 2-1 住まい

ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
中間期の現状と今後の方向性

ちゅう かん ぶ かえ  
中間振り返り

げんじょう  
【現状】

たいしんきじゆん み しょうがいしゃしえんしせつ せいび かんりょう かいしょう  
耐震基準を満たしていなかった障害者支援施設については整備の完了で解消しました。  
こうれいか じゅうどかたいおう ぐるーぶほーむ もでるじぎょう しゅうりょう つうじょうじぎょう いこう  
高齢化・重度化対応のグループホームについてはモデル事業を終了し、通常事業へ移行し  
ました。ちいきせいかつこう ちいきせいかつこう もくひょうすうち たっ じょうきょう  
地域生活移行については、目標数値には達していない状況です。

かだい  
【課題】

こうれいか じゅうどかたいおう ぐるーぶほーむ ひつよう じんいん せつび さら せいり ひつよう  
高齢化・重度化対応のグループホームに必要な人員、設備について更なる整理が必要です。  
ちいきせいかつこう すす よういん たようか ぶくざつか げんじょう ぶんせき ひつよう しさく  
地域生活移行が進まない要因は、多様化・複雑化しているため、現状を分析し、必要な施策を  
けんとう ひつよう  
検討する必要があります。

こんご ほうこうせい  
【今後の方向性】

こうれいか じゅうどかたいおう ぐるーぶほーむ すいしん む けんとう かんけいしゃ ひありんぐ  
高齢化・重度化対応グループホームの推進に向け検討します。また、関係者へのヒアリング  
とう つう ちいきいこう む しさくけんとう おこな  
等を通じ、地域移行に向けた施策検討を行います。

◆ 障害状況に合わせた住まいの充実

▶ 様々なニーズに応える住まいの構築

<p>事業名</p>	<p>これまでの実績 (平成29年3月末)</p>	<p>課題</p>	<p>新たな3年間の方向性</p>
<p>行動障害のある方の住まい検討</p>	<p>市内の法人が連携し、障害福祉サービス事業所等の支援者に対し、行動障害に係る支援力向上を図るための研修を実施しました。 発達障害者支援センターに地域支援マネジャーを配置し、障害福祉サービス事業所等に対する行動障害・発達障害に係るコンサルテーションを実施しました。 行動障害に対応するグループホームについて検討しました。</p>	<p>研修で学んだことを現場で実践できる仕組みを構築します。 また、地域支援マネジャーの取組に対する効果検証が必要で</p>	<p>行動障害に対する支援力向上を図るため、研修を継続して実施していきます。 また、地域支援マネジャーの取組に対する効果を検証の上、実施件数を拡大します。 さらに、行動障害に対応するグループホームの改修等に対する助成を検討します。</p>
<p>サポートホーム事業 (あ)*<sub>1</sub> (発達障害者に対する生活支援の推進)</p>	<p>サポートホーム事業により、発達障害のある人の生活支援を実施しました。</p>	<p>生活支援に対するニーズが増加する一方で、生活支援を行う仕組みが不足しています。</p>	<p>支援ニーズの増加に対する対応を検討します。</p>
<p>養護老人ホーム整備事業 (視覚障害者の入所)</p>	<p>平成28年2月1日に養護老人ホーム「野庭風の丘」が開所しました。</p>	<p>特にありません。</p>	<p>視覚障害者定員6名について、継続的な入所受入をしていきます。</p>

	<p>平成29年5月1日 時点で5名の視覚障害者が入所しています。(視覚障害者定員6名)</p>		
<p>身体障害者・高齢者の住宅改造及び模様替え</p>	<p>平成27年度実績： 住宅改造59件 (障害者対応24件・高齢者対応35件)、模様替承認154件</p> <p>平成28年度実績： 住宅改造37件 (障害者対応27件・高齢者対応10件)、模様替承認140件</p>	<p>住宅改造は、一般修繕費の中で入居者からの申請に対応しているため、今後申請が急増した場合は調整が必要となります。</p>	<p>現行の仕組みでの対応を維持していきます。</p>

\*1…第2期であんしん施策として開始した事業を表します。(以下同様とします)

【目標】グループホームの設置

		平成27年度		平成28年度		平成29年度			
共同生活援助 (グループホーム)	新規設置/年	200	人分	200	人分	200	人分		
	実績	195	人分	192	人分				
利用者数	利用人数/年	3,700	人分	3,900	人分	4,100	人分		
	実績	3,762	人分	3,959	人分				
				平成30年度		平成31年度		平成32年度	
				200	人分	200	人分	200	人分
				4,300	人分	4,500	人分	4,700	人分

しょうがいしゃしえんしせつ しょうがいじしせつ さいせいびどう  
 ▶ 障害者支援施設・障害児施設の再整備等

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 <small>じっせき</small> (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 <small>ほうこうせい</small> の方向性
しょうがいしゃしえんしせつ 障害者支援施設の さいせいび 再整備	しょうがいしゃしえんしせつ ・ 障害者支援施設 けいわせいねんりょう どう 「恵和青年寮」等 さいせいび 再整備については、 へいせい ねんど こうじ 平成28年度で工事が かんりょう 完了しました。 しょうがいしゃしえんしせつ ・ 障害者支援施設 かいけい どうさいせいび 「偕恵」等再整備に ついては、平成28 ねんど こうじ かんりょう 年度で工事が完了 しました。	—	へいせい ねんど じぎょう (平成28年度で事業 かんりょう が完了しました)
しょうがいじしせつ せい 障害児施設の整 び さいせいび ② 備・再整備	じゅうしょうしんしんしょうがいじしゃ 重症心身障害児者 じせつ よこはま医療福祉 施設「横浜医療福祉 せんたーこうなん」の整備 じえん おこな へいせい 支援を行い、平成28 ねん がつ かいじよ 年6月に開所しまし た。 ろうきゆう か しせつ また、老朽化施設の さいせいび しえん おこな 再整備支援を行い、 ふくしがたしょうがいじにゅうじよ 福祉型障害児入所 じせつ み 施設「ぶどうの実」は へいせい ねん がつ 平成27年9月にしゅ こん工、重症心身障 がいししゃしせつ よこはま 害児者施設「横浜 りょういくいりょうせんたー 療育医療センター」 へいせい ねんどまつ は平成28年度末にし ゅん工し、福祉型 しょうがいじにゅうじよしせつ 障害児入所施設「ぼ らいと・えき」は平成 ねんどまつ こう 29年度末しゅん工 よてい 予定です。	かいだい あら ねんかん ほうこうせい 課題、新たな3年間の方向性については げんざいけんとうちゅう 現在検討中です。	



<p>公立障害者支援施設（横浜市松風学園）の再整備の検討</p>	<p>施設の老朽化の進んだ箇所の洗い出しを行いました。</p>	<p>・設備面は耐用年数を超えており、建築物の長寿命化のための更新が必要です。 ・入所ニーズの高い強度行動障害の方々に不可欠な個室化など施設改修が求められています。</p>	<p>・老朽化した設備面の機能を更新します。 ・入所ニーズに見合った施設環境の整備をします。</p>
----------------------------------	---------------------------------	--	--

福祉施設入所者の地域生活への移行

【目標】福祉施設入所者の地域生活への移行

現状	数値	計画値	数値	計画値	数値
平成25年度末時点での施設入所者数	1,544人	平成29年度末時点での施設入所者	1,515人 【平成28年度】実績:1,494人	平成32年度末時点での施設入所者	1,465人
平成25年度末時点での定員数	1,125人	平成29年度末時点での定員数	1,125人 【平成28年度】実績:1,104人	平成32年度末時点での定員数	1,104人

【目標】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
施設入所支援（利用人数/月）	1,530人 実績:1,510人	1,523人 実績:1,494人	1,515人	1,485人	1,475人	1,465人

しょうがいじにゆうしょ <b>障害児入所</b> しえん ふくしがた <b>支援(福祉型)</b> いりようがた <b>医療型)</b> りようじどうすう <b>(利用児童数/</b> <b>つき月)</b>	226 にんぶん 人分	256 にんぶん 人分	256 にんぶん 人分	256 にんぶん 人分	けいかくちについては、こんご、かこ、たいまじすう <b>計画値については、今後、過去の待機児数</b> じどうそうだんじょ、たい、ひ、ありんく、くよう <b>や児童相談所に対するピアリング等</b> によ りよう、に、ー、ず、は、あく <b>り利用ニーズを把握したうえで、設定し</b> <b>ます。</b>				
	実績:226 にんぶん 人分	実績:239 にんぶん 人分							
しゅくはくがたじりつ <b>宿泊型自立</b> くんれん <b>訓練</b> りようにんすう、つき <b>(利用人数/月)</b>	2,516 にんにちぶん 人日分	2,516 にんにちぶん 人日分	2,516 にんにちぶん 人日分	2,516 にんにちぶん 人日分	2,516 にんにちぶん 人日分	2,516 にんにちぶん 人日分	2,516 にんにちぶん 人日分		
	実績:2,430 にんにちぶん 人日分	実績:2,443 にんにちぶん 人日分							
	96 にんぶん 人分	96 にんぶん 人分	96 にんぶん 人分	96 にんぶん 人分	96 にんぶん 人分	96 にんぶん 人分	96 にんぶん 人分		
	実績:89 にんぶん 人分	実績:92 にんぶん 人分							
りようようかいご <b>療養介護</b>	189 にんぶん 人分	295 にんぶん 人分	295 にんぶん 人分	295 にんぶん 人分	281 にんぶん 人分	281 にんぶん 人分	281 にんぶん 人分		
	実績:197 にん 人	実績:225 にん 人							

※ 施設入所支援は、旧身体障害者更生施設を除く。

さいいじょう、しょうがいじせつにゆうしょしや、しょうがいしえんせつおよ、ちいき、いこう  
**▶18歳以上の障害児施設入所者の障害者支援施設及び地域への移行**



もくひょう  
**【目標】**

	へいせい、ねんど 平成27年度	へいせい、ねんど 平成28年度	へいせい、ねんど 平成29年度	へいせい、ねんど 平成30年度	へいせい、ねんど 平成31年度	へいせい、ねんど 平成32年度
さいいじょう 18歳以上の にゆうしょしや、いこう 入所者の移行 にんすう 人数	28 にん 人	28 にん 人	29 にん 人			
	実績:17 にん 人	実績:15 にん 人				
いこうよていたいしやう 移行予定対象 にんすう 人数	57 にん 人	29 にん 人	0 にん 人			
	実績:51 にん 人	実績:27 にん 人				

けいかくちについては、こんご、かこ、たいまじすう  
**計画値については、今後、過去の待機児数**  
 じどうそうだんじょ、たい、ひ、ありんく、くよう  
**や児童相談所に対するピアリング等**によ  
 りよう、に、ー、ず、は、あく  
**り利用ニーズを把握したうえで、設定し**  
**ます。**

にゅういんちゆう せいしんしょうがいしゃ ちいきせいかつ いこう  
**▶ 入院中の精神障害者の地域生活への移行**

もくひょう せいしんしょうがいしゃちいきいこう ちいきていちゃくしえんじぎょう しじぎょう  
**【目標】精神障害者地域移行・地域定着支援事業（市事業）**

	へいせい ねんど 平成27年度		へいせい ねんど 平成28年度		へいせい ねんど 平成29年度		へいせい ねんど 平成30年度		へいせい ねんど 平成31年度		へいせい ねんど 平成32年度	
こべつしえん 個別支援 たいしょうしゃすう 対象者数 にん ねん (人/年)	70	にん 人	70	にん 人	70	にん 人	89	にん 人	93	にん 人	97	にん 人
	 79	にん 人	 83	にん 人								

**【新規】**

● **精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築**

せいしんしょうがい たいおう ちいきほうかつ けあ しすてむ こうちく  
 精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよ  
 う、保健、医療、福祉関係者による協議の場を設置し、精神障害にも対応した地域包括  
 ケアシステムを構築します。

**福【目標】**

	へいせい ねんど 平成32年度	
せいしんびょうしょう 精神病床における1年以上長期入院 かんじゃすう 患者数 (65歳以上) <b>【新規】</b>	にん 人	
せいしんびょうしょう 精神病床における1年以上長期入院 かんじゃすう 患者数 (65歳未満) <b>【新規】</b>	にん 人	
せいしんびょうしょう 精神病床における早期退院率 (入院 ご 後3か月時点) <b>【新規】</b>	にん 人	
せいしんびょうしょう 精神病床における早期退院率 (入院 ご 後6か月時点) <b>【新規】</b>	にん 人	
せいしんびょうしょう 精神病床における早期退院率 (入院 ご 後1年時点) <b>【新規】</b>	にん 人	

けいかくち  
計画値については、  
こんご けんどう せつてい  
今後、検討・設定しま  
す。

福 【目標】 地域相談支援 (年間の人分は延べ数)

		へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
ちいまいこう 地域移行 支援	(/月)	5 人分 実績: 2 人分	7 人分 実績: 2 人分	8 人分	8 人分	8 人分	8 人分
	(/年)	60 人分 実績: 18 人分	80 人分 実績: 19 人分	100 人分	100 人分	100 人分	100 人分
ちいきていやく 地域定着 支援	(/月)	10 人分 実績: 2 人分	15 人分 実績: 2 人分	20 人分	20 人分	20 人分	20 人分
	(/年)	120 人分 実績: 23 人分	180 人分 実績: 20 人分	240 人分	240 人分	240 人分	240 人分

みんかんじゅうたく にゅうきよすいしん  
▶ 民間住宅への入居推進

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間の 方向性
みんかんじゅうたく 民間住宅あんしん にゅうきよじぎょう 入居事業	けんちくきょく けんこうふくしきょく 建築局、健康福祉局 で連携を行いなが ら、入居者、オーナ ー、不動産店の利用 促進に繋がるよう、 あんびかくにんさーびす もでるじぎょう かいし モデル事業を開始 し、各宅地建物取引 業団体の会議にて 制度周知を行いま した(7団体)。	せいど りようそくしん む 制度の利用促進に向 けて、新たに協 定保証会社を応募する ことを検討してい ます。また、引き続き、 しみん きょうりょく ふどうさん 市民や協力不動産 店への周知を広め、 利用促進に繋げてい く必要があります。	けんちくきょく けんこうふくし 建築局、健康福祉 局で意見交換を行 いながら、制度の検 討を行っていきま す。今後も物件斡旋 や入居契約支援に とどまらず、障害者 の入居者の生活上 の課題に応じた関係 機関によるサポート 等、居住支援の体制 整備を検討してい きます。
みんかんじゅうたく にゅうきよ 民間住宅入居の そくしん 促進	せいしんしょうがいしゃ す 「精神障害者の住 まい検討部会」を全 2回開催しました。	ほけん いりょう ふくし ふく 保健・医療・福祉を含 めた様々な関係機関 が横断的に連携した システムの構築が 必要です。	せいしんしょうがいしゃ たい 精神障害者にも対 応した地域包括ケア システムの構築に向 けて協議を進めま す。

◆ **高齢化・重度化を踏まえた住まいの構築**

▶ **高齢化・重度化対応のグループホームの検証・検討**

<b>これまでの実績</b> <small>へいせい ねん がつまつ</small> <b>(平成29年3月末)</b>	<b>課題</b>	<b>新たな3年間</b> <small>ほうこうせい</small> <b>の方向性</b>
<p>重度化・高齢化グループホームについて、内部で検討を続け、重度化対応グループホームは平成26年度、高齢化グループホームは平成29年度にもモデル事業を終了し、通常事業へ移行しました。</p>	<p>両グループホームとも医療・看護との密な連携や日中の支援が必要であり、事業を推進するためには人員体制や設備基準を整理する必要があります。</p>	<p>必要な人員体制や設備基準等について引き続き検討します。</p>

<b>事業名</b>	<b>これまでの実績</b> <small>へいせい ねん がつまつ</small> <b>(平成29年3月末)</b>	<b>課題</b>	<b>新たな3年間</b> <small>ほうこうせい</small> <b>の方向性</b>
<p>高齢化・重度化対応バリアフリー改修事業</p>	<p>この3か年で3ホームから申請があり、2ホームについては、トイレや浴室の改修、階段昇降機の設置を行いました。1ホームについては、平成29年度実施予定です。</p>	<p>グループホームのスクラールの影響もあり、申請数は低調に推移しました。</p>	<p>今後とも事業を継続し、制度の周知に努めます。</p>

ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
中間期の現状と今後の方向性

ちゅう かん ふ かえ  
中間振り返り

げんじょう  
【現状】

しゃかいふくしほうじんかたちかつほーむ ちいき にーず ちが じゅうなん じぎょうてんかい  
社会福祉法人型地活ホームは、地域によるニーズの違いをとらえ、柔軟に事業展開できる  
よう、いちぶ みなお おこな せいかつしえんせんたー きそんさーびす せいり とう  
よう、一部見直しを行いました。また、生活支援センターは、既存サービスを整理する等に  
より、そうだんきのろう じゅうてん お しえん じゅうじつ ほか  
より、相談機能に重点を置いた支援の充実を図りました。  
じりつせいかつあしすたんと へいせい ねんど ぜん く しえんたいせい せいび  
自立生活アシスタント事業は、平成28年度に全18区での支援体制を整備しました。

かだい  
【課題】

ちかつほーむ やくわり めいかく きほん きょうつうりねん きょうゆう あらた ひつよう  
地活ホームは、役割を明確にし、基本となる共通理念の共有が改めて必要となっていま  
す。せいかつしえんせんたー きーびす ひょうじゆんか む けんとう すず じりつせいかつ  
す。生活支援センターは、サービスの標準化に向けた検討を進めていきます。自立生活  
あしすたんと ひ つづ しえん しつ いじ こうじょう ほか  
アシスタントは、引き続き支援の質の維持・向上を図っていきます。

こんご ほうこうせい  
【今後の方向性】

ちかつほーむ せいかつしえんせんたー たきのうがたきよてん かだい はあく きょうゆう きのう じゅうじつか  
地活ホーム、生活支援センター、多機能型拠点の課題を把握・共有し、機能の充実化など、  
かだい かいけつ おこな  
課題の解決を行っていきます。  
じりつせいかつあしすたんと くに どうこう ちゅうし しえんないよう じゅうじつ けんとう  
自立生活アシスタントは、国の動向を注視しながら、支援内容などの充実を検討します。

◆**地域での生活を支える仕組みの充実**

▶**在宅生活を支える地域の拠点**

<p>じぎょうめい 事業名</p>	<p>これまでの実績 (平成29年3月末)</p>	<p>かだい 課題</p>	<p>あら 新たな3年間 の方向性</p>
<p>ちかつほーむ うんえい 地活ホームの運営</p>	<p>しゃかいふくしほうじんかたち 社会福祉法人型地活 ホームについて、 地域の ニーズに対し、 区 役所と連携して、 柔軟な事業展開が 行 えるよう、 制度を一部 見直しました。 また、 役割や位置付け について、 関係部署と 課題を共有すると ともに、 事業所等と 検討を行いました。</p>	<p>くごごと 区ごとに異なる 地域の 状況やニーズを 踏まえながらも、 「地 活ホームの役割」を 明確にし、 基本となる 考え（ 共通理念） を持ち、 各事業所と 共有することが 必要です。</p>	<p>かんけいぶしょとう 関係部署等と課題の 共有化、 役割や位置 付けの明確化、 機能の 充実化に向けた 検討 を行っていきます。</p>
<p>せいかつしえんせんたー 生活支援センター の運営</p>	<p>そうだんきのも 相談機能に重点を 置いた支援の 充実 を目的に、 電話相談 および食事サービス等 の 既存サービスの 整理 を行いました。</p>	<p>ちいきせいしんしょうがいしゃ 地域の精神障害者 支援に関する 拠点 施設として 各区に1 館設置して いますが、 実施事業、 開所日・ 開所時間、 人員体制 等が各区 によって違 いがあるため、 今後 整理が 必要となっ て います。</p>	<p>げんじょう 現状における 課題 の把握・共有 を行 い、 課題の解決 に向け た具体的な 対応方法 の 検討 を行って い きます</p>
<p>たきのうがたきよてん 多機能型拠点の 整備・運営 ㊤</p>	<p>へいせいねんがつせや 平成29年4月に 瀬谷 区に3館目の 多機能 型拠点を 開所し、 全 3か所（ 栄区、 都筑 区、 瀬谷区） の 多機能 型拠点の 運営支援を</p>	<p>たきのうがたきよてん 多機能型拠点は、 医 療的ケアが 必要な 重症心身 障害児 者等と その家族が 安心 して 地域で 生活で</p>	<p>うんえいじぎょうしゃ 運営事業者と とも に3館の 運営上の 課題の 把握及 び 共有 を行 いなが ら、 具体的な 解決 に向 けた 検討 を行 いま</p>



	<p>おこな 行っています。 しな い かんめ せいび ち 市内4館目の整備地 けつてい む けんとう 決定に向けて検討を おこな 行っています。</p>	<p>きるよう に せいび 整備され てい ますが、 いりょうてき 医療的 てあつ しえん ひつ かつ手厚い支援が必 よう 要なこと じんてき から、 人的 こす と ふたん おち コストの負担が重い こと が 課題 となっ てい ます。 せいび よていち 整備予定地 につい ては、 しゅうち ゆう 市有地の有 こうかつよう げんそく けん 効活用を原則に、 検 とう おこな 討を行っていきま す。</p>	<p>す。 かんめいこう 4館目以降について、 そうきゅう せい び ち 早急に整備地を せんてい せいび すす 選定し、整備を進め てい きます。</p>
--	---	---	--

**【新規】**

● 「地域共生社会」の実現に向けた取組等の推進

ちいき きょうせいしゃかい じつげん む とりくみとう すいしん  
地域のあらゆる方が、「支え手」と「受け手」に分かれるのではなく、地域、暮らし、生きがいとともに創り、高めあうことができる「地域共生社会」の実現に向けた取組等を推進していきます。



	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
ちいきせいかつしえん 地域生活支援 きよてん せいび 拠点の整備	けんとう 検討	けんとう 検討				
	じつせき 実績： ひ つづ 引き続き、 けんとうさぎよう すす 検討作業を進 めてい ます。	じつせき 実績： ひ つづ 引き続き、 けんとうさぎよう すす 検討作業を進 めてい ます。	1 かし 所	2 かし 所	18 かし 所	18 かし 所



ちいせいかつ ささ きーびす  
 ▶地域生活を支えるサービス

福【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度		へいせい ねんど 平成28年度		へいせい ねんど 平成29年度		へいせい ねんど 平成30年度		へいせい ねんど 平成31年度		へいせい ねんど 平成32年度	
きょたくかいご 居宅介護	140,521	じかん 時間	149,710	じかん 時間	159,499	じかん 時間	124,349	じかん 時間	124,504	じかん 時間	124,659	じかん 時間
	実績:128,138	じかん 時間	実績:124,038	じかん 時間								
	6,896	にんぶん 人分	7,336	にんぶん 人分	7,804	にんぶん 人分	7,294	にんぶん 人分	7,561	にんぶん 人分	7,838	にんぶん 人分
	実績:6,643	にんぶん 人分	実績:6,787	にんぶん 人分								
じゅうどほうもんかいご 重度訪問介護	42,593	じかん 時間	45,378	じかん 時間	48,345	じかん 時間	69,254	じかん 時間	78,288	じかん 時間	88,501	じかん 時間
	実績:47,540	じかん 時間	実績:54,193	じかん 時間								
	239	にんぶん 人分	254	にんぶん 人分	270	にんぶん 人分	409	にんぶん 人分	467	にんぶん 人分	534	にんぶん 人分
	実績:271	にんぶん 人分	実績:314	にんぶん 人分								
どうこうえんご 同行援護	14,649	じかん 時間	15,607	じかん 時間	16,627	じかん 時間	16,398	じかん 時間	17,205	じかん 時間	18,052	じかん 時間
	実績:14,343	じかん 時間	実績:14,896	じかん 時間								
	713	にんぶん 人分	758	にんぶん 人分	807	にんぶん 人分	798	にんぶん 人分	837	にんぶん 人分	878	にんぶん 人分
	実績:694	にんぶん 人分	実績:726	にんぶん 人分								
こうどうえんご 行動援護	2,833	じかん 時間	3,018	じかん 時間	3,215	じかん 時間	12,432	じかん 時間	17,171	じかん 時間	23,716	じかん 時間
	実績:5,281	じかん 時間	実績:6,517	じかん 時間								
	106	にんぶん 人分	113	にんぶん 人分	120	にんぶん 人分	669	にんぶん 人分	994	にんぶん 人分	1,476	にんぶん 人分
	実績:233	にんぶん 人分	実績:303	にんぶん 人分								
たんきにゅうしょ 短期入所 (福祉型)	1,007	にんぶん 人分	1,074	にんぶん 人分	1,146	にんぶん 人分	1,000	にんぶん 人分	1,000	にんぶん 人分	1,000	にんぶん 人分
	実績:934	にんぶん 人分	実績:968	にんぶん 人分								
	6,251	にんにち 人日	6,480	にんにち 人日	6,718	にんにち 人日	6,000	にんにち 人日	6,000	にんにち 人日	6,000	にんにち 人日
	実績:5,440	にんにち 人日	実績:5,515	にんにち 人日								
たんきにゅうしょ 短期入所 (医療型)	360	にんぶん 人分	498	にんぶん 人分	689	にんぶん 人分	400	にんぶん 人分	400	にんぶん 人分	400	にんぶん 人分
	実績:266	にんぶん 人分	実績:300	にんぶん 人分								
	1,937	にんにち 人日	2,619	にんにち 人日	3,541	にんにち 人日	2,000	にんにち 人日	2,000	にんにち 人日	2,000	にんにち 人日
	実績:1,345	にんにち 人日	実績:1,526	にんにち 人日								
にっちゅういちじえん 日 中一時支援	411	にんぶん 人分	411	にんぶん 人分	411	にんぶん 人分	471	にんぶん 人分	479	にんぶん 人分	487	にんぶん 人分
	実績:456	にんにち 人日	実績:489	にんにち 人日								
	729	かい 回	729	かい 回	729	かい 回	783	かい 回	796	かい 回	809	かい 回
	実績:707	かい 回	実績:770	かい 回								

にちじょうせいかつよう <b>日常生活用</b> くきゅうふ たいよ <b>貸付・貸与</b> (ねん /年)	実績: 81,008 件	実績: 86,437 件	65,000 件	81,000 件	81,000 件	81,000 件
--	--------------	--------------	----------	----------	----------	----------

この表における単位の考え方は以下のとおりです。

- ・「人分」「回」… 月間の利用人数・回数
- ・「人日」… 「月間の利用人数」×「一人一月あたりの平均利用日数」
- ・「時間」… 月間のサービス提供時間

(※重度障害者等包括支援は利用実績がなく、今後の利用を見込んでいません。)

じぎょうめい <b>事業名</b>	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい <b>課題</b>	あらねんかん <b>新たな3年間          の方向性</b>
めでいかるしょーと <b>メディカルショート            ステイシステム</b> ㊦	じぎょうかいし へいせい <b>事業開始の平成24            年度から平成28年度            までの利用登録者数            212名、利用延べ人数            366名、利用延べ日数            は2,805日で、そのう            ち、家族の疾病による            利用は120名でした。</b>	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;">           かだい あらた ねんかん ほうこうせい  <b>課題、新たな3年間の方向性について            は現在検討中です。</b> </div>	
せいしんしょうがいしゃ かぞく <b>精神障害者の家族            支援事業</b> ㊦	へいせい ねん ど せい ど <b>平成28年度に制度を            より利用しやすくな            るよう改正を行いま            した。</b>	きんきゅうたいざいばしょ <b>緊急滞在場所            利用者をピア相談に            つなげることに課題            があります。そのため            その連携についても            改正内容に盛り込み            ました。            平成29年4月からの            新しい制度による            運用後の課題につい            ては今後の意見交換            会にて確認予定で            す。</b>	かだい ないよう ほう <b>課題の内容により方            向性を検討する予定            です。</b>

ほんにん せいかつりよく ひ だ しえん じゅうじつ  
**◆本人の生活力を引き出す支援の充実**

しょうがいしゃ じりつせいかつしえん こうけんてきしえん すいしん  
**▶ 障害者の自立生活支援と後見的支援の推進**

じぎょうめい <b>事業名</b>	これまでの実績 (平成29年3月末)	かいだい <b>課題</b>	あら ねんかん <b>新たな3年間</b> ほうこうせい <b>の方向性</b>
じりつせいかつ <b>自立生活</b> あしすたんと <b>アシスタント</b> (あ)	みじか ちいき しえん 身近な地域で支援が う 受けられるよう、各区 で事業を展開できる たいせい せいび すず 体制の整備を進め、 へいせい ねんど ぜん 平成28年度より全 18区での支援体制 を整備しています。	じぎょうしょ しえん 事業所における支援 の質を担保するため、 ひ つづ しえん しつ 引き続き、支援の質の こうじょう ほか 向上を図っていく ことが必要となっ ています。	くに どうこうとう ちゅうし 国の動向等も注視し ながら、引き続き、 しえんないよう じゅう 支援内容などの充 じつ けんとう 実について検討して いきます。
こうけんてきしえんせいど <b>後見的支援制度</b> (あ)	へいせい ねんど へいせい 平成27年度、平成28 ねんど じっしゅく 年度に、実施区をそれ ぞれ2区ずつ増やし、 ぜんく てんかい 全区展開となりました。 H27: 港南区、青葉区 H28: 中区、瀬谷区	ほんしどくじ せいど 本市独自の制度であ るため、制度の普及 けいはつ ひろ ちいき 啓発を広く地域に おこな ひつよう 行っていく必要が あります。	おや あと あんしん 親なき後も安心して 暮らせるよう、引き つづ こうけんてきしえんせいど 続き後見的支援制度 を推進していきま す。

しょうひしやきょういく すいしん  
**▶ 消費者教育の推進**

じぎょうめい <b>事業名</b>	これまでの実績 (平成29年3月末)	かいだい <b>課題</b>	あら ねんかん <b>新たな3年間</b> ほうこうせい <b>の方向性</b>
しょうひしやきょういくじぎょう <b>消費者教育事業</b> (あ)	けいざいきょく きょういく いいん 経済局、教育委員 かいじむきょく けんこうふくし 会事務局、健康福祉 きょく きょく れんけい 局の3局が連携 とくべつしえんがっこう し、特別支援学校の せいと たいしやう 生徒を対象とした でまえこうざ こう 出前講座を2校で じっし 実施しました。	あいていー ふきゅう I T の普及により さーびす りようおよ サービスの利用及び けいやく たよう ふくざつか 契約が多様、複雑化す なか とらぶる ま る中、トラブルに巻き こ 込まれることなく適 せい りよう 正な利用ができるよ う啓発していく必要 があります。	しょうひしやじやうせい はあく 消費者情勢を把握 しながら、3局が れんけい じどうせいと 連携して、児童生徒 およ きやういんとう たいしやう 及び教員等を対象 とうしたこうざ けんしゅう とした講座や研修 を実施します。

ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゅう かん ふ かえ  
**中間振り返り**

げんじょう  
**【現状】**

じゅうしょうしんしんしょうがいじしゃ ざいたくせいかつ ささ ねつとわーくこうちく かんけいきかん れんけい けんどう  
 重症心身障害児者の在宅生活を支えるネットワーク構築のため、関係機関が連携し検討  
 をしています。また質の高い看護の提供に資するため、研修を実施しています。

かだい  
**【課題】**

しょうがいとくせい りかい たいおう いりようきかん すく てきせつ いりよう う たいせい  
 障害特性を理解し対応ができる医療機関が少ないため、適切な医療が受けられる体制づく  
 りが必要です。また、地域の精神保健指定医の精神救急の協力を促進し、救急の受入  
 態勢の充実を図る必要があります。

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

いりよう しょうがいふくしせつ じゅうじしゃ たい ひ つづ けんしゅうおよ しえん じっし  
 医療や障害福祉施設の従事者に対し、引き続き研修及び支援を実施します。  
 じゅうしょうしんしんしょうがいじしゃ ざいたくせいかつ ささ いりようきかん れんけい ひ つづ  
 重症心身障害児者の在宅生活を支えるため、医療機関と連携していきます。また、引き続  
 き地域の精神保健指定医の精神救急の協力を促進します。

いりようかんきょう せいび  
**◆医療環境のさらなる整備**

なんびょうかんじゃ しえん じゅうじつ  
**▶ 難病患者への支援の充実**

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 の方向性
じゅうどしんけいなんびょう 重度神経難病 かんじゃざいたくしえん 患者在宅支援 しすてむ こうちく システムの構築	しんだんちよくご きんいしゆく 診断直後の筋萎縮 せいそくさくこうかしょう えーえる 性側索硬化症 (ALS えす かた せいかつしょうがい S) の方の生活障害 しえん もくてき そうき 支援を目的に、早期 かいにゅう しこう 介入を試行しまし た。取組に当たり、在 たくりはびりてーしよ 宅リハビリテーショ ン事業の紹介を、 しな いりようき 市内11か所の医療機	ひかくてきはや ほうもんり は 比較的早く訪問リハ どう りはびりてーし 等のリハビリテーシ よん せんもんしよく かい ヨンの専門職が介 にゅう 入するようになって います。生活障害 を支援するという視 点では、まだ十分で はありません。区福祉	げんざいおこな しんだん 現在行っている診断 ちよくご えーえるえす かた 直後のALSの方 の支援を継続し、支援 なが あんていか の流れを安定化させ ます。また、筋ジスト ろふいーしょう かた ロフィー症の方に たい しえん けいぞく しえん に対する支援は長期 にわたり、支援者の こうたい せいかつかんきょう 交代や生活環境の

	<p>かん しんだん きかん じっし  <b>関(診断機関)へ実施</b>  し、同時に区福祉保健  せん たー せう きかい  <b>センターへも、早期介</b>  にゆう ひつようせい つた  <b>入の必要性を伝え</b>  ました。診断直後の  りようしゃ し えん おこな  <b>利用者の支援を行</b>  なか じしん き  <b>う中で、自身では気づ</b>  きにくい生活障害  し えん おこな せい  <b>への支援が行え、生</b>  かつどう さ ふたん けいげん  <b>活動の負担を軽減</b>  することの効果  で います。 しんだん じ  <b>出ています。診断時</b>  の医療機関ある  なんびょうしんせい じ ぼ  <b>は難病申請時の保</b>  けんし ざいたくり は  <b>健師による在宅リハ</b>  びりてーしょん じぎょう  <b>ビリテーション事業</b>  への流れが  な が  <b>でき始めて</b>  います。</p>	<p>ほけん せん たー いて  <b>保健センターとの一</b>  そう れんけい ざい  <b>層の連携のもと、在</b>  たくり は びりてーしょ  <b>宅リハビリテーショ</b>  ん じぎょう かつよう せい  <b>ン事業を活用し、生</b>  かつしやうがい し えん  <b>活障害への支援を</b>  ね づ ひつよう  <b>根付かせる必要があ</b>  ります。また、重度  しんけいなんびょうかんじゃ  <b>神経難病患者への</b>  ざいたく し えん えーえる  <b>在宅支援では、AL</b>  えす こと しんこう  <b>Sとは異なった進行</b>  をする疾患について、  し えん ほうほう けんとう  <b>支援の方法を検討す</b>  る必要  ひつよう  <b>があります。</b></p>	<p>へんかなどしえん こんなん  <b>変化等支援に困難を</b>  きたすことも多  あら きんじす ところ  <b>いため、新たに筋ジストロ</b>  ふ いーしやう し えん  <b>フィー症の支援の</b>  げんじやう  <b>現状を知って、在宅</b>  り は びりてーしょん  <b>リハビリテーション</b>  じぎょう かつよう すず  <b>事業の活用を進め</b>  ます。</p>
<p>なんびょうかんじゃざいたく  <b>難病患者在宅</b>  りようようけいかくさくてい  <b>療養計画策定・</b>  ひようかじぎょう  <b>評価事業</b></p>	<p>へいせい ねん ど じっし  <b>平成27年度は、実施</b>  <b>はありません。</b>  へいせい ねん ど あさひ く  <b>平成28年度は、旭区</b>  で 1 件実施しました。  へいせい ねん ど あさひ  <b>平成29年度は、旭</b>  く こうほくく じっし よ  <b>区・港北区で実施予</b>  てい  <b>定です。</b></p>	<p>こっこほじょきんなど ざいげん  <b>国庫補助金等の財源</b>  が じゅうぶん  <b>十分ではないこ</b>  ともあり、限られた規  ぼ かいさい  <b>模での開催となっ</b>  てい  <b>ています。</b></p>	<p>ち いき じつじやう くに  <b>地域の実情や国の</b>  どうこう ふ できせつ  <b>動向を踏まえ、適切</b>  に じぎょう すいしん  <b>に事業を推進して</b>  いきます。</p>
<p>なんびょうかんじゃいちじ  <b>難病患者一時</b>  にゆういんじぎょう  <b>入院事業</b></p>	<p>げんざい びやういん  <b>現在は7病院、5</b>  びやうじやう うけいれ じつ  <b>病床にて受入を实</b>  し  <b>施しています。</b>  へいせい ねん どのべりよう  <b>平成27年度延利用</b>  にっすう かだい  <b>日数：920日</b>  へいせい ねん どのべりよう  <b>平成28年度延利用</b>  にっすう ち  <b>日数：840日</b>  へいせい ねん どのべりよう  <b>平成29年度延利用</b>  にっすう ち み こ  <b>日数：970日(見込み)</b></p>	<p>し せいぶ うけいれびやう  <b>市の西部に受入病</b>  いん かだい  <b>院がないことが課題</b>  です。</p>	<p>ざいたくじゅうしやうかんじゃがい  <b>在宅重症患者外</b>  しゅつし えん じぎょう りよう  <b>出支援事業の利用</b>  あ しゅうち  <b>と合わせた周知を</b>  おこな じつたい にーず  <b>行い、実態とニーズ</b>  はあく ひつよう おう  <b>を把握して必要に</b>  かくだい む ぎ  <b>応じて拡大に向けた議</b>  ろん  <b>論をします。</b></p>

しょうがいしゃ いりようとう たいおう  
 ▶ 障害者の医療等への対応

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	課題	新たな3年間の方向性
けんこうのノート 健康ノート	ざいこ はいふ じようきよう 在庫・配付状況の ちょうさ おこな 調査を行ったほ か、しょうがいけんけいだんたい か、障害関係団体へ のヒアリングを実施 しました。	ひありんぐ くわ ヒアリングに加え、お ぐすり てちよう 薬手帳や、あんし のーと げんざいふ のノートなど現在普 きゅう ほかに 及している他の媒 たい かくにん 体についての確認を ふ けんとう 踏まえ、検討すること がひつよう が必要です。	ねんど けんとうけつ 29年度までの検討結 か ちてい 果を基に決定しま す。
いりようじゅうじしゃけんしゅう 医療従事者研修 じぎょう ㊤ 事業	いりようきかん ふくしし 医療機関や福祉施 せつとう きんむ かんご 設等に勤務する看護 し たいしやう しょうに 師を対象に「小児 ほうもんかんご じゅうしやうしん 訪問看護・重症心 しんしょうがいじしゃけんしゅう 身障害児者研修」 をぜん11日間実施しま した。	けんしゅうにっすう おお い 研修日数が多く、医 りようきかん しゃかいふくし 療機関や社会福祉 ほうじん うんえいじやう ふ 法人の運営上の負 たん おお 担が大きくなってい ます。	けんしゅうにっすう ふく 研修日数含め、 けんしゅうしゅほうとう かんけい 研修手法等を関係 だんたい けんとう 団体と検討をし、 けんしゅう じっし 研修を実施してい きます。
しょうがいふくししせつとう 障害福祉施設等で はたら かんごし しえん 働く看護師の支援 ㊤	ちかつほーむ しかい 地活ホームに歯科医 し はけん しょくじば 師を派遣し、食事場 めん しょうがいふく 面において、障害福 し げんば そく じよ 祉の現場に即した助 げんしどう けんしゅう じつ 言指導や研修を実 し 施しています。 また、ちかつほーむ た 地活ホームや多 きのろがたきよてん はたら 機能型拠点で働く かんごし たいしやう 看護師を対象とし かいぎ かいさい か た会議を開催し、課 だい きやうゆう ねつと 題の共有やネット わーく ほか ワークづくりを図っ ています。	しょうがいふくししせつなど 障害福祉施設等で はたら かんごし かくほ 働く看護師の確保 しょくばていちゃく かい や職場定着が課題 となっています。	しょうがいふくししせつとう 障害福祉施設等で はたら かんごし ていちゃく 働く看護師の定着 む しえん おこな に向けた支援を行う とともに、かくほ ほう 確保の方 さく けんとう 策について検討しま す。



<p>じゅうどしょうがいしゃとうにゅう 重度障害者等入 いんじこみゆにけ 院時コミュニケー ション支援事業 ㊤</p>	<p>へいせい ねん ど じっせき 平成27年度実績 は けんけんすう けん 派遣件数：25件 そう は けん じかん じかん 総派遣時間：995時間 へいせい ねん ど じっせき 平成28年度実績 は けんけんすう けん 派遣件数：67件 そう は けん じかん じ 総派遣時間：1081時 かん 間</p>	<p>へいせい ねん ど よてい 平成30年度予定の じゅう ど ほうもんかいご じぎょう 重度訪問介護事業 かいせいご せいど しゅうち 改正後の制度の周知 ひつよう が必要です。</p>	<p>へいせい ねん ど よてい 平成30年度予定の じゅう ど ほうもんかいご じぎょう 重度訪問介護事業 の 見直しを考慮しつ つ、本事業について も 整理を 行いなが ら、引き続き制度の 周知を行います。</p>
<p>はいえんきゅうきん わ く ち ん 肺炎球菌ワクチン せつしゅじよせいじぎょう 接種助成事業 ㊤</p>	<p>せいじんようはいえんきゅうきん わ 成人用肺炎球菌ワ クチン事業の開始 を 踏まえ、年齢の上 限設定と、対象とな る 身体障害者手帳 (内部機能障害)所 有者の等級による 制限の撤廃を 行い ました。</p>	<p>じぎょうかいし ねん 事業開始から5年 が経過し、初年度事 業対象者から順 次2回目の接種が可 能になりますが、再 交付の申請が必要で あることが周知され ていないため、対象 者への周知方法に ついて検討が必要で す。</p>	<p>せいじんようはいえんきゅうきん わ 成人用肺炎球菌ワ クチン接種事業の 動向と併せて整理を 行いながら、引き続 き制度の周知を行 います。</p>

しょうがいとくせい りかい たいおう いりようきかん ぞうか いりようねつとわーく こうちく  
▶ 障害特性を理解して対応できる医療機関の増加と、医療ネットワークの構築

<p>じぎょうめい 事業名</p>	<p>これまでの実績 へいせい ねん がつまつ (平成29年3月末)</p>	<p>かだい 課題</p>	<p>あら ねんかん 新たな3年間 の方向性</p>
<p>いりようきかんれんけいじぎょう 医療機関連携事業 ㊤</p>	<p>ちてきしょうがいしゃせんもんがい 知的障害者専門外 らい びょういん じつし 来を、3病院で実施 しました。(横浜相原 びょういん しうんかいよこほま 病院・紫雲会横浜 びょういん こうほくびょういん 病院・港北病院) また、市内医療提 供施設の医療従 事者を対象とした 「医療安全研修 かい しょうがい 会」において、障害 しゃしえん かか こうえん 者支援に係る講演を</p>	<p>じつ し びょういん し じん 実施病院を市民に しゅうち ひつよう 周知していく必要 があります。また、南 ぶ ほくぶ いりようてい 部・北部にも医療提 供ができる医療機 かん ぶ ひつよう 関を増やす必要があ ります。また、医療 きかん しょうがい たい 機関の障害に対す る理解があまり すす 進んでいないがため に、治療につながりに</p>	<p>しょうがいとくせいとう りかい 障害特性等を理解 し適切な医療を提 供できる医療機関 を 増やしていきま す。また、病院等に きんむ いりようじゅうじ 勤務する医療従事 しゃむ しょうがいとくせい 者向けに、障害特性 の理解や支援に必要 な知識・技術向上 を 目的とした研修 を 実施します。</p>

	おこな 行いました。	しょうがいしゃ くい障害者がいま す。	
めでいかるしょー メディカルショー とすていしすてむ トステイシステム さいけい ㊤ 【再掲】	じぎょうかいし へいせい 事業開始の平成24 ねんど へいせい ねんど 年度から平成28年度 までの利用登録者数 めいりようの にんずう 212名、利用延べ人数 めいりようの にっすう 366名、利用延べ日数 は2,805日で、そのう ち、かぞく しつべい 家族の疾病による りよう めい 利用は120名でした。		かだい あら ねんかん ほうこうせい 課題、新たな3年間の方向性については げんざいけんとうちゅう 現在検討中です。
ざいたくりょうようじ ちいき 在宅療養児の地域 せいかつ ささ ねっ 生活を支えるネッ とわーくれんらくかい トワーク連絡会	いりようかんけいしゃ ちゅうしん 医療関係者が中心 となり、しょうがいじ しゃ の生活を支える上で かだい およ とりくみなど の課題及び取組等の じょうほうこうかん じつ 情報交換などを実 し しえん そくしん 施し、支援の促進に つとめ 努めました。 たしよくしゅれんけい べんきょう 多職種連携の勉強 かい じつせき 会の実績 へいせい ねんど かい さん 平成27年度：2回、参 加者500人 へいせい ねんど かい さん 平成28年度：2回、参 加者337人		かだい あら ねんかん ほうこうせい 課題、新たな3年間の方向性については げんざいけんとうちゅう 現在検討中です。
いりようきかん ねっ とわ 医療機関ネットワ ーくとう こうちく ーク等の構築	じゅうしんしょうがいじ しゃ 重心障害児・者が ひつよう 必要としている医 りようとう はあく 療等を把握するた め アンケート調査 を平成28年度に実施 しました。(860人回 とう 答) けつ か かつよう この結果を活用し、 せいしょうねんきよく こども青少年局、 けんこうふくし きよく いりよう 健康福祉局、医療 きよく かんけい きよく こう 局の関係3局で構		かだい あら ねんかん ほうこうせい 課題、新たな3年間の方向性については げんざいけんとうちゅう 現在検討中です。



	<p>成された庁内会議を設置し、医療的ケアを要する障害児・者の生活を支援するための支援体制構築を検討しています</p>										
<p>歯科保健医療推進事業 (心身障害児・者歯科診療)</p>	<p>横浜市歯科保健医療センター心身障害児・者歯科診療実績</p> <table border="1"> <tr> <td>平成25年</td> <td>8,971件</td> </tr> <tr> <td>平成26年</td> <td>9,639件</td> </tr> <tr> <td>平成27年</td> <td>9,773件</td> </tr> <tr> <td>平成28年</td> <td>9,797件</td> </tr> </table> <p>横浜市心身障害児者歯科診療事業協力医療機関 210か所(平成29年5月18日現在)</p>	平成25年	8,971件	平成26年	9,639件	平成27年	9,773件	平成28年	9,797件	<p>高次歯科医療機関利用の実態の把握が必要です。</p> <p>※市内高次歯科医療機関：鶴見大学附属病院、神奈川県立こども医療センター、横浜市歯科保健医療センター</p>	<p>一般的な医療機関と高次歯科医療機関の役割分担等を検討します。</p>
平成25年	8,971件										
平成26年	9,639件										
平成27年	9,773件										
平成28年	9,797件										

【新規】

●医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置

医療的ケア児が適切な支援をうけられるように、平成30年度末までに、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関等が連携を図るための協議の場を設けることを検討します。

◆参加しやすい健康づくり施策の推進

▶参加しやすい健康づくり事業の検討

<p>これまでの実績 (平成29年3月末)</p>	<p>課題</p>	<p>新たな3年間の方向性</p>
<p>障害者スポーツの周知活動、スポーツボランティア養成講座や初級障害者スポーツ指導員研修会等の実施をとおして、支援者・指導者の人材育成を進めています。</p>	<p>障害者が身近な地域でいつでもスポーツ活動等を楽しむためには、活動をサポートできる人材や利用しやすい施設などの環境が整っている必要があります。人材育成のノウハウを有する横浜ラポールが、競技団体・スポーツ推進委員等の組織やスポーツ施設を管理運営する体育協会と、地域の公園施設とともに事業を展開し、地域の環境整備をより効果的に進めることが重要です。</p>	<p>引き続き競技団体やスポーツ推進委員等を対象とした障害特性を理解するための研修を実施し、地域の環境整備に取り組んでいきます。</p>

▶健康づくり環境の整備

<p>これまでの実績 (平成29年3月末)</p>	<p>課題</p>	<p>新たな3年間の方向性</p>
<p>障害者スポーツの周知活動、スポーツボランティア養成講座や初級障害者スポーツ指導員研修会等の実施をとおして、支援者・指導者の人材育成を進めています。</p>	<p>障害者が身近な地域でいつでもスポーツ活動等を楽しむためには、活動をサポートできる人材や利用しやすい施設などの環境が整っている必要があります。人材育成のノウハウを有する横浜ラポールが、競技団体・スポーツ推進委員等の組織やスポーツ施設を管理運営する体育協会と、地域の公園施設とともに事業を展開し、地域の環境整備をより効果的に進めることが重要です。</p>	<p>引き続き競技団体やスポーツ推進委員等を対象とした障害特性を理解するための研修を実施し、地域の環境整備に取り組んでいきます。</p>

きゅうきゅういりょうたいせい じゅうじつ  
**◆ 救急医療体制の充実**

せいしんかきゅうきゅういりょうたいせい じゅうじつ  
**▷ 精神科救急医療体制の充実**

じぎょうめい <b>事業名</b>	じっせき <b>これまでの実績</b> へいせい ねん がつまつ (平成29年3月末)	かだい <b>課題</b>	あら ねんかん <b>新たな3年間</b> ほうこうせい <b>の方向性</b>
せいしんかきゅうきゅう <b>精神科救急</b> いりょうたいさくじぎょう <b>医療対策事業</b>	きめ しょう <b>切れ目が生じやすか</b> ゆうがた じかん <b>った夕方の時間にお</b> いて市内病院を整 び ゆうがた やかん <b>備し、夕方から夜間</b> たいおう びょういん <b>に対応できる病院</b> はいち <b>を配置しました。</b> また、精神科救急 にゅういんりょう しゅとく <b>入院料を取得した</b> びょういん せいしんかきゅう <b>病院の精神科救</b> きゅう かか しん ざく <b>急に係る指針を作</b> せい げんざいよこ <b>成しました。(現在横</b> はま しない し せつ しゅ <b>浜市内7施設が取</b> とく <b>得)</b> へいせい ねん 度 には、 しん <b>平成28年度には、深</b> や たい うけいれ おこな <b>夜帯に受入を行う</b> みんかんびょういん しゅう かい <b>民間病院を週5回</b> ふ へいせい ねん <b>に増やし、平成29年</b> 度 には まいにちつうねん か どう <b>度には毎日通年稼働</b> としました。	せいしんかきゅうきゅう たんとう <b>精神科救急を担当</b> する りんばん びょういん <b>する輪番の病院を</b> どうじかん ふくすう <b>同時間に複数にし、</b> じかん きめ <b>また時間の切れ目が</b> しょう じがちなゆうがた <b>生じがちな夕方の</b> じかんたい おうだんてき りん <b>時間帯に横断的に輪</b> ばん びょういん はいち <b>番病院を配置する</b> ことにより、せいしんか <b>ことにより、精神科</b> きゅうきゅう うけい たいせい <b>救急の受入れ体制</b> だい きぶらん かいし <b>は第3期プラン開始</b> じ じゅうじつ <b>時より充実しまし</b> た。じんこうひ たい せい <b>た。人口比に対し精</b> しんかびょうしやう すく <b>神科病床が少なく</b> こうりつてき うんよう <b>効率的な運用のため</b> けんぜんたい せいしんかきゅう <b>県全体で精神科救</b> きゅう おこな <b>急を行っているた</b> し がい びょういんうけい <b>め、市外の病院受入</b> れをよぎなくされる ばあい さん <b>場合もあります。三</b> じ きゅうきゅう し <b>次救急において市</b> ない びょういんはんそうりつ <b>内での病院搬送率</b> あ <b>は上がっています。し</b> しゃかいてき じ けん えい <b>かし社会的事件の影</b> きょう つうほうすう <b>響もあり、通報数の</b> ぞうか しんさつかいし <b>増加により診察開始</b> よう へいきんじ <b>までに要した平均時</b> かん ふ <b>間は増えています。</b>	きんきゅう いりょう ひつよう <b>緊急な医療を必要</b> かんじゃ じんそく <b>とする患者が、迅速</b> てきせつ いりょう <b>かつ適切な医療を</b> う <b>受けられようために</b> しない せいしんかきゅうきゅう <b>市内で精神科救急</b> をできるかぎりかんけつ <b>をできるかぎり完結</b> していきます。ちいき <b>していきます。地域</b> のかかりつけいりょう <b>のかかりつけ医療</b> きかん きょうりよく え <b>機関の協力を得て</b> そうき だんかい ちいきい <b>早期の段階で地域医</b> りょう きかん <b>療機関につないで</b> ひつよう <b>いくことが必要で</b> す。 さら せいしんかきゅうきゅう <b>更に精神科救急へ</b> きょうりよく びょういん <b>協力する病院が</b> ぞうか ちいき せいしん <b>増加し、地域の精神</b> ほけんしていいい せいしんか <b>保健指定医の精神科</b> きゅうきゅう きょうりよく そく <b>救急の協力を促</b> 進し、きゅうきゅう うけい <b>救急の受入</b> たいせい じゅうじつ はか <b>れ態勢の充実を図</b> じんそく たいおう はか <b>り、迅速な対応を図</b> ります。

せいしんかいがい きゅうきゅう れんけい  
▷精神科以外の救急との連携

<p>じぎょうめい 事業名</p>	<p>これまでの実績 （平成29年3月末）</p>	<p>かだい 課題</p>	<p>あらねんかん 新たな3年間 の方向性</p>
<p>せいしんしつかん がっぺい 精神疾患を合併す る身体救急患者 の救急医療体制 せいびじぎょう 整備事業</p>	<p>せいしんしつかん とくてい 精神疾患のうち特定 しょうじょう しんたい 症状をもつ身体 きゅうきゅうかんじゃ たいおう 救急患者に対応す る病院群について、 へいせい ねん どまつげんざい 平成28年度末現在で びょういん たいせい さん 2病院が体制に参 かく 画しています。</p>	<p>せいしんしつかん とくてい 精神疾患のうち特定 しょうじょう しんたい 症状をもつ身体 きゅうきゅうかんじゃ たいおう 救急患者に対応す る2病院の救急 いりょうたいせい ゆうこう 医療体制が、有効に きのう けん 機能しているのか検 しょう すず ひつよう 証を進める必要が あります。</p>	<p>せいしんしつかん がっぺい 精神疾患を合併する しんたいきゅうきゅう いりょうたい 身体救急医療体 せい じゅうじつ 制を充実させるた め、現行体制の検証 をおこない ひつよう おう を行い、必要に応じ とくていしょうじょうたいおうびょう 特定症状対応病 いん さんかく かんしょう 院の参画を勧奨し ていきます。</p>

とりくみ ぼりあふりー  
**取組3-2 バリアフリー**

ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゅう かん ふ かい  
**中間振り返り**

げんじょう  
**【現状】**

ぼりあふりー きほんこうそう もと せいび ちやくじつ すす てつどう えきしゃ  
 バリアフリー基本構想に基づいた整備が着実に進んでいます。また、鉄道駅舎の  
 えれべーたーせっち のんすてっぶ ぼす どうにゅう すす  
 エレベーター設置やノンステップバスの導入が進んでいます。

かだい  
**【課題】**

しょうがい ただ りかい ひつよう ひろ しみん い わた ふきゅう けいはつ ひつよう  
 障害への正しい理解が必要なため、広く市民に行き渡るような普及・啓発が必要です。

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

はーど ぼりあふりー せいび そふと おち いくせい りょうめん いったいてき すいしん  
 ハード（バリアフリーの整備）とソフト（思いやりのこころの育成）の両面を一体的に推進  
 していきます。

ぼりあふりー ふきゅう けいはつ そくしん  
**◆バリアフリーの普及・啓発の促進**

しみん じぎょうしゃ む ふきゅう けいはつ  
**▷市民や事業者へ向けた普及・啓発**

<small>じっせき</small> これまでの実績 <small>へいせい ねん がつまつ</small> （平成29年3月末）	<small>かだい</small> 課題	<small>あら ねんかん</small> 新たな3年間 <small>ほうこうせい</small> の方向性
<small>てーま</small> テーマ1 <small>とりくみ</small> 取組1-1の普及・啓発内で対応していきます。		

◆さらなるバリアフリーの推進

▷バリアフリーの推進

<p>事業名</p>	<p>これまでの実績 (平成29年3月末)</p>	<p>課題</p>	<p>新たな3年間の方向性</p>
<p>福祉のまちづくり 条例推進事業</p>	<p>子ども向けリーフレットの配布や、職員等を対象とした研修の開催などにより、福祉のまちづくりを推進しました。 平成24年12月に福祉のまちづくり条例を改正し、条例に基づく事前協議や設計相談等に対応しました。</p>	<p>福祉のまちづくり普及啓発では引き続き、内容、対象者、情報伝達媒体・手段に検討を加えつつ、社会福祉協議会や民間事業者、市民団体等との連携を模索しながら進めていく必要があります。 ・国の動向、市民意識・社会情勢の変化等により市民ニーズ、時代にあった条例のあり方について検討し、その内容を反映させる必要があります。</p>	<p>啓発リーフレットの配布や、職員等を対象とした研修の開催などにより、福祉のまちづくりを推進します。 福祉のまちづくり条例に基づく事前協議や設計相談等に適切に対応します。</p>
<p>公共交通機関のバリアフリー化</p>	<p>駅舎エレベーター設置について、平成28年度末時点で、市内157駅中149駅が段階解消済みで、進捗率は、94.9%です。 ノンステップバス導入について、平成24</p>	<p>平成28年度末時点で、段階未解消の駅は、構造上設置場所がなく、大規模な駅舎改良を伴うため、設置が困難であることや、バリアフリー法の基本方針の対象</p>	<p>市内の駅には、まだバリアフリー化未整備の駅があるため、本事業は引き続き実施していきます。また、バスについても導入率が伸び悩み、近隣他都市に比較して遅れを取っているた</p>



	<p>ねんどより、市内民営バス事業者の導入に際する補助を再開し、平成27年度は50台、平成28年度は24台を補助対象としました。</p>	<p>駅でないことから、設置の優先度が低い状況です。導入にあたっては事業者の費用確保もあることから、事業者間で導入率の格差が生じているため、本市の財政状況を考慮しつつ、補助金の重点化・効率化を図る必要があります。</p>	<p>め、引き続き実施していきます。</p>
<p>バリアフリーの推進(バリアフリー基本構想の検討・策定)</p>	<p>平成28年度末までに、各区1地区、全18地区26駅を含む地区でバリアフリー基本構想の策定を完了しました。</p>	<p>市内には、バリアフリー基本構想が未策定の駅周辺地区が多く、引き続き、バリアフリー基本構想を策定し、駅周辺において、重点的かつ一体的にバリアフリー化を図る必要があります。</p>	<p>今後は、新規に策定する地区を区ごとに3地区程度選定し、同時並行で検討し、区で一つの基本構想を策定します。あわせて、策定済み地区の見直しを行います。</p>
<p>バリアフリーの推進(バリアフリー歩行空間の整備)</p>	<p>バリアフリー化整備延長の累計は、平成27年度は33.5km、平成28年度は37.6kmでした。平成29年度は39.6kmを目標に進めます。</p>	<p>原則として、バリアフリー基本構想策定後5年以内の事業完了を目標としていますが、限られた予算の中で、平成29年度現在市内11地区において事業を実施してい</p>	<p>引き続き、駅周辺のバリアフリー化を推進するため、バリアフリー基本構想に基づき、道路のバリアフリー化整備延長42.0kmを目標に進めます。</p>

		<p>ることや、地元調整  が難航することがあ  るため、5年以内に  事業が完了しない  地区もあります。</p>	
<p>よこはましこうきょうさいん  横浜市公共サイン  ガイドラインの  改訂</p>	<p>とうきょうおりんびつ  東京オリンピック  くばらりんびつ  ク・パラリンピックの  どうこうふまえたじょう  動向を踏まえた情  報収集を進めまし  た。</p>	<p>とうきょうおりんびつ  東京オリンピック  くばらりんびつ  ク・パラリンピックの  どうこうふまえたじょう  動向を踏まえ、ガイド  ラインを見直す箇所  について検討を進め  る必要があります。  また、会場周辺の  サインがガイドライ  ンに沿っているかを  確認する必要があります。  ます。</p>	<p>ほこうしゃ  歩行者にわかりやす  いサイン整備が行  われるよう、引き続き  ガイドラインの見直  しに向けた検討を進  めていきます。</p>
<p>がっこうしせつばりあ  学校施設のバリア  フリー</p>	<p>くるまいすりようとうじ  車椅子利用等の児  童・生徒が在籍して  いるがエレベーター  が未設置である学校  に、エレベーターを整  備しています。  しょうちゅうがっこう  小・中学校487校  ちゅう  中、163校に設置済  です。(平成29年3月  まつじてん  末時点)</p>	<p>えれべーターこうじ  エレベーター工事に  ついて、候補校選  定・調査から施工完  了まで3年かかる  ため、特に中学校に  おいては、対象生徒  が1年生にいる時に  選定・調査をして  も、在校中に施工完  了することが難し  い状況となってい  ます。</p>	<p>くるまいすりようとうじ  車椅子利用等の児  童・生徒が在籍して  いる学校へのエレベ  ーターの整備や段差  解消など、学校施設  のバリアフリー化を  すす  進め、障害児が学び  やすい環境を整備  します。</p>



ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
中間期の現状と今後の方向性

ちゅう かん ふ かえ  
中間振り返り

げんじょう  
【現状】

へいせい ねん がつ しょうがいしゃきべつかいしょうほう しこう ともな ししょくいんたいおうようりょう さくてい  
平成28年4月に障害者差別解消法が施行されたことに伴い、市職員対応要領の策定  
や市民向けの啓発活動の実施等、障害者差別解消に向けた取組を推進しています。また、  
ひとりひとりのけんりようご もくてき しょうがいしゃぎゃくたいぼうし かん しみんむ けいはつ じぎょうしゃむ  
一人ひとりの権利擁護を目的として、障害者虐待防止に関する市民向けの啓発や事業者向  
けのけんしゅうどう じっし へいせい ねん がつ しこう せいねんこうけんせいど りよう そくしん かん  
研修等を実施するとともに、平成28年5月に施行された成年後見制度の利用の促進に関  
するほうりつ ふ せいねんこうけんせいど りようそくしんどう とりくみ すいしん  
する法律を踏まえた成年後見制度の利用促進等の取組を推進しています。

かだい  
【課題】

しょうがいしゃ けんりようご かん とりくみ ひ つづ ちゃくじつ すす けいはつかつどう とお ひろ  
障害者の権利擁護に関する取組を、引き続き着実に進めるとともに、啓発活動を通して広  
くしみん しんどう はか ひつよう とく しょうがいどうじしゃ りかい ふか けいはつ  
く市民への浸透を図る必要があります。また、特に障害当事者への理解を深めるための啓発  
かつどう おこな ひつよう  
活動を行う必要があります。

こんご ほうこうせい  
【今後の方向性】

しょうがい ひと しょうがい ひと く よこはま じつげん しょうがいしゃきべつ  
「障害のある人も障害のない人も暮らしやすい横浜」を実現するために、障害者差別  
かいしょう ぜんちようてき とりくみ すいしん しみん じぎょうしゃ たいしゅう けいはつ けんしゅうどう  
解消について、全庁的に取組が推進されるよう市民や事業者を対象とした啓発や研修等  
かか とりくみ すいしん  
に係る取組を推進します。

また、しょうがいしゃぎゃくたいぼうし じぎょうしゃむ けんしゅう とりくみ かくじゅう じっし  
また、障害者虐待防止について、事業者向けの研修の取組を拡充して実施するほか、  
せいねんこうけんせいど りようそくしん かん とりくみ すいしん ひとり けんり  
成年後見制度の利用促進に関する取組をさらに推進することによって、一人ひとりの権利が  
じゅうぶん そんちよう たいせい せいび  
十分に尊重される体制を整備します。

しょうがいしゃぎゃくたいぼうし とりくみ しんどう  
◆ 障害者虐待防止の取組の浸透

ふきゅう けいはつ  
▷ 普及・啓発

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
しょうがいしゃぎゃくたいぼうし 障害者虐待対策 じぎょう 事業 ふきゅう けいはつ (普及・啓発)	しみんむ けいはつち ・市民向けの啓発チ ラシを作成しまし た。(平成29年3月) へいせい ねん がつ ・事業者等を対象 とした研修を実施 しました。 へいせい ねん どういごう じ ・平成29年度以降、事 業者等を対象とし た、内容を拡充した 虐待防止研修(国 が実施する研修を 踏まえたもの)の実施 に向けて、必要な調 整等を行いました。	さくせい けいはつち ら ・作成した啓発チ ラシを市民・事業者等 に広く周知する必 要があります。また、 障害当事者向けの 啓発活動を実施する 必要があります。 ほっせい ・これまでに発生した 虐待事例を踏まえ て、事業者等に対し て、障害者虐待に 関する研修を実施 する必要があります。	ひ つづ しみんむ ・引き続き、市民向け に虐待防止に関す る広報を実施しま す。特に、平成29年3 月に作成した啓発チ ラシの活用等によ り、障害当事者向け の啓発活動を実施し ます。 ないよう かくじゅう ・内容を拡充した 虐待防止研修(国 が実施する研修等 を踏まえたもの)を 事業者等向けに実 施します。

しょうがいしゃさべつかいしょうほう もと とりくみ  
◆ 障害者差別解消法に基づく取組

ほうりつ しこう む とりくみ しこうご すいしん  
▷ 法律の施行に向けた取組と施行後の推進

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
しょうがいしゃ さべつかいしょう 障害者差別解消 ほうりつ しこう む 法施行に向けた対 応	よこはまし しょうがいしゃ さ ・「横浜市 障害者差 別解消検討部会」に おいて、障害者差別 解消法の施行に伴 って市が行うべきこ とについて検討して いただき、11月に検 討のまとめとして提	— い か かくこうちく き (以下、各項目に記 載のとおり)	ひ つづ とりくみ しんしん 引き続き、取組指針 に沿って障害者差 別解消の取組を推 進します。

	<p>げん 言をいただきました。</p> <p>けんとう ぶ かい ていげん ・ 検討部会の提言を う がつ ほんし 受け、2月に本市の とりくみ かんが かつ とり 取組の考え方や取 くみ ないよう しめ とり 組の内容を示した取 くみ しん さくてい 組指針を策定しまし た。</p>		
<p>ししよくいんたいおうようりよう 市職員対応要領 さくていおよ しゅうち の策定及び周知</p>	<p>ししよくいんたいおうようりよう ・ 市職員対応要領 さくてい かくくきよくむ を策定し、各区局向 しゅうち けに周知しました。</p> <p>さくねん ど ひ つづ ・ 昨年度に引き続き、 ぜんしよくいん たいしよく 全職員を対象とし けんしゅう いーらー にん た研修 (eラーニン ぐ) を実施していま す。</p> <p>かくくきよくなど ・ 各区局等において しょうがいしゃ さべつかいしょう も障害者差別解消 てーま けん をテーマとした研 しゅう おこな 修が行われていま す。</p>	<p>しょうがいしゃ さべつ かいしょう 障害者差別の解消 は、すべての職場に かか てーま 関わりがあるテーマ けいぞくてき であるため、継続的 ししよくいん しゅうち に市職員への周知 はか ひつよう を図る必要があります。 す。</p>	<p>ひ つづ ぜんしよくいん 引き続き、全職員を たいしよく じしよくいん 対象として、職員 たいおうようりよう しゅうち 対応要領の周知を もくてき けんしゅう 目的とした研修を けいぞくてき じしよく 継続的に実施しま す。</p>
<p>しみん ふきゅう けいはつ 市民への普及・啓発</p>	<p>こうほう ・ 広報よこはまへの きじ けいさい しゅう 記事掲載による周 ち けいはつ おこな 知・啓発を行いまし た。</p> <p>おち ちてきしょうがい ・ 主に知的障害のあ ひと たいしよく る人を対象とした けいはつ しりよう 啓発資料 (すごろ く) を作成・配布し ました。</p> <p>しょうがい ひと ・ 「障害のある人と しょうがい ひと こう 障害のない人の交 りゅう とお けいはつかつ 流を通した啓発活 どう じしよく 動」を実施していま す。</p>	<p>しょうがいしゃ さべつ かいしょう 障害者差別の解消 について、広く市民に かんしん も ひろ しみん 関心を持っていただ りかい ふか き、理解を深めていた ひつよう だく必要があります。</p>	<p>ひ つづ しみんむ 引き続き、市民向け けいはつかつどう けいぞくてき の啓発活動を継続的 じしよく に実施します。</p>

<p>そらだんたいせいとう せいび 相談体制等の整備</p>	<p>こうほう よこはまとう ・広報よこはま等で、 そらだんたいおう かん 相談対応に関する しゅうち おこな 周知を行いました た。 よこはまし しやうがいしゃ さ ・「横浜市 障害者差 べつかいしやう しえん ちいききやう 別解消支援地域協 ぎかい そらだんじれい 議会」で相談事例の きやうゆう はか 共有を図るととも に、相談対応に関す けんとう おこな る検討を行ってい ます。 そらだんたいおう ・相談対応によつて かいけつ はか も解決が図られなか さべつじあん った差別事案のあつ せんを行う「横浜市 しやうがいしゃ さべつ そらだん 障害者差別の相談 かんする ちやうせいいいん に関する調整委員 かい そしき もうしで 会」を組織し、申出 たいおう に対応しています。</p>	<p>しやうがいしゃ さべつ かん 障害者差別に関す そらだんたいおう る相談対応が、より てきせつ じっし 適切に実施されるよ う、事業者や各区 じぎやうしゃ かくく 局に対する研修等 きやく たい けんしゆうとう の支援体制が強化 しえんたいせい きやうか されるときとも、調 せいいいんかい 整委員会によるあつ せんの仕事につい しみんむ て、市民向けにさらに しゅうち ひつよう 周知する必要があ ります。</p>	<p>かくくきやく じぎやうしゃ 各区局、事業者に たい こうし はけん 対して、講師の派遣 しやうかい しりやうていきやう や紹介、資料提供 とう せつきよくてき し 等を、積極的に支 えん きやうりやく 援・協力していく ことにより、全市的 しやうがいしゃ さべつ かい に障害者差別の解 しょう すいしん 消を推進していく とともに、相談事例 きやうゆう ちやうせいいいん の共有や調整委員 かい しゅうち じっし 会の周知を実施し ます。</p>
<p>ほうしこうご じっし 法施行後の実施 じやうきやう けんしやう 状況の検証</p>	<p>よこはまし しやうがいしゃ さべつ ・横浜市 障害者差別 かいしやう しえん ちいききやう ぎ 解消支援地域協 かい しやうがいしゃ さべつかい 会、障害者差別解 しやうちやうないすいしんかい ぎ 消庁内推進会議に とりくみ じっし おいて取組の実施 じやうきやう ほうこく きやう 状況を報告し、共 ゆう 有しています。</p>	<p>けいぞくてき し 継続的にこうした仕 く かつよう かい 組みを活用し、課題 かいけつ の解決につなげてい ひつよう くことが必要です。</p>	<p>ひ つつ しやうがいしゃ さ 引き続き、障害者差 べつ かいしやう かん 別の解消に関する とりくみ かい ぎやうゆう 取組や課題を共有 かい かいけつ む し、課題の解決に向 とりくみ ほうこうせい けた取組の方向性に かん けんとう じっし 関する検討を実施し ます。</p>

せいねんこうけんせいど りようそくしん  
◆ 成年後見制度の利用促進

せいねんこうけんせいど かか とりくみ  
▶ 成年後見制度に関わる取組

<p>じぎょうめい 事業名</p>	<p>これまでの実績 （平成29年3月末）</p>	<p>かだい 課題</p>	<p>あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性</p>
<p>よこはまししみんこうけんじん 横浜市市民後見人 ようせい かつどうしえんじぎょう 養成・活動支援事業</p>	<p>へいせい ねんど だい ・平成27年度に第2 き し むんこうけんじんようせい か 期市民後見人養成課 てい しゅうりょう ぜんく 程が修了し、全区 し むんこうけんじん ぼんく で市民後見人バンク とうろくしゃ こうほしゃ 登録者を候補者とし もうした かのう て申立てが可能と なりました。また、平 せい ねんど ぼん 成28年度には、バン く とうろくしゃ すく つる ク登録者が少ない鶴 み にし こうなん かなざわ 見、西、港南、金沢、 さかえ いずみ せやく たい 栄、泉、瀬谷区を対 しょう だい きようせい 象に第3期養成を じっし へいせい ねんど 実施し、平成28年度 まつじてん ぼんく とう 末時点で、バンク登 ろくしゃ めい じゆにんそう 録者が71名、受任総 すう けん 数は30件となっています。</p>	<p>し むんこうけんじん ・より市民後見人の ぼんく とうろくしゃ じゆにん バンク登録者の受任 すす くちょう が進むように、区長 もうしたてあんけん げんてい 申立案件に限定し げんざい ちようせい ている現在の調整 ほうほう みなお 方法について見直し ひつよう が必要です。 みなお ・見直しにあたって かていさいばんしよ せんもん は、家庭裁判所、専門 しよくだんたいとう じゅうぶん 職団体等の十分な いけんこうかん よう 意見交換を要しま す。</p>	<p>おほ ぼんく ・より多くのバンク とうろくしゃ し むんこうけんじん 登録者が市民後見人 かつどう として活動できるよ くやくしよ くしやきよう う、区役所や区社協 とう ふ きゆうけいはつ すす 等へ、普及啓発を進 めるとともに、未受 にんしや すきる あっ 任者のスキルアッ ぶ もちベーしょん プ・モチベーション いじ じゆにんじゆん 維持のため、受任準 びかつどう じっし 備活動を実施しま す。 じゆにんじようきよう ふ ・受任状況を踏ま えて、4期以降の養 せい けんとう すす 成について検討を進 めていきます。</p>

<p>ほうじんごうけんしえんじぎょう 法人後見支援事業</p>	<p>へいせい ねんど ほう ・平成26年度より法 じんごうけんしえんじぎょう 人後見支援事業を じっし ほうじんごうけん 実施し、法人後見を じっし だんたい 実施している団体 や、じゆにん めぎ だん 受任を旨とする団 たい れんらくかいとう じっし 体の連絡会等を実施 しました。 へいせい ねんど ・平成26,27年度に しょうがいしゃしえんしせつ とう 障害者支援施設、当 じしゃかぞくなどむ あ 事者家族等向けにア んけーと じっし ンケートを実施。その けつ か ふ しょうがい 結果を踏まえ、障害 かた かぞく し のある方の家族や支 えんしゃむ せいねんごうけん 援者向けの成年後見 せいど ほんふれつ と 制度のパンフレット を、へいせい ねんど さく を、平成28年度に作 せい 成しました。</p>	<p>ぐたいてき ・具体的にどれくらい ほうじん ほうじんごうけん の法人が、法人後見 について ぎょうみ 興味がある かがふめい こんねん かが不明です。(今年 ど しなひ ほうじんむ 度、市内の法人向け にあんけーと じっし にアンケートを実施) しょうがいぶんや ・障害分野における せいねんごうけんせいど たい 成年後見制度に対す るただりかい すす る正しい理解が進ん でいかないと、ほうじん ごうけん じっし 後見を実施しようと いうなが 流れにならない ため、引き続き普及 けいはつ じっし 啓発を実施していく ひつよう 必要があります。</p>	<p>しなひ しょうがいかんけい ・市内の障害関係の しゃかいふくし ほうじん たい 社会福祉法人を対 しょう じっし ほうじんごう 象に実施し、法人後 見にとくく いこう 見に取り組む意向が あるか ちょうさ じっし あるか調査を実施 します。また、ひきつづ き連絡会を開催しま す。 ほうじん あら ・法人として新たに、 じゆにん だんたい よう 受任できる団体を養 せい 成するために、市内 しゃふくほうじん れんけい の社福法人と連携 し、とりくみ すす し、取組を進めます。</p>
<p>せいねんごうけんせいど り 成年後見制度の利 ようそくしん む かん 用促進に向けた関 けいだんたい けんとう 係団体との検討</p>	<p>せいねんごうけんせいど りよう 成年後見制度の利用 そくしん む べんごし 促進に向け、弁護士 かい けんとうかい おこな 会との検討会を行 いました。</p>	<p>せいど し 制度は知っていても、 ぐたいてきないうよう し 具体的内容を知らな いとのいけん おお いとの意見が多いた め、とうじしゃおよ かんけい め、当事者及び関係 きかん せいどりかい む 機関の制度理解に向 けたそくしん ひつよう けた促進が必要で す。また、せいどりよう す。また、制度利用の かてい しょうがいりかい 過程で障害理解の せいねんごうけんにんこう ほ ある成年後見人候補 かくほ かだい の確保も課題です。</p>	<p>べんごしかい けんとう 弁護士会との検討を ふ しょうけんてきしえん 踏まえ、後見の支援 しつ べんごしかい い 室と弁護士会との意 けんこうかんかい べんきょうかい 見交換会や勉強会 をじっし を実施します。</p>

せいねんごうけんせいど りようしえんじぎょう  
▶ 成年後見制度利用支援事業

	へいせい ねんど 平成27年度		へいせい ねんど 平成28年度		へいせい ねんど 平成29年度		へいせい ねんど 平成30年度		へいせい ねんど 平成31年度		へいせい ねんど 平成32年度	
もうした およ 申立て及び	72	けん 件	79	けん 件	87	けん 件	173	けん 件	202	けん 件	232	けん 件
ほうしゅうじよせいけんすう 報酬助成件数	90	けん 件	118	けん 件								

けんりようご にかか しえん  
 ▶ 権利擁護に関わる支援

…自分で金銭や重要な書類を管理するのに不安のある障害者等に対し、福祉サービス  
 の利用に関する援助や金銭管理などを行うことで、安心して生活が送れるよう支援  
 します。

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かいだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 の方向性
けんりようごじぎょう 権利擁護事業	くしゃきょう せ 区社協あんしんセ ンターの権利擁護事 業 契約数は平成26 年度が620件、平成 27年度が728件、平 成28年度が901件と 年々増加傾向となつ ています。	た せいれいし ひかく 他の政令市と比較す ると権利擁護事業 の契約者が、少なく なっています。制度が 必要な方に、権利擁 護事業を活用して もらえるように、引き 続き関係機関及び地 域向けに普及啓発 等を実施していく必 要があります。	ひ つづ せいど しゅう 引き続き制度の周 知・啓発等を支援者 向けに実施し、権利 擁護事業契約者の 増加を目指します。

とりくみ りょういく  
**取組4-1 療育**

ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゅう かん ぶ かせ  
**中間振り返り**

げんじょう  
**【現状】**

かだい  
**【課題】**

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

かくしゅだんたい たい ひ あり ん ぐ と う りょう に ー ず  
 各種団体に対するヒアリング等により利用ニーズ  
 を把握したうえで、現状を把握し、課題を整理し  
 た上で、今後の方向性を決定します。

そうきりょういくたいせい じゅうじつ  
**◆早期療育体制の充実**

そうだんしえんたいせい しょうがいじそうだん かくりつ しゅうち  
**▷相談支援体制（障害児相談）の確立と周知**

もくひょう  
**【目標】**

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
しょうがいじそうだん 障害児相談	4,000 人 実績: 1,771 人	4,500 人 実績: 4,325 人	5,000 人	けいかくち こんご かくしゅだんたい 計画値については、今後各種団体に たい ひ あり ん ぐ と う りょう に ー ず 対するヒアリング等により利用ニ ーズを把握したうえで、設定します。		



じどうはつたつしえんたいせい かくりつ  
 ▶ 児童発達支援体制の確立

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら 新たな3年間 の方向性
ちいきりょういくせんたー 地域療育センター 運営事業	しよしん もうしこみけんすう 初診の申込件数が おおい せいぶ およ とうぶ ち 多い西部及び東部地 いきりょういくせんたー 域療育センターの そうだん ぼしよ かくじゅう 相談場所を拡充し、 しえん えんかつか はか 支援の円滑化を図る ことで、平成28年度 まつ しよしんたいき きかん 末で初診待機期間は がつ 3.2月となりました。	かだい あら ねんかん ほうこうせい 課題、新たな3年間の方向性については げんざいけんとうちゅう 現在検討中です。	
ちいきくんれんかいうんえいひ 地域訓練会運営費 助成事業	しょうがいじ ほごしゃとう 障害児の保護者等 がじしゆてき そしき が自主的に組織し、 ちいき きのかいふくくんれん 地域で機能回復訓練 やほいく おこな ちいき や保育を行う地域 くんれんかい うんえいひ じよ 訓練会の運営費を助 せい 成しました。 (平成27年度57団 たい 平成28年度56団 たい 体)	かだい あら ねんかん ほうこうせい 課題、新たな3年間の方向性については げんざいけんとうちゅう 現在検討中です。	

ちくひょう  
 福 【目標】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
ほいくしよとうほうもん 保育所等訪問 しえん じゆんかいほうもん 支援・巡回訪問	1,500 人 実績: 1,497 人	1,500 人 実績: 1,653 人	1,750 人	14,000 人日		
じどうはつたつしえん 児童発達支援 ※	49 箇所 実績: 63 箇所	52 箇所 実績: 77 箇所	55 箇所	149,000 人日		

けいかくち  
計画値については、今後各種団体に  
たい ひありんぐとう りように  
対するヒアリング等により利用ニ  
ズを把握したうえで、設定します。

いりようがた <b>医療型</b> じどうはつたつしえん <b>児童発達支援 ※</b>	9 か所	9 か所	9 か所
	実績: 9 か所	実績: 9 か所	
	19,000 人日	19,000 人日	19,000 人日
	実績: 20,953 人日	実績: 18,849 人日	

けいかくち 計画値については、こんごかくしゆだんたい 今後各種団体に  
 たい ひありんぐどう 対するヒアリング等によりりように  
 ず はあく ズを把握したうえで、せってい 設定します。

※ いずれもちいきりょういくせんたーじっしふん 地域療育センター実施分を含む

**【新規】**

	平成30年度	平成31年度	平成32年度
しょうがいじふくし <b>障害児福祉</b> けいかく にか 計画に係る しょうがいじ <b>障害児の子</b> こ <b>ども・子育て</b> 支援等のニ ー ず はあくおよ スの把握及び ていきょうたい その提供体 制の整備 <b>【新規】</b>			

けいかくち 計画値については、こんごかくしゆだんたい 今後各種団体に  
 たい ひありんぐどう 対するヒアリング等によりりように  
 ず はあく ズを把握したうえで、せってい 設定します。

がくれいしょうがいじ しえん じゅうじつ  
◆学齡障害児の支援の充実

ほうかごとう いぼしよ じゅうじつ  
▶放課後等における居場所の充実

これまでの実績 (平成29年3月末)	課題	新たな3年間の方向性
<p>・新規指定前の説明会を平成27年度より開催し、事業周知とともに質の向上に向けた説明を行いました。(平成27年度4回、平成28年度3回)</p> <p>・事業所への実地指導、集団指導に加え、平成27年度からは研修も行っています。(平成27年度2回、平成28年度4回)</p> <p>・平成27年度には「横浜市版放課後等デイサービスガイドライン」を作成・公表し、平成28年度にはガイドラインに基づいた事業所自己評価及び保護者評価の実施を全事業所に指導しました。</p>	<p>課題、新たな3年間の方向性については現在検討中です。</p>	

【目標】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度			
放課後等デイサービス事業	130 箇所	165 箇所	200 箇所	計画値については、今後各種団体に 対するヒアリング等により利用二 ーズを把握したうえで、設定しま す。					
	実績: 162 箇所	実績: 217 箇所							
	229,000 人日	298,000 人日	368,000 人日				人日	人日	人日
	実績: 350,782 人日	実績: 521,130 人日							

ちゅうがっこうきこう そうだんしえん かくじゅう  
 ▶ 中学校期以降の相談支援の拡充

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 <small>へいせい ねん がつまつ</small> (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 <small>ほうこうせい</small> の方向性
がくれいこうきしょうがいじ 学齢後期障害児 しえんじぎょう 支援事業	しんきりようしやすうおよ そ 新規利用者数及び相 だんたいおうけんすう そう か けい 談対応件数は増加傾 こう 向にあり、4か所目の せつ ち けんとう おこな 設置検討を行いま した。 へいせい ねんじっせき 平成27年実績 しんきりようしや にん 新規利用者:1,177人 そうだんたいおうけん けん 相談対応件:17,392件 へいせい ねんじっせき しゅう 平成28年実績 : 集 けいちゅう 計中	かだい あら ねんかん ほうこうせい 課題、新たな3年間の方向性については げんざいけんとうちゅう 現在検討中です。	

ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
中間期の現状と今後の方向性

ちゅう かん ぶ かえ  
中間振り返り

げんじょう  
【現状】

しょうしか すす しょう ちゅうがっこう ざいせきしやすう げんじょう なか しょう ちゅうがっこう せっち  
少子化が進み、小・中学校の在籍者数が減少している中で、すべての小・中学校に設置  
している「個別支援学級」や市内の小・中学校及び特別支援学校22か所に設置している  
「通級指導教室」の在籍者数も増加傾向にあるほか、一般学級の中にも発達障害などに  
より支援が必要な児童生徒もいるなど、特別な支援が必要な児童生徒は増加し、対象となる子  
どもの障害は多様化しています。

しりつがっこう こ ひとり とくせい しょうがい じょうたい おう とくい ひ だ  
市立学校では、子ども一人ひとりの特性や障害の状態に応じて「得意なことを引き出し、  
さいのう の しどう しえん だい ききょういくしんこう きほんけいかく おこ しどうたいせい みなお  
才能を伸ばす指導・支援（第2期教育振興基本計画）」を行なうための指導体制の見直しと  
じゅうじつ はか  
充実を図っています。

また、したいふじゆうじ ききょういくかんきょう ききょういくかつどう じゅうじつ はか ねんど したいふじゆう  
肢体不自由児の教育環境や教育活動の充実を図るため、27年度から肢体不自由  
とくべつしえんがっこう さいへんせいび すす  
特別支援学校の再編整備を進めています。

かだい  
【課題】

とくべつしえんききょういく かん たようか に ー ず、 たいおう じんざいいくせい しどうほうほう じゅうじつ  
特別支援教育に関して、多様化するニーズに対応するための人材育成と指導方法の充実  
や、ライフステージを見据えた教育と福祉の連携による切れ目のない支援が必要で、また、  
したいふじゆうとくべつしえんがっこう さいへんせいび ほごしゃ しゅうち りかい つと ひつよう  
肢体不自由特別支援学校の再編整備について、保護者への周知と理解に努める必要があります。  
す。

こんご ほうこうせい  
【今後の方向性】

いんくるーしぶ ききょういくし すてむこうちく ひ つづ ひとり おう しゅうがくそうだん ききょういく  
インクルーシブ教育システム構築のため、引き続き、一人ひとりに応じた就学相談と教育  
そうだん おこ しりつがっこう ききょういくかんきょう じゅうじつ はか ようじ  
相談を行なうとともに、市立学校における教育環境のさらなる充実を図ります。また、幼児  
じどうせいと たい ひつよう ききょういくてきしえん おこ こ たち しゅうらい じりつ しゃかいさんか  
児童生徒に対して必要な教育的支援を行なうことで、子ども達の将来の自立と社会参加につ  
なげていきます。

りょういく きょういく れんけい き め しえん  
**◆療育と教育の連携による切れ目のない支援**

しょう ちゅうがっこうとう しえん じゅうじつ  
**▷小・中学校等への支援の充実**

じぎょうめい <b>事業名</b>	これまでの実績 (平成29年3月末)	かいだい <b>課題</b>	あらねんかん <b>新たな3年間 の方向性</b>
よこはまがたせんたーてき <b>横浜型センター的 機能の充実</b>	へいせいねんど 平成28年度には、セ ンター的機能のパン フレットを作成し、 しりつがっこうしゅうち 市立学校に周知・啓 発を図りました。そ ごまいとしかくにん の後、毎年確認をし、 じゅうじつはか 充実を図っていま す。	とくべつしえんがっこう 特別支援学校、通級 指導教室等の担当 者の専門性の向上 に加え、小・中学校 からの相談をはじめ、 じどうせいとほごしゃ 児童生徒・保護者か らの相談に対応する ための連携の充実 が必要です。	しょうちゅうがっこう 小中学校のコーデ ィネーターを組織化 する中で、その専門 性の向上を図りま す。また、特別支援学 校の学校支援担当者 の連絡会を定期的に 実施し、幅広い相談 や支援に対応しま す。
とくべつしえんきょういく 特別支援教育にお ける幼保小の連携	へいせいねんど 平成26・27年度の2 か年で、4方面にお いて研究実践を行 いました。28年度に は、その研究成果を さつし 冊子にまとめ、すべて しりつがっこうはっしん の市立学校に発信し きょうゆう 共有しました。	ようちえんほいくえん 幼稚園・保育園から しょうがっこうひきつ 小学校への引き継 ぎ体制や連携につい て、引き続き、各地域 の実情等も踏まえ かいだいせいりひつよう た課題の整理が必要 です。	ひつづくにどうこう 引き続き、国の動向 を見据えていくとと もに、平成28・29年度 の発達障害検討委 員会での議論の内容 も踏まえ、関係局と れんけいすす 連携しながら進めて いきます。
しゅうがくせつめいかい <b>就学説明会</b>	へいせいねんどがつ 平成28年度は5月か ら6月にかけて28回 じっし 実施しました。	りょういくせんたーとう 療育センター等、 しゅうがくまえしえんきかん 就学前の支援機関 にかかわっていない ほごしゃしゅうち 保護者への周知	くやくしょようちえんほ 区役所、幼稚園や保 いくえんふくしゅうち 育園を含めた周知 をおこな を行っていきます。
しゅうがくきょういくそうだん <b>就学・教育相談 の体制強化</b>	へいせいねんど 平成28年度は4,267 けんしゅうがくきょういくそう 件の就学・教育相 だんおこな 談を行いました。前 ねんどくらやくけん 年度に比べ約300件 そうか 増加しています。	ねんねんそうか 年々増加する相談 もうしこみ 申込への対応	たいききかんたんしゆく 待機期間の短縮と、 そうだんてきせい 相談の適正化を図り ます。

<p>ちょうかくしょうがいじしえん 聴覚障害児支援 じぎょう 事業</p>	<p>へいせい ねん ど 平成28年度は 15人 の じ どう せい と たい 児童生徒に対し て、390回 の ボラン テ い あ は けん おこな イア派遣を行いま した。</p>	<p>の ー と て い く ほらん ノートテイクボラン て い あ かく ほ てきせい ティアの確保と適正 はいち な配置</p>	<p>ひ つづ じぎょう じつ 引き続き事業を し 施します。</p>
<p>ほごしゃきょうしつかいさい 保護者教室開催 じぎょう 事業</p>	<p>まいとし なんちよう げんごしょう 毎年、難聴・言語障 がい 害にかかわるものを かい はつたつしょうがい 3回、発達障害にか かわるものを3回開 さい 催しています。</p>	<p>とく 特にありません。</p>	<p>こうしせんてい くふう 講師選定を工夫しな がらすす すす がら進めます。</p>
<p>なつやす しえんじぎょう 夏休み支援事業 きゅうがくれいしょうがいじ (旧学齢障害児 なつやす しえんじぎょう) 夏休み支援事業)</p>	<p>とくべつしえんがっこう なつやす 特別支援学校の夏休 み 期間に、各校の じつじょう あ ぶ 実情に合わせて、プ ール かいほう や部活動・ れくりエーション かつどうとう よか かつどう 活動等の余暇活動を まいねんどじっし 毎年度実施していま す。</p>	<p>かくこう じどう せいと 各校の児童生徒の じょうきょうとう あ 状況等に合わせた よか かつどう じゅうじつ 余暇活動の充実に む 向け、課題の整理が ひつよう 必要です。</p>	<p>ひ つづ なつやす き 引き続き、夏休み期 かんちゅう よか かつどう 間中の余暇活動の じゅうじつおよ ぼごしゃふ 充実及び保護者負 たん けいげん 担の軽減のために、 ちいき きょうりよく え 地域の協力を得な がらすす すす がら進めていきま す。</p>
<p>しりつようちえんとう 私立幼稚園等 とくべつしえんきょういくひ 特別支援教育費 ほじょじぎょう 補助事業</p>	<p>へいせい ねん ど とくべつし 平成28年度の特別支 えんきょういくひ ほじょ たい 援教育費補助の対 しょうえんじすう しょうえん 象園児数は903人、 ほじょそがく 補助総額は180,600 せんえん 千円となりました。</p>	<p>へいせい ねん ど きゅう 平成27年度から、給 ふ たいしょうしせつ 付対象施設となる ようちえんおよ 認定こ えん ども園については、新た ほいくじょうよう しょう に保育所同様の障 がいじとううけいれか さんじよせい 害児等受入加算助成 おこな を行うため、補助対 しょうがい 象外としており、平 せい ねん ど いこう いこう 成30年度以降も移行 じょうきょう よさん 状況により予算の みなお ひつよう 見直しが必要となり ます。</p>	<p>へいせい ねん ど とくべつ 平成29年度の特別 しえんきょういくひ ほじょ 支援教育費補助の たいしょうえんじすう 対象園児数は475 にん ほじょきんがく 人、補助金額は 95,000千円を見込 んでいます。 へいせい ねん ど いこう ほ 平成30年度以降の補 じょきんがく しんせいど 助金額は、新制度へ いこうじょうきょう の移行状況により へいせい ねん ど ますが、平成30年度 せんえん へいせい 83,000千円、平成31 ねん 年は79,800千円と みこ 見込んでいます。</p>



きょういっかんきょう きょういっかつどう じゅうじつ  
**◆教育環境・教育活動の充実**

きょういん せんもんせいこうじょう とくべつしえんがっこう さいへんせいび  
**▶教員の専門性向上、特別支援学校の再編整備**

じぎょうめい <b>事業名</b>	じっせき <b>これまでの実績</b> へいせい ねん がつまつ <b>(平成29年3月末)</b>	かだい <b>課題</b>	あら ねんかん <b>新たな3年間</b> ほうこうせい <b>の方向性</b>
とくべつしえんきょういっくこーでい <b>特別支援教育コーディネーターの機能強化とスキルアップ</b> (旧発達障害児等支援事業)	へいせい ねん ど ようせいけん 平成28年度、養成研修は326人を対象に15回、スキルアップ研修は70人を対象に10回実施しました。また、各区、方面協議会において各校の取組の共有や事例検討を行いました。	こーでい ねーたー けん コーディネーター研修受講希望者の増加に伴う、会場や講師の確保。	しょうがっこう じどうしえん 小学校は児童支援専任会において、中学校は各区コーディネーター協議会において、各区チームコーディネーターを中心に情報共有、研修、事例検討を進めていきます。
ゆにばーさるでざいん <b>ユニバーサルデザインの視点に基づく授業の展開</b>	とくべつしえんきょういっくそうごう 特別支援教育総合センター及びセンター研修生の勤務校において研究を行い、毎年3月に報告会を行っています。重点研究を行っている学校に対し、指導助言を実施しています。	せんしんてき とりくみないよう 先進的な取組内容の情報発信。	しんがくしゅうしどうようりょう 新学習指導要領の内容やアクティブラーニングの視点から、わかりやすく活動的で子どもたちの意欲と理解を高めるような授業展開を構築していきます。
とくべつしえんがっこう <b>特別支援学校におけるICT機器の活用</b>	へいせい ねん ど 平成26～28年度の3か年で、全ての市立特別支援学校(12校)で実践研究を行いました。平成26年度末には研究の中間報告を冊子にまとめ、現在、最終報告を作成中です。	とくべつしえんがっこう かつ 特別支援学校での活用においては、障害種別によって使用するソフトウェアが異なることや市立学校におけるLANの状況など、導入時の手続きに困難さがありました。	じっせんけんきゅう せい か 実践研究の成果を踏まえ、引き続き、各特別支援学校でICT機器の活用を推進していきます。



<p>とくべつしえんがっこう さいへん 特別支援学校の再編 せいび 整備</p>	<p>へいせい ねん ど きこん 平成31年度の左近 やまとくべつしえんがっこう か 山特別支援学校（仮 しょう かいこう む 称）の開校に向けた せつけいとう じっし 設計等を実施すると へいこう よてい ともに、閉校を予定 きたつなしまとくべつ している北綱島特別 しえんがっこう ほごしゃ 支援学校では保護者 せつめいかい こべつめんだんとう 説明会や個別面談等 じっし を実施しました。</p>	<p>きたつなしまとくべつしえんがっこう 北綱島特別支援学校 ほごしゃ ちゅうしん の保護者を中心に さいへんせいび りかい 再編整備への理解を すす ひつよう 進めていく必要があ ります。</p>	<p>へいせい ねん ど きこん 平成31年度の左近 やまとくべつしえんがっこう か 山特別支援学校（仮 しょう かいこう む 称）の開校に向けた じゅんび きそん したい 準備や、既存の肢体 ふじゆうこう かいしゅうなど 不自由校の改修等 かんきょうせいび すず の環境整備を進め るとともに、肢体不 じゆうとくべつしえんがっこうぜん 自由特別支援学校全 たい きょういく かてい きょう 体の教育課程や教 いくないよう けんとう すず 育内容の検討を進め ていきます。</p>
<p>とくべつしえんがっこう 特別支援学校 すくーる ばす うんこう スクールバスの運行</p>	<p>へいせい ねん ど したい 平成28年度には肢体 ふじゆうこう すくーる 不自由校でスクール ばす だいぞうしゃ バスを1台増車し、 こう こーす うんこう 8校41コースの運行 じっし を実施しました。ま た、へいせい ねん ど 平成29年度から すべ ばす いち 全てのバスに位置 じょうほうしすてむ どう 情報システムを導 にゅう てきせい うんこうかん 入し、適正な運行管 りおよびほごしゃ りべん 理及び保護者の利便 せいこうじょう はか 性向上を図りまし た。</p>	<p>したいふ じゆうとくべつしえん 肢体不自由特別支援 がっこう さいへんせいび 学校の再編整備に ともな ばす こーす 伴う、バスコースの けんじょう すず 検証を進めていく ひつよう 必要があります。</p>	<p>へいせい ねん ど きこんやま 平成31年度の左近山 とくべつしえんがっこうかいこう 特別支援学校開校 およ ごと じょうきょう 及びその後の状況 をふ 踏まえ、ゆるやか にばすこーすをせいり することで長時間 じょうしゃ かいしょう む 乗車の解消に向け けんとう すず て検討を進めていき ます。</p>
<p>とくべつしえんがっこういりょうてき 特別支援学校医療的 ケア体制整備事業 きゅうしたいふ じゆうとくべつしえん (旧肢体不自由特別支援 がっこういりょうてき け あたいせい 学校医療的ケア体制 せいびじぎょう 整備事業)</p>	<p>したいふ じゆうとくべつしえん 肢体不自由特別支援 がっこう こう かんごし 学校5校に看護師を はいち きょういん れんけい 配置し、教員と連携 いりょうてき け あじつ した医療的ケア実 し たいせい こうちく 施体制を構築するこ とで、いりょうてき け あ と、医療的ケアを ともな じどうせいと あん 伴う児童生徒が安 しん あんぜん きょういく う 心・安全に教育を受 けられるかんきょうせいび けられる環境整備 おこな を行っています。</p>	<p>しん きさいようじ じんざいかく 新規採用時の人材確 ほ ごんなん か 保が困難なことが課 だい 題となっています。</p>	<p>ひ つづ いりょうてき け 引き続き、医療的ケ ア ひつよう じどうせいと アの必要な児童生徒 あんしん あんぜん きょういく の安心・安全な教育 かんきょうせいび 環境整備のために かんごし はいち 看護師を配置してい くとともに、じんざい 確保に努めていきま す。</p>

<p>こうないけんしゅう じっし 校内研修の実施</p>	<p>すべ しょう ちゅうがっこう 全ての小・中学校 において、「障害者 差別解消法施行に 伴う合理的配慮」や 「発達障害の理解 を深めるために」な ど各校の実情に応 じたテーマで校内研 修を実施していま す。</p>	<p>こうないけんしゅう じっし 校内研修を実施す る際のテーマを各校 に即した内容で設定 することや、研修実 施後の教職員への 定着について、丁寧 に確認していく必要 があります。</p>	<p>ひ つづ さまざま か 引き続き、様々な課 題に応じた研修内 容を発信しながら、 各学校に即した研 修が実践できるよ うに検討を進めてい きます。</p>
<p>とくべつ し えんきょういく し えん 特別支援教育支援 員事業 (旧障害児学校生活 支援員事業)</p>	<p>しょう ちゅうがっこう しょうがい 小・中学校で障害 等により学習面、生 活面や安全面への支 援が必要な児童生徒 に対し、特別支援教 育支援員を配置しま した。</p>	<p>とくべつ し えん ひつよう 特別な支援を必要と する児童生徒の増加 に伴い、学校からの ニーズが年々増加し ており、学校の要望 に答えきれていない 状況です。一方で、 本当に支援が必要な 学校に対して適正に 支援員を配置する 必要があります。</p>	<p>しんせい てつづ しん き 申請手続きや審査 業務等を含め、制度 の見直しに向けた検 討を進めていきま す。</p>
<p>とくべつ し えんきょういく 特別支援教育の リーダーの育成</p>	<p>きょうしよくいん とくべつ し えん 教職員の特別支援 教育に関する指導 力の向上及び校内 における特別支援 教育のリーダー育 成として、横浜国立 大学の特別支援教 育コーディネーター 養成コース派遣研 修に小学校教諭 を派遣しました。ま た、特別支援教育コ ーディネーター向け</p>	<p>こくりつとくべつ し えんきょういく 国立特別支援教育 総合研究所の派遣 研修への教員派遣 を行ったが応募が 少ないなど、さらな る調整や、派遣先の 拡充などが必要で す。</p>	<p>さらに募集対象者 を拡大したり、派遣 する研修について 拡充の検討などを 行い、内容の充実 や募集枠を拡大し、 幅広くリーダーとな る教員の養成を実 施していきます。</p>

	<p>けんしゅう みなお の研修を見直し、よ り実践的な内容を取 り入れるなど、スキ ルアップを図ってい ます。</p>		
--	--	--	--

## ◆ 教育から就労への支援

### ▶ 特別支援学校等と就労支援機関の連携強化

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
とくべつしえんがっこうしゅうろう 特別支援学校就労 支援事業	こうとうとくべつしえんがっこう 高等特別支援学校 (日野中央、二つ 橋、若葉台知的障害 教育部門)の3校に 1名ずつ就労支援 指導員を嘱託員と して配置し、各校に おける実習先開拓 や職場定着支援に 寄与しています。	せいとひとり おう 生徒一人ひとりに応 じた就労先のマッ チングや定着支援 を行うためにも、各 校の進路担当の教 員と就労支援指導 員の連携がより一層 必要となってきました。	こんご しょうがいしゃ こよう 今後の障害者雇用 率の引き上げを後押 しに、さらなる企業 就労の促進に向け て取り組んで行いま す。
とくべつしえんがっこうしんろ 特別支援学校進路 担当者連絡会の開催	しりつとくべつしえんがっこう 市立特別支援学校の 進路担当者の情報 交換や事例研究を 年間5回程度実施し、 幅広い進路選択に対 応できるようにしま した。	しんろたんどうしゃ か 進路担当者が変わっ ていく中、継続して 実施し、そのスキルを 担保する必要があり ます。	ひ つづ かくとくべつし 引き続き、各特別支 援学校間での活発な 情報交換や事例研 究を行うために、 内容の充実を図っ ていきます。

とりくみ じんざい かくほ いくせい  
**取組4-3 人材の確保・育成**

ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゅうかん ぶ かえ  
**中間振り返り**

げんじょう  
**【現状】**

ハード面での整備に関しては推進をされていますが、従事をする人材が不足をしています。そのため、関連事業者は、地方の就職セミナーや大学で人材確保のため説明会を開催しています。

かだい  
**【課題】**

どの分野でも人材不足が大きな問題となっていますが、特に福祉分野に関しては、喫緊の課題です。人材を確保し、専門性の高い人材を定着させていけるのか具体的な対策が必要となっています。

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

求職者に対して有効な広報戦略を検討するとともに、今後も民間事業者と協働して人材確保に向け、打開策を検討していきます。

しょうがいふくしじゅうじしゃ かくほ いくせい  
**◆ 障害福祉従事者の確保と育成**

しみん じぎょうしゃ む ふきゅう けいはつ  
**▶ 市民や事業者へ向けた普及・啓発**

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら 新たな3年間 の方向性
がくせいとう たいしょう 学生等を対象と した人材の確保 じぎょう 事業 ㊤	へいせい ねん ぶくし 平成27年「福祉のし ごとフェア」に関連 だんたい さんかく 団体と参画しまし た。	しょうし か しんてん 少子化が進展する なか ぶくし ぶん や かぎ 中、福祉分野に限ら ず、人材確保は喫緊 の課題であり、打開 策が必要です。	こう かけき じっし ないようとう 効果的な実施内容等 について、関係機関 とともに検討を行 います。

<p>しょうがいとくせい おう 障 害特性に応じた しえん けんしゅう 支援のための研修</p>	<p>しょうがいふくし きーびす ・障 害福祉サービス じぎょうしょどう しえんしゃ 事業所等の支援者 たい こうどうしょうがい に対し、行動 障 害に かか しえんりよくこうじょう 係る支援力向上を ほか けんしゅう 図るための研修を じっし さい 実施しました。(再 けい 掲) はったつしょうがい かん ・発達 障 害に関する いちじそうだん しえん かん 一次相談支援機関の しえん す きる こうじょう 支援スキル向上の けんしゅう じっし ため、研修 を実施し ました。(再掲)</p>	<p>けんしゅう まな 研修で学んだこと げん ぼ じっせん を現場で実践できる しく こうちくおよ いち 仕組みの構築及び一 じそうだん しえん きかん 次相談支援機関との れんけい きょう か ひつ 連携を強化する必 よう 要があります。(再 けい 掲)</p>	<p>こうどうしょうがい はったつしょう 行動障 害・発達障 がい たい けんしゅう 害に対する研修を けいぞく じっし 継続して実施してい きます。</p>
<p>いりょうじゅうじしゃけんしゅう 医療従事者研修 じぎょう さいけい 事業【再掲】㊤</p>	<p>いりょう きかん ふくし し 医療 機関や福祉施 せつどう きん む かんご 設等に勤務する看護 し たいしょう しょうに 師を対象に「小児 ほうちんかんご じゅうしょうしん 訪問看護・重症心 しんしょうがい じしゃけんしゅう 身障 害児者研修」 ぜん にちかんじっし を全11日間実施しま した。</p>	<p>けんしゅうにつすう おお い 研修日数が多く、医 りょう きかん しゃかいふくし 療 機関や社会福祉 ほうじん うんえいじょう ふ 法人の運営上の負 たん おお 担が多くなっていま す。</p>	<p>けんしゅうにつすうふく けん 研修日数含め、研 しゅうしゅほうとう かんけいだん 修手法等を関係団 たい けんとう けんしゅう 体と検討をし、研修 じっし を実施していきます。</p>
<p>しょうがいふくしせつどう 障 害福祉施設等で はたら かんごし しえん 働く看護師の支援 さいけい 【再掲】㊤</p>	<p>しゃかいふくし ほうじんがたしょう 社会福祉法人型障 がいしゃ ちいきかつどう ほーむ 害者地域活動ホーム しかいし はけん に歯科医師を派遣し、 しょくじ ぼめん 食事場面において、 しょうがいふくし げん ぼ 障 害福祉の現場に そく じよげん しどう けん 即した助言指導や研 しゅう じっし 修を実施していま す。 ちいきかつどう ほー また、地域活動ホー む たきのうがたきよてん ムや多機能型拠点で はたら かんごし たいしょう 働く看護師を対象 かいぎ かいさい とした会議を開催 かだい きょうゆう ね し、課題の共有やネ っとわーく ットワークづくりを ほか 図っています。</p>	<p>しょうがいふくし しせつどう 障 害福祉施設等で はたら かんごし てい 働く看護師の定 ちゃく む しえん 着に向けた支援を おこな 行うとともに、確 ほ ほうさく 保の方策について けんとう 検討します。</p>	<p>しょうがいふくし しせつどう 障 害福祉施設等で はたら かんごし てい 働く看護師の定 ちゃく む しえん 着に向けた支援を おこな 行うとともに、確 ほ ほうさく 保の方策について けんとう 検討します。</p>



<p>しゅうろうしえんきかん 就 労支援機関の じんざいいくせい 人材育成</p>	<p>しゅうろうしえんせんたー 就 労支援センター のあり方検討の中 で、じんざいいくせい かん で、人材育成に関する かき ないよう と る下記の内容に取り く 組むことを決めまし た。 き そ ち し き す き る ・基礎知識・スキルの せいり がくしゅう きかい 整理と学習の機会 の検討 しょうがいしゅべつけんしゅう ・障害種別研修や ほか きかん れんけい けん 他機関と連携した研 しゅう じっし 修の実施 よこはま しかいさい そうだん ・横浜市開催の相談 しえんけんしゅう さんか 支援研修への参加</p>	<p>しゅうろうしえんせんたー 就 労支援センター いがい しゅうろうしえんき 以外の就 労支援機 かん じんざいいくせい かだい 関の人材育成が課題 です。</p>	<p>しゅうろうしえんせんたー 就 労支援センター のあり方検討で打ち だ とりくみないよう 出された取組内容を ふまえ、現在実施し てい しょうがいしゃ こよう ている 障害者雇用 きぎょう における しゅう 企業における「就 ぎょうたいけん ふく じん 業体験」を含め、人 ざいいくせい し く づく 材育成の仕組み作り について検討をすす めていきます。</p>
<p>しょうがいふくしきーびす 障害福祉サービス じぎょうしょうとうしよくいんむ 事業所等 職員向け の研修</p>	<p>きぎょう だんたい きょうりよく 企業・団体の協力 のもと、市内事業所 しよくいん たいしやう じっし 職員を対象に実施 しました(毎年度6～ がつ 7月)。 へいせい ねん ど きやう 平成27～28年度協 りよく きぎょうすうるいけい 力企業数累計：40 しゃ 社 へいせい ねん ど さん 平成27～28年度参 かしゃすうるいけい めい 加者数累計：93名</p>	<p>じぎょうしよ しゅうろう む 事業所の就 労に向 けたいしきづ けた意識付けをより たか ひつよう 高める必要がありま す。</p>	<p>しゅうろうしえんきかん じん 就 労支援機関の人 ざいいくせい ふ しゅう 材育成を踏まえ「就 ぎょうたいけん じっし 業体験」を実施しつ つ、よりこうかてき けん 効果的な研 しゅうほうほう けん 修方法について検 とう 討します。</p>
<p>がいどへるばーとう ガイドヘルパー等 けんしゅうじゅこうりょうじよせい 研修受講料助成 ㊤</p>	<p>へいせい ねん ど じよせいにん 平成28年度助成人 ずう にん 数：210人 そうじよせいがく 総助成額： えん 3,759,000円 うちわけ ちてきが い ど へ 内訳：知的ガイドヘ るばー けん ぜんしんせい ルパー39件、全身性 がいどへるばー ガイドヘルパー44 けん どうこうえんごいっばんか 件、同行援護一般課 てい けん こうどうえんご 程100件、行動援護 けん 31件</p>	<p>がいどへるばーとう ガイドヘルパー等の じんざい かくほ 人材を確保していく ため、ほんせいど しゅうち 本制度の周知 を ほか おお 図り、より多くの じよせいしんせい うけつけ 助成申請を受け付け られるようにする必 よう 要があります。</p>	<p>ようこうかいせい おこな 要綱改正を行い、 へいせい ねん ど じょう 平成29年度から条 けんつ さいしんせい か 件付きで再申請を可 のう 能としました。その しゅうち ほか 周知を図ることで、 じよせいにんずう そうか 助成人数の増加と がいどへるばーとう ガイドヘルパー等の じんざいかくほ すいしん 人材確保を推進し ていきます。</p>

<p>ガイドヘルパー スキラアップ研修 ④</p>	<p>平成28年度はサービス提供責任者向けと従業者向けに分けて開催。 サービス提供責任者向け研修の受講者数：132人（全4回） 従業者向け研修の受講者数：250人</p>	<p>受講者数を確保するためにも、移動支援従事者のニーズに 応じたテーマを取り扱う必要があります。</p>	<p>サービス提供責任者及び従業者の質を更に高めていくため、受講者の増加を目指します。</p>
-----------------------------------	---	---	---

◆当事者による支援体制の充実

▶当事者団体の活動への支援

事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	課題	新たな3年間の方向性
<p>社会参加推進センターによる団体活動支援機能の充実</p>	<p>障害者の自立や社会参加等を促進するための当事者による事業を17事業実施しました。</p>	<p>当事者による社会参加等を促進する必要があります。</p>	<p>引き続き当事者による社会参加等を促進する事業を実施していきます。</p>
<p>障害者本人及び家族による普及・啓発活動の推進 【再掲】</p>	<p>横浜市障害者社会参加推進センター等により、普及啓発リーフレットの作成及び啓発講座等を実施しました。</p>	<p>地域へ障害理解の普及・啓発活動をする場が必要です。</p>	<p>横浜市社会参加推進センター等と協働して普及啓発を実施していきます。</p>



ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゅう かん ぶ かえ  
**中間振り返り**

げんじょう  
**【現状】**

ひ こようしゃ とく せいしんしやうがい ひ こようしやすう ぶ しゅうろういこうしえんじぎやうしよ  
 被雇用者、特に精神障害のある被雇用者数が増えるとともに 就労移行支援事業所が  
 ぶ いていほう へいせい ねんど ほうていこようりつ ひきあ ていちゃくしえんじぎやうかいし み こ  
 増えている一方、平成30年度には法定雇用率の引上げや定着支援事業開始が見込まれて  
 います。

へいせい ねんど しゅうろうしえん せん た - かたけんとう おこな へいせい ねんど  
 平成27年度から、就労支援センターのあり方検討を行っており、平成28年度には、  
 さべつかいしやうほうしこう こようそくしんほうかいせい おこな  
 差別解消法施行や雇用促進法改正が行われました。

かだい  
**【課題】**

げんじょう しゅうろうしえん せん た - やくわり みなお しゅうろうしえんきかんぜんたい そこあ はか  
 現状をふまえ、就労支援センターの役割を見直し、就労支援機関全体の底上げを図る  
 ひつよう きぎやう しみん りかいそくしん いっそうはか ひつよう  
 必要があります。また、企業や市民に対して理解促進を一層図る必要があります。

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

しゅうろうしえん せん た - かたけんとう しえんないよう こうじょう かんけいきかん れんけい じんざい  
 就労支援センターのあり方検討をふまえ、支援内容の向上や関係機関との連携、人材  
 いくせい とく しゅうろうしえん ねつ とわーく こうちく めぎ きぎやう しみん たい ひ  
 育成に取り組み、就労支援ネットワークの構築を目指します。また、企業や市民に対し引  
 つづ けいはつ はか  
 き続き啓発を図ります。

いっばんしゅうろう そくしん ていちゃくしえん じゅうじつ  
**◆一般就労の促進と定着支援の充実**

しゅうろうしえん せん た - とう ちゅうしん しゅうろうしえんたいせい じゅうじつ きょうか  
**▶ 就労支援センター等を中心とした、就労支援体制の充実・強化**

じぎやうめい <b>事業名</b>	じっせき <b>これまでの実績</b> へいせい ねん がつまつ <b>(平成29年3月末)</b>	かだい <b>課題</b>	あら ねんかん <b>新たな3年間</b> ほうこうせい <b>の方向性</b>
しゅうろうしえん せん た - <b>就労支援センター</b> (9か所)	かんけいきかん れんけい しやうがいしや 関係機関と連携しながら、障害者の きぎやうとう しゅうろう ていちゃくしえん すいしん 企業等への就労・定着支援を推進 するほか、27年度から 就労支援セン ねんど しゅうろうしえん せん ターのあり方について、方向性を定 かた ほうこうせい さだ めて具体的な取組の検討を行いま ぐたいてき とりくみ けんとう おこな した。また、28年度から全センター ねんど ぜん せん た - 共通の支援員向け研修を実施して きょうつづ しえんいん む けんしゅう じっし います。 ねんどまつ しえんたいしやうしやすう (27年度末の支援対象者数:4,439 めい 名)	かた けん とう あり方検討 もと に基づく具 たいてき とりくみ 体的な取組 けんとう ひつ の検討が必 よう 要です。	かたけんとう あり方検討に もと し えん 基づき、支援 ないよう ひょうじゆん 内容の標準 か ちいきれんけい 化、地域連携、 じんざいいくせい 人材育成につ ぐたいてき いて具体的な とりくみ けんとう 取組を検討し ます。

しえんしゃ すきる こうじょう  
▶ 支援者のスキルの向上

じぎょうめい 事業名	じっせき これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
しゅうろうしえんきかん 就労支援機関の じんざいいくせい さいけい 人材育成【再掲】	しゅうろうしえんせんたー 就労支援センターのあ り方検討の中で、人材育 成に関する下記の内容に 取り組むことを決めまし た。 きそちしき すきる せいり ・基礎知識・スキルの整理 がくしゅう きかい けんどう と学習の機会の検討 しょうがいしゅべつけんしゅう ほかき ・障害種別研修や他機 関と連携した研修の実 施 よこはましかいさい そうだん しえん ・横浜市開催の相談支援 研修への参加	しゅうろうしえんせん 就労支援セン ター以外の就 労支援機関の人 材を育成する必 要があります。	しゅうろうしえんせんたー 就労支援センター のあり方検討で打ち 出された取組内容を ふまえ、現在実施して いる障害者雇用企 業における「就業 体験」を含め、人材 育成の仕組み作り について検討をすすめ ていきます。

きぎょうどう しょうがいしゃこよう りかいそくしん  
▶ 企業等への障害者雇用の理解促進

じぎょうめい 事業名	じっせき これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
はたら 働きたい!あなた のシンポジウム	はたら 「働きたい!あなた のシンポジウム」を 開催(年1回)し、 当事者・御家族等に対 して就労啓発を行い ました。(27~28年度 参加者数累計:824人)	おお たいしゅう より多くの対象 者への周知方法の 検討が必要です。	ひ つづ きたら 引き続き「働きた い!あなたのシンポジ ウム」を開催(年1回) し、当事者・御家族等 に対して就労意欲の 向上を図ります。
きぎょう ふくし 企業と福祉をつな ぐセミナー	かながわけん たとし ごう 神奈川県や他都市と合 同で企業向けセミナ ーを実施しました。  ねんどるいけい 27~28年度累計:192 社	こうかてき せみ より効果的なセミ ナーの内容や対 象企業への周 知の方法を検討す る必要があります。 ひつよう す。	しえんきかん れんけい き 支援機関と連携した企 業向けセミナーを開 催していくとともに、 障害者雇用促進法の 改正に伴う精神障 害者雇用義務化や法 定雇用率の上昇に

			<p>かんじょうほうていきょう  <b>関する情報提供を  おこな  行います。</b></p>
<p>しょうがいしゃこようじれい  <b>障害者雇用事例の  しょうかい  紹介</b></p>	<p>きぎょうだんたいなどひ  <b>企業や団体等へのヒ  ありんぐおこなじゅん  アリングを行い、順  じうえぶページへのけい  次WEBページへの掲  さいおこな  載を行いました。ま  かながわけんくにき  た、神奈川県や国の機  かんじょうほうきょうゆう  関との情報共有を  おこな  行いました。  しょうかいきぎょうすうるい  紹介企業数（累  けいしやねんどまつ  計）：76社（28年度末）</b></p>	<p>こうかてきしょう  <b>より効果的な紹  かいほうほうけんとう  介の方法を検討す  る必要がありま  す。</b></p>	<p>こうかてきしょうかい  <b>より効果的な紹介の  ほうほうけんとう  方法を検討するとと  もに、引き続き、順次  うえぶページへのけい  WEBページへの掲載  をおこな  を行います。</b></p>
<p>ちゅうしょうきぎょう  <b>中小企業への  しょうがいしゃこようしえん  障害者雇用支援</b></p>	<p>けいざいだんたいなどてむ  <b>経済団体等に出向き、  てまえこうぎじっし  出前講座を実施しまし  た。  ねんどるいけいだん  27～28年度累計：6団  たいしや  体93社</b></p>	<p>けいざいきよくけんかな  <b>経済局や県、神奈  がわろうどうきよくはろー  川労働局・ハロー  わーくれんけい  ワークとの連携が  ひつよう  必要です。</b></p>	<p>きぎょうむほんふれつ  <b>企業向けパンフレッ  とさくせいこようじれい  トを作成し、雇用事例  のしょうかい  紹介とともに、支  えんきかんじよせいきん  援機関や助成金など  のじょうほうてきせつ  情報を適切に企  ぎょうはつしん  業に発信します。</b></p>

ふくしてきしゅうろう いっぱんしゅうろう いこう  
**◆福祉的就労から一般就労への移行**

しょうがいふくしきーびすじぎょうしよとう れんけいきょうか  
**▶ 障害福祉サービス事業所等との連携強化**

<p>じぎょうめい  <b>事業名</b></p>	<p>じっせき  <b>これまでの実績  へいせいねんがつまつ  （平成29年3月末）</b></p>	<p>かだい  <b>課題</b></p>	<p>あらねんかん  <b>新たな3年間  ほうこうせい  の方向性</b></p>
<p>ちいきしゅうろう  <b>地域における就労  しえんねつとわーく  支援ネットワーク  のこうちく  構築</b></p>	<p>しゅうろうしえんせんたー  <b>就労支援センター  ちゅうしん  を中心として、特別  しえんがっこうしゅうろうい  支援学校や就労移  こうしえんじぎょうしよとうかく  行支援事業所等、各  かんけいきかんれんけいすす  関係機関と連携を進  めました。</b></p>	<p>きぎょうこよう  <b>企業で雇用される  せいしんしょうがいしゃそうか  精神障害者が増加  なかに  している中での医  りょうきかんれんけい  療機関との連携が  ひつよう  必要です。</b></p>	<p>とくべつしえんがっこうしゅう  <b>特別支援学校や就  ろういこうしえんじぎょうしよ  労移行支援事業所  とう  等だけでなく、医療  きかんしゅうろうけいぞく  機関や就労継続  じぎょうしよとうれんけい  事業所等との連携を  すす  進めます。また、各区  じりつしえんきょうぎかい  自立支援協議会との  れんけいおこ  連携も行います。</b></p>

福【目標】

平成24年度実績 の福祉施設から 一般就労への 移行者数	160人	平成29年度見込 の福祉施設から 一般就労への 移行者数	360人 【平成28年度】 の実績： 県の依頼に基 づき、平成29年 度中に調査 実施予定です。	平成32年度見込 の福祉施設から 一般就労への 移行者数	781人
平成25年度末 時点での就労 移行支援事業の 利用者数	556人	平成29年度末 時点での就労 移行支援事業の 利用者数	898人 【平成28年度】 の実績：950人	平成32年度末 時点での就労 移行支援事業の 利用者数	1,949人
平成25年度実績 の就労移行支援 事業の利用者の うち就労移行率 が3割以上の 事業所の割合	36%	平成29年度見込 の就労移行支援 事業の利用者の うち就労移行率 が3割以上の 事業所の割合	41% 【平成28年度】 の実績： 県の依頼に基 づき、平成29年 度中に調査 実施予定です。	平成32年度見込 の就労移行支援 事業の利用者の うち就労移行率 が3割以上の 事業所の割合	41%

しょうがいふくしき - び す じぎょうしやとうしよくいん じんざいいくせい  
 ▶ 障害福祉サービス事業所等職員の人材育成

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間の ほうこうせい の方向性
しょうがいふくしき - び す 障害福祉サービス 事業所等 職員向け の研修	きぎょう だんたい きやうりよく 企業・団体の協力のも と、市内事業所職員を たいしやう じっし 対象に実施しました(毎 とし がつ がつ 年6月～7月)。 きやうりよく きぎょうすう るいけい 協力企業数(累計)： 40社 さん かしやすう るいけい めい 参加者数(累計)：93名	より効果的な研 修方法を検討 する必要があります ます。	しゅうろう しえん きかん じん 就労支援機関の人 材育成を踏まえ「就 業体験」を実施し つ、より効果的な研 修方法について検 討します。

中間期の現状と今後の方向性

中間振り返り

【現状】

平成27年度に共同受注センターを開設しました。また、毎年度、優先調達方針を策定し、市内の優先調達を推進しています。

【課題】

企業からの発注が少なく、就労支援施設等での工賃も低い状況です。また、在宅障害者の就業について検討が必要です。

【今後の方向性】

共同受注センターを活用し、引き続き市内に優先調達を呼びかけるとともに、企業からの発注を増やすよう周知に取り組みます。また、在宅障害者の就業について検討を行います。

◆作業の充実と工賃

▶企業等からの受注促進及び自主製品の販路拡大

事業名	これまでの実績 (平成29年3月末)	課題	新たな3年間の方向性
よこはま障害者共同受注総合センターの運営	27年度にセンターを開設しました。センターでは、市内障害者施設等の登録を進め、作業内容などの情報を集約し、WEBページで周知しました。また受注促進のため、企業訪問やパンフレットの改訂、研修や技術的指導を行いました。登録事業所数：累計251か所 企業訪問数：累計161	企業からの発注促進、受注不成立案件への対応、大量受注への対応が必要です。	受注促進のための企業開拓や販路開拓を行うとともに、受注成立件数を増やします。

	しょ か所 けんしゅうじっし かいすう るいけい 研修実施回数：累計6 かい 回 へいきんこうちん しゅうけいちゅう 平均工賃：集計中		
--	--	--	--

しょうがいしゃゆうせんちょうたつすいしんほう ちと はっちゅうそくしん  
 ▶ 障害者優先調達推進法に基づく発注促進

じぎょうめい 事業名	これまでの実績 <small>じっせき</small> <small>へいせい ねん がつまつ</small> (平成29年3月末)	かだい 課題	<small>あら ねんかん</small> 新たな3年間 <small>ほうこうせい</small> の方向性
<small>ゆうせんちょうたつすいしん</small> 優先調達推進のため <small>ちょうない けいはつ</small> の庁内への啓発	<small>まいねん ど ゆうせんちょうたつほう</small> 毎年度、優先調達方 <small>しん さくてい すぐ はつ</small> 針を策定し、優れた発 <small>ちゅうじ れい お</small> 注事例を「は～とオ <small>ーだー ーつうしん</small> ーダー通信」として <small>ちょうないらん けいさい</small> 庁内LANに掲載する <small>へいせい</small> とともに（平成27～ <small>ねん ど るいけい ごうはつ</small> 28年度 累計12号発 <small>こう ちょうないかいぎ どう</small> 行）、庁内会議等で <small>じ れい せつめい はっちゅう</small> 事例を説明し、発注 <small>そくしん</small> を促進しました。	<small>こう か てき しゅう</small> より効果的な周 <small>ち けいはつほうほう けんどう</small> 知・啓発方法を検討 <small>ひつよう</small> する必要があるいま す。	<small>ひ つづ くきょくどう</small> 引き続き、区局等の <small>すぐ はっちゅう じ れい</small> 優れた発注事例を <small>ひろ しゅうち けいはつ</small> 広く周知・啓発しま す。
<small>たいしょうじぎょうしょ かくだい</small> 対象事業所の拡大に <small>む けんどう</small> 向けた検討	<small>へいせい ねん ど けんどう</small> 平成28年度から検討 <small>おこな ねん ど</small> を行い、29年度に <small>じゅうど しょうがいしゃ たすう こ</small> 重度障害者多数雇 <small>よう じぎょうしよおよ ざいたく</small> 用事業所及び在宅 <small>しゅうぎょう し えんだんたい よこ</small> 就業支援団体、横 <small>はまし しよっ</small> 浜市ふれあいショッ <small>ぶ たいしょう ぶく</small> プを対象に含めた <small>よこはま し しょうがいしゃ し</small> 「横浜市 障害者支 <small>えん し せつとう じゆん もの</small> 援施設等に準ずる者 <small>にんてい にかかると しょうこう</small> の認定にかかる要綱 <small>さくてい</small> を策定しました。	<small>にんてい じ ぎょうしよ</small> 認定事業所への <small>ちょうないはっちゅう そくしん</small> 庁内発注を促進 <small>ひつよう</small> する必要があるいま す。	<small>ざいたくしゅうぎょうしょうがいしゃ</small> 在宅就業障害者 <small>かた じょうきょう はあく</small> の方の状況把握 <small>たいしょうかくだい</small> や、さらに対象拡大 <small>む けんどう おこな</small> に向けた検討を行 います。



しゃかいさんか きかい かくほ  
 ▶社会参加する機会の確保

これまでの実績 <small>じっせき</small> (平成29年3月末) <small>へいせい ねん がつまつ</small>	課題 <small>かだい</small>	新たな3年間の方向性 <small>あら ねんかん</small> <small>ほうこうせい</small>
<p> <small>しかくしょうがいしゃ かたとう しゃかいさん</small>                      視覚障害者の方等の社会参  <small>か てれわーく じょう</small>                      加やテレワークについて情  <small>ほうしゅうしゅう いけんこうかん おこな</small>                      報収集・意見交換を                      行いました。                 </p>	<p> <small>ざいたく かた じょうきょう はあく しゅう</small>                      在宅の方の状況把握や就  <small>ろうほうほう けんとう ひつよう</small>                      労方法を検討する必要があ                      ります。                 </p>	<p> <small>じょうほうしゅうしゅう かだいせいり</small>                      情報収集や課題整理をし  <small>ぐたいてき しくみ けんとう</small>                      つつ、具体的な仕組みを                      検討します。                 </p>



ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゅう かん ふ かえ  
**中間振り返り**

げんじょう  
**【現状】**

につちゅう さーびす かか かくしせつ やくわりとう かんけいしゃとう まじ けんとう かだいとう  
 日中のサービスに関わる各施設の役割等について、関係者等を交えた検討や、課題等の  
 きょうゆうか おこ  
 共有化を行いました。

かだい  
**【課題】**

ぞうか たようか にーず たい やくわり せいり ざいげん かくほ かだい  
 増加・多様化するニーズに対し、役割の整理や財源の確保が課題となっています。

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

ひ つづ につちゅう さーびす かか かくしせつ やくわり しさくどう かんけいしゃとう まじ  
 引き続き、日中のサービスに関わる各施設の役割や施策等について、関係者等を交えた  
 けんとう すす  
 検討を進めていきます。

につちゅうかつどうばしょ かくじゅう  
**◆ 日中活動場所の拡充**

につちゅうかつどうばしょ やくわり めいかくかおよ せっちそくしん  
 ▶ 日中活動場所の役割の明確化及び設置促進

これまでの実績 へいせい ねん がつまつ (平成29年3月末)	かだい 課題	あら ねんかん 新たな3年間 ほうこうせい の方向性
にっちゅう さーびす かか 日中のサービスに関わる かくしせつ やくわり 各施設の役割などについ て、関係者などを交えた けんとう かだい きょうゆうか 検討や、課題などの共有化 おこな を行いました。	ぞうか たようか にーず たい やくわり 増加、多様化するニーズに対し、役割を どうせいりしていくのか、財源の確保をど うするか、課題となっ ています。	ひ つづ にっちゅう さー 引き続き、日中のサー びす かか かくしせつ ビスに関わる各施設の やくわり せいり 役割や施策などについ て、関係者などを交えた けんとう すす 検討を進めていきます。

福 【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
せいかつかいご 生活介護	7,150 人分	7,759 人分	8,420 人分	7,783 人分	8,080 人分	8,417 人分
	実績: 6,956 人分	実績: 7,147 人分				
	125,140 人日	135,795 人日	147,357 人日	127,637 人日	131,598 人日	136,283 人日
	実績: 116,606 人日	実績: 118,489 人日				
じりつくんれん 自立訓練 きのうくんれん (機能訓練)	26 人分	26 人分	26 人分	30 人分	30 人分	30 人分
	実績: 29 人分	実績: 35 人分				
	422 人日	422 人日	422 人日	511 人日	511 人日	511 人日
	実績: 497 人日	実績: 603 人日				
じりつくんれん 自立訓練 (生活訓練)	191 人分	193 人分	194 人分	207 人分	222 人分	233 人分
	実績: 169 人分	実績: 192 人分				
	2,801 人日	2,829 人日	2,857 人日	3,402 人日	3,638 人日	3,874 人日
	実績: 2,784 人日	実績: 3,015 人日				
しゅうろういこう 就労移行 しえんじぎょう 支援事業	657 人分	807 人分	898 人分	1,376 人分	1,628 人分	1,949 人分
	実績: 830 人分	実績: 995 人分				
	10,911 人日	13,683 人日	15,252 人日	24,241 人日	29,130 人日	35,486 人日
	実績: 13,988 人日	実績: 16,116 人日				
しゅうろうけいぞく 就労継続 しえんじぎょう 支援事業 えーがた (A型)	670 人分	891 人分	1,141 人分	698 人分	750 人分	812 人分
	実績: 563 人分	実績: 593 人分				
	13,422 人日	17,851 人日	22,849 人日	13,994 人日	15,031 人日	16,255 人日
	実績: 11,294 人日	実績: 11,886 人日				
しゅうろうけいぞく 就労継続 しえんじぎょう 支援事業 びーがた (B型)	2,964 人分	3,507 人分	4,150 人分	4,248 人分	4,855 人分	5,551 人分
	実績: 2,846 人分	実績: 3,250 人分				
	53,365 人日	61,501 人日	72,747 人日	72,506 人日	82,283 人日	93,555 人日
	実績: 49,612 人日	実績: 55,979 人日				
ちいきかつどうしえん 地域活動支援 せんたー センター さぎょうじょがた 作業所型 (※)	189 か所	185 か所	181 か所	154 か所	154 か所	154 か所
	実績: 170 か所	実績: 158 か所				
	3,892 人	3,800 人	3,707 人	3,411 人	3,411 人	3,411 人
	実績: 3,755 人	実績: 3,499 人				
ちゅうとしょうがいしゃ 中途障害者	18 か所	18 か所	18 か所	18 か所	18 か所	18 か所
	実績: 18 か所	実績: 18 か所				

ちいきかつどう 地域活動 せんたー センター	529 人	529 人	529 人	531 人	531 人	531 人
	の 実績 :527 人	の 実績 :531 人				

※ ちいきかつどうしえんせんたーさぎょうしょかた 地域活動支援センター作業所型については、ひつようすう かくほ 必要数を確保するとともに、しょうがいふくしサービス 障害福祉サービスへのじぎょういこう 事業移行を進めていきます。

※ この表におけるひょう 単位のたんい かんが 考え方は以下のとおりです。

- ・「にんぶん かい 回数」…「げっかん 月間のりょうにんずう 利用人数」×「かいすう 回数」
- ・「にんにち 人日」…「げっかん 月間のりょうにんずう 利用人数」×「ひとりいつ げつ 一人一か月のへいきんりょうにっすう 平均利用日数」

ちゅう かん き けん しよつ こん こ ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゅう かん ぶ かえ  
**中間振り返り**

げんじょう  
**【現状】**

しょうがいじ しゃ いどう ささ せいど かくじゅう すす りようじっせき ねんねんぞうか  
 障害児・者の移動を支える制度の拡充が進み、利用実績は年々増加しています。また、移動情報センターは全区に開設し、ガイドヘルパーの養成等が進みました。

かだい  
**【課題】**

いどうしえん かん じょうほう いどうしえん ていきょう じゅうぶん がいどへるばー  
 移動支援に関する情報や移動支援の提供がまだ十分ではないこと、また、ガイドヘルパー等の担い手が不足しているなどの課題があります。

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

いどうじょうほうせんたー ぜんくてんかい いどうしえん かん じょうほうていきょう せいど りよう えんかつ  
 移動情報センターの全区展開により、移動支援に関する情報提供や制度の利用が円滑にできるようにするほか、ガイドヘルパーの確保、ガイドボランティア等地域の移動支援の担い手の発掘・育成などに取り組み、さらなる移動支援の充実を目指します。

いどうしえん じゅうじつ しゃかいさんか そくしん  
**◆移動支援の充実による社会参加の促進**

そうごうてき いどうしえんさく じっし えんかつ りよう しえん  
**▶総合的な移動支援策の実施と円滑な利用の支援**

じぎょうめい <b>事業名</b>	じっせき <b>これまでの実績</b> へいせい ねん がつまつ (平成29年3月末)	かだい <b>課題</b>	あら ねんかん <b>新たな3年間の方向性</b> ほうこうせい
いどうじょうほうせんたー うんえいとうじぎょう すいしん <b>移動情報センター運営等事業の推進</b> ㊤	いどうじょうほう 移動情報センターの まどぐち へいせい ねんど 窓口を平成28年度ま でに15区に設置し、 うんえい おこ 運営を行いました。 へいせい ねんど あら 平成29年度に新たに 3区で開設すること で、全区で展開するこ とになりました。	ほんしどくじ とりくみ 本市独自の取組でも あり、地域の障害者や かんけいまかん じゅうぶん 関係機関にまだ十分 知られていない状況 にあります。また、開 設した時期が異なる ため、区ごとに取組に 差が生じています。	ぜんくてんかい ぶ 全区展開を踏まえ、 いどうじょうほうせんたー 移動情報センターの しゅうち すす 周知をさらに進める とともに、情報の しゅうやく きょうゆうか しょくいん 集約と共有化、職員 のコーディネート のりよく こうじょう 能力の向上、 がいどボランティア など地域の移動支援 の担い手の発掘・育成 に取り組めます。

<p>ガイドヘルパー等 研修受講料助成 【再掲】 ㊂</p>	<p>平成28年度助成人数 210人 総助成額 3,759,000円 内訳 知的障害39件 全身性障害44件 同行援護一般課程 100件 行動援護31件</p>	<p>ガイドヘルパー等の 人材を確保していく ため、本制度の周知 を図り、より多くの助 成申請を受け付けら れるようにする必要 があります。</p>	<p>要綱改正を行い、平 成29年度から条件 付きで再申請を可能 としました。その周 知を図ることで、助成 人数の増加とガイド ヘルパー等の人材確 保を推進していきま す。</p>
<p>ガイドヘルパー スキルアップ 研修【再掲】 ㊂</p>	<p>平成28年度はサービ ス提供責任者向けと 従業者向けに分け て開催しました。 サービス提供責任者 向け研修の受講者 数：132人(全4回) 従業者向け研修の 受講者数：250人</p>	<p>受講者数を確保する ためにも、移動支援 従事者のニーズに応 じたテーマを取り扱 う必要があります。</p>	<p>サービス提供責任者 及び従業者の質を 更に高めていくため、 受講者の増加を目指 します。</p>
<p>効率的な車両利 用の仕組みの検討 ㊂</p>	<p>カーシェアリング(乗 合送迎)の仕組みにつ いて、検討委員会を設 置し、平成25年から 平成27年にかけて検 討を行い、報告書を 作成しました。また、 エリアを限定したモ デル走行等も実施し ました。</p>	<p>各施設で「カーシェア リング」を実施するに 当たっては、関係法令 や各種制度との整合 性を図る必要があり ます。</p>	<p>報告書にまとめた検 討結果と「カーシェア リング」の手法につい て周知を進めます。</p>
<p>難病患者外出 支援サービス事業</p>	<p>平成27年度延利用回 数:1,119回 平成28年度延利用回 数:946回 平成29年度延利用回</p>	<p>福祉有償移動サービ スとの関係性から、事 業の方向性について 議論が必要です。</p>	<p>今後、高齢者・障害 者を含めた移動支援 サービス全体のあり 方について、関係者と 協議をしていきま</p>

	すう かい みこ 数:850回 (見込み)		す。
ざいたくじゆうしょうかんじゃ 在宅重症患者 がいしゆつしえんじぎょう 外出支援事業	へいせい ねんどのべりようかい 平成27年度延利用回 すう かい 数 : 499回 へいせい ねんどのべりようかい 平成28年度延利用回 すう かい 数 : 540回 へいせい ねんどのべりようかい 平成29年度延利用回 すう かい みこ 数 : 580回 (見込み)	たいしょうしゃ たい てきせつ 対象者に対し、適切 に事業の周知を図る ひつよう 必要があります。	りようしゃ りべん 利用者にとって利便 性の高い事業となる よう、引き続き検討し ていきます。
ふくしゆうしょうんそう 福祉有償運送 じぎょう 事業	ふくしゆうしょうんそう おこな 福祉有償運送を行 うNPO法人等の登 録等や福祉有償運送 の適正な実施等につ いて協議する、福祉有 償移動サービス運営 協議会を開催しまし た。	あんぜん あんしん ゆそうさー 安全・安心な輸送サー ビスの確保に向けた 実施団体に対する支 援策を検討します。	あんぜん あんしん ふくしゆう 安全・安心な福祉有 償運送の実施を支援 します。

福 【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
いどうしえんじぎょう 移動支援事業	668,820時間分	688,978時間分	709,744時間分	724,125時間分	745,849時間分	768,224時間分
いどうかいご (移動介護・ つうがくつうしょ 通学通所 しえん 支援)	実績: 659,335時間分	実績: 682,557時間分	5,109人分	5,898人分	6,134人分	6,379人分
	4,546人分	4,819人分				
	実績: 5,105人分	実績: 5,401人分				

ちゅう かん き げん じょう こん ご ほう こう せい  
**中間期の現状と今後の方向性**

ちゅう かん ぶ かえ  
**中間振り返り**

げんじょう  
**【現状】**

とうきょうおりんぴっく ぱらりんぴっくきょうぎたいかい ひか しょうがい かた すぼーつ ぶんかかつどう  
 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、障害のある方のスポーツ・文化活動  
 たい ちゅうもく ひじょう たか  
 に対する注目が非常に高まっています。

かだい  
**【課題】**

しょうがいしゅべつ とくせい すぼーつ ぶんかかつどう とく くれべる たよう  
 障害種別による特性やスポーツ・文化活動に取り組むレベルが多様であり、それぞれの  
 に ず たいおう しえんしゃ ば じゅうぶん  
 ニーズに対応できる支援者と場が十分ではありません。

こんご ほうこうせい  
**【今後の方向性】**

すぼーつ ぶんかかつどう かんけいそしき だんたい れんけい かつどう さぼーと じんざい いくせい りよう  
 スポーツや文化活動の関係組織・団体と連携し、活動をサポートできる人材の育成と利用し  
 ば かくほ すす  
 やすい場の確保を進めます。

ぶんか げいじゅつかつどう すいしん  
**◆文化・芸術活動の推進**

げいじゅつ ぶ あ きかい さくひんはつびょう きかい かくほ  
**▶ 芸術に触れ合える機会と作品発表の機会の確保**

じぎょうめい <b>事業名</b>	じつせき <b>これまでの実績</b> へいせい ねん がつまつ (平成29年3月末)	かだい <b>課題</b>	あら ねんかん <b>新たな3年間</b> ほうこうせい <b>の方向性</b>
さんか がたあーといべ <b>参加型アートイベ                  ントの開催</b>	しょうがい かた あ 障害のある方のア ーとかつどう しえん ート活動を支援する じんざい いくせい 人材を育成すること もくてき ぶんか じ を目的とし、文化事 ぎょうぼらんでいあどう 業ボランティア等 けんしゅうかいおよ かくしゅ の研修会及び各種 わーくしょっが じゅ ワークショップを実 し 施しました。	にほんはつ ほんしどくじ 日本初で本市独自の とりくみ ぱらとり 取組であるパラトリ えんなーれ しょうがい エンナーレは障害 どうじしゃ かんけいしゃ ぶん 当事者や関係者に文 かげいじゅつかつどう いっかん 化芸術活動の一環 じゅうぶんしんどう として十分浸透し ているとは言えず、 とり おお かた ば 人でも多くの方にパ らとりえんなーれ ラトリエンナーレを し さくひん 知ってもらい作品を かんしやう 鑑賞してもらえる しえん ひつ よう支援していく必 要があります。	2020年のパ ート リエンナーレを見据 え、イベントの周知 をするとともに、障 害者の活動を支援す る人材育成の取組と 当事者が参加する文 化芸術ワークショ ップの開催を引き続 き行います。



<p>よこはま ぱらとり ヨコハマ・パトリエンナーレの開催</p>	<p>よこはま ひゅ まん ヨコハマ・ヒューマン あんどてくのらんど &amp; テクノランドにお いてパトリエンナ ーレ2014 および横 浜ランデヴープロジ ェクトで継続して実 施している 障 害 者 施設とのアート活動 について紹介しま した。</p>	<p>にほんはつ ほんしどくじ 日本初で本市独自の とりくみ ぱらとり 取組であるパトリエ ンナーレは 障 害 当事者や関係者に文 化芸術活動の一環 として十分浸透し ているとは言えず、一 人でも多くの方にパ トリエンナーレを 知ってもらい作品を 鑑賞してもらえる よう支援していく必 要があります。</p>	<p>ねん ぱらと 2020年のパト リエンナーレを見据 え、イベントの周知 をするとともに、障 害者の活動を支援す る人材育成の取組と 当事者が参加する文 化芸術ワークショップ の開催を引き続 き行います。</p>
<p>こうしゅ ず が こうさく 4校種 図画工作・ びじゅつ しよどうさくひんてん 美術・書道作品展 とくべつしえんきょういくぶもん 特別支援教育部門 ～つたえたい ぼく のおもい わたしの きもち～の開催 【再掲】</p>	<p>こうしゅ しよう ちゆう こう 4校種 (小・中・高・ とくべつしえん ようじ 特別支援) の幼児 じどうせいと さくひん いち 児童生徒の作品を一 堂に集め、市民公開 の作品展を開催し、 毎年1万人を超える 市民が来場してい ます。また、平成28 年度にはNPOの 後援を受け、展示す るパネルを新しくす ることができました。</p>	<p>さまざま ようじ じどうせいと 様々な幼児児童生徒 が参加しているにも 関わらず、会場の 駐車場が狭く、特 別支援学校のスクー ルバスの駐車及び 駐車場の確保が困 難な状況です。</p>	<p>ひ つづ こうしゅ 引き続き、4校種 (小・中・高・特別 支援) の幼児児童生 徒の作品を一堂に集 め、市民公開の作品 展を開催すること で、障 害のある子ど もの文化活動に関す る普及・啓発を図り ます。</p>

<small>じぎょうめい</small> 事業名	<small>じっせき</small> これまでの実績 <small>へいせい ねん がつまつ</small> (平成29年3月末)	<small>かだい</small> 課題	<small>あら ねんかん</small> 新たな3年間 <small>ほうこうせい</small> の方向性
<small>しょうがいしゃ げいじゆつかつ</small> 障害者の芸術活 <small>どうしえん ネットワー</small> 動支援ネットワー <small>く こうちく</small> クの構築	<small>ねんど</small> 29年度から事業化 <small>よさん はい</small> するため、予算を配 <small>ぶん</small> 分しました。	<small>ネットワー</small> クに参加 <small>さんか</small> する団体や施設と活 <small>だんたい しせつ かつ</small> 動の具体的な内容や <small>どう ぐ たいてき ないよう</small> 目標を共有する必 <small>もくひよう きょうゆう ひつ</small> 要があります。	<small>ネットワー</small> ク化を進 <small>すす</small> め、パラトリエンナ <small>ぼらとりえん</small> ーレの取組みを生か <small>れ とりくみ い</small> して各団体が持つノ <small>かくだんたい も の</small> ウハウの共有や障 <small>う はう きょうゆう しょう</small> 害者の活動をサポー <small>がいしゃ かつどう さぼー</small> トする人材の育成に <small>と じんざい いくせい</small> 取り組みます。

◆ す ぽ - つ かつどう すいしん  
スポーツ活動の推進

▶ おりんぴっく ぱらりんぴっく かいさい あ じょうほうはっしん しょうがいしゃす ぽ - つ すいしん  
オリンピック・パラリンピックの開催に合わせた情報発信や障害者スポーツの推進

<small>じぎょうめい</small> 事業名	<small>じっせき</small> これまでの実績 <small>へいせい ねん がつまつ</small> (平成29年3月末)	<small>かだい</small> 課題	<small>あら ねんかん</small> 新たな3年間 <small>ほうこうせい</small> の方向性
<small>ぱらとらいあすろん</small> パラトリアスロン <small>きょうか</small> の強化	<small>ぐりーんとらいあす</small> グリーントリアス <small>ろん せかいとらいあす</small> ロン、世界トリアス <small>ろんしりーずよこはまたい</small> ロンシリーズ横浜大 <small>かい しーさいどとらい</small> 会、シーサイドトライ <small>あすろん きょうりよく</small> アスロンに協力し <small>いぐ</small> ています。また、イグ <small>じつとはんどらー</small> ジットハンドラーの <small>じつぎけんしゅう よこはま</small> 実技研修を横浜ラ <small>ぼーる ぶーる じつ</small> ポールのプールで実 <small>し</small> 施しました。	<small>よこはまらぼーる</small> 横浜ラポールの繁忙 <small>はんぼう</small> 期に重なる大会が多 <small>き かさ たいかい おお</small> く、施設を貸し出す際 <small>しせつ か だ さい</small> に市民利用との調 <small>しみんりよう ちょう</small> 整が課題となってい <small>せい かだい</small> ます。	<small>よこはまらぼーる</small> 横浜ラポールの施設 <small>しせつ</small> を利用した、トライ <small>りよう とらい</small> アスロンスタッフへ <small>あすろんすたっふ</small> の障害者対応研修 <small>しょうがいしゃたいおうけんしゅう</small> や、横浜ラポール利 <small>よこはまらぼーるり</small> 用者に対する、トラ <small>ようしゃ たい とら</small> イアスロンへの参加 <small>い あすろん さんか</small> の案内等を行いま <small>あんないとう おこな</small> す。
<small>とくべつしえんがっこう</small> 特別支援学校にお <small>す ぽ - つ せんしゅ</small> けるスポーツ選手 <small>いくせいきょうかじぎょう</small> 育成強化事業	<small>とくべつしえんがっこう じどう</small> 特別支援学校の児童 <small>せいと たつきゅう すいせい</small> 生徒が卓球、水泳、 <small>りくじょうきょうぎ せ かいてき</small> 陸上競技で世界的 <small>たいかい しゅつじょう</small> な大会に出場する <small>しょうれいきん</small> にあたり、奨励金を <small>こうふ しょうがい</small> 交付したほか、障害 <small>しや す ぽ - つ ふ きゅう</small> 者スポーツの普及	<small>じぎょうじっし たい</small> 事業実施に対する <small>せい か こんご に - ず</small> 成果や今後の二一ス <small>けんしょう ひつよう</small> についてのさらなる <small>けんしょう ひつよう</small> 検証が必要です。	<small>ひ つつ とくべつしえん</small> 引き続き、特別支援 <small>がっこう じどうせいと せ</small> 学校の児童生徒の世 <small>かいたいかいしゅつじょう む</small> 界大会出場に向け <small>しえんとう とく</small> た支援等に取り組む <small>じぎょうないよう</small> とともに、事業内容 <small>けんしょう おこな</small> の検証を行ってい <small>きま</small> きます。

	<p>けいはつ ぎょーる 啓発のためにゴール ぼーる ぼっ ちゃ ボールやボッチャの びひん とくべつ しえんがっこう 備品を特別支援学校 せいび に整備しました。</p>		
--	--	--	--

◆レクリエーション活動の推進

▶地域におけるレクリエーション活動の普及・啓発

<p>じぎょうめい 事業名</p>	<p>これまでの実績 （平成29年3月末）</p>	<p>かだい 課題</p>	<p>あら ねんかん 新たな3年間 の方向性</p>
<p>しょうがいしゃ すぽーつ 障害者スポーツの けいはつ 啓発</p>	<p>た と し と り く み じょうほう 他都市取組の情報 しゅうしゅう すず どう 収集を進めると同 じ しょうがいしゃ すぽー 時に、障害者スポー つ たいけんかい し ないこうりつ ツ体験会を市内公立 がっこう ちゅうしん かいさい 学校を中心に開催 しました。また、横浜 まらそん きふきん マラソンの寄付金を かつよう りおぼらり 活用し、リオパラリ ん びっく しゅつじょうせんしゅ ンピック出場選手 への助成金の交付 りおぼらりんびっ や、リオパラリンピッ ク の しゃんか しゃんてん かい クの撮影を行った 写真家の写真展を開 さい、2020年に向け けいはつかつどう た啓発活動にも取り く 組みました。</p>	<p>しょうがいしゃ すぽーつ 障害者スポーツは、 しょうがい しゅべつ りは 障害の種別とリハ びりからあすりーと ビリからアスリート までの運動レベルに より、適した種目や しえんほうほう こと 支援方法が異なりま す。そのため他都市の とりくみ さんこう 取組を参考にしつ つ、今後も啓発方法 けんとう ひつよう を検討していく必要 があります。</p>	<p>じゅうど しょうがい 重度の障害のある かた たいしやう きやう 方を対象とした競 ぎ ぼっ ちゃ どう ふ 技(ボッチャ等)の普 きやう きやうぎだんたいどう 及や競技団体等の じょうほうていきやう とく 情報提供に取り組 み、重度の障害の かた すぽーつ かつ ある方のスポーツ活 どう しえん 動を支援していきま す。</p>
<p>みぢか ちいき 身近な地域におけ る障害者スポーツ の推進</p>	<p>ちゅうとしょうがいしゃ ちいまいかつ 中途障害者地域活 どうせんたー たいいくきやう 動センター、体育協 かいとう れんけい ねつ と 会等と連携しネット わーく こうちく ワークを構築してき ちいまいかつどう ひ た地域の活動を、引 つづ しえん き続き支援していま す。さらに、磯子区と</p>	<p>しょうがいしゃ みぢか ち 障害者が身近な地 域でいつでもスポー つ かつどうとう たの ツ活動等を楽しむた めには、活動をサポ と じんざい りよう トできる人材や利用 しやすい施設などの かんきやう にとの 環境が整っている</p>	<p>ひ つづ きやうぎだんたい 引き続き競技団体 やスポーツ推進委員 等を対象とした障 害特性を理解するた めの研修を実施し、 ちいまいかんきやうせいび 地域の環境整備に と 取り組んでいきま</p>

	<p>港南区で新たなネットワークの構築に取り組んでいます。また、障害者スポーツの周知活動、スポーツボランティア養成講座や初級障害者スポーツ指導員研修会等の実施を通して、支援者・指導者の人材育成を進めています。</p>	<p>必要があります。人材育成のノウハウを有する横浜ラポールが、競技団体・スポーツ推進委員等の組織やスポーツ施設を管理運営する体育協会と、地域の公園施設とともに事業を展開し、地域の環境整備をより効果的に進めることが重要です。</p>	<p>す。</p>
--	--	--	-----------

健康づくり環境の整備 <<再掲>>

<p>これまでの実績 (平成29年3月末)</p>	<p>課題</p>	<p>新たな3年間 の方向性</p>
<p>障害者スポーツの周知活動、スポーツボランティア養成講座や初級障害者スポーツ指導員研修会等の実施を通して、支援者・指導者の人材育成を進めています。</p>	<p>障害者が身近な地域でもスポーツ活動等を楽しむためには、活動をサポートできる人材や利用しやすい施設などの環境が整っている必要があります。人材育成のノウハウを有する横浜ラポールが、競技団体・スポーツ推進委員等の組織やスポーツ施設を管理運営する体育協会と、地域の公園施設とともに事業を展開し、地域の環境整備をより効果的に進めることが重要です。</p>	<p>引き続き競技団体やスポーツ推進委員等を対象とした障害特性を理解するための研修を実施し、地域の環境整備に取り組んでいきます。</p>